

令和3年度
地域交流拠点清田の機能向上に向けた
調査検討業務
報告書

令和4年3月
株式会社 GLOCAL DESIGN

目次

1章 業務概要	1
1-1 業務の目的	1
1-2 業務の内容	1
2章 地域交流拠点清田の現状と課題.....	3
2-1 地域交流拠点清田の現状.....	3
2-2 地域交流拠点清田に関連する取組.....	9
2-3 地域交流拠点清田の特性と課題.....	10
2-4 関連する国の政策等.....	12
3章 地域交流拠点清田の機能向上に向けた清田区民アンケート調査.....	13
3-1 アンケート調査の概要.....	13
3-2 アンケート調査結果.....	15
3-3 アンケート調査結果からの考察.....	51
4章 きよた暮らしラボ（意見交換会）の企画・運営.....	53
4-1 きよた暮らしラボ（意見交換会）の目的.....	53
4-2 令和3年度きよた暮らしラボ（意見交換会）の流れ.....	53
4-3 参加者の募集.....	54
4-4 きよた暮らしラボ（意見交換会）ワークショップの実施と結果.....	55
4-5 ニュースレターの作成.....	113
5章 地域交流拠点清田における機能向上案の検討	117
5-1 機能向上案検討の考え方.....	117
5-2 地域交流拠点清田の将来の姿.....	118
5-3 機能向上を進める3つの展開方針.....	119
5-4 地域交流拠点清田の機能向上案.....	120
6章 地域交流拠点清田に求められる今後の取組.....	128
6-1 今年度の主な成果.....	128
6-2 地域交流拠点清田における今後の進め方.....	130

1章 業務概要

1-1 業務の目的

札幌市では、平成28年に策定した「第2次札幌市都市計画マスタープラン」において、市内17か所に位置付けている地域交流拠点のうち「清田」を先行的に取り組む拠点の一つとして掲げ、短期的は公共交通サービスの利便性向上に努め、将来的には拠点機能向上のための効果的な取組を展開していくこととしている。

これを受け、令和3年2月に策定した「地域交流拠点清田の拠点機能向上に向けた官民連携によるまちづくりの基本的な考え方」においては、今後の取組として、清田区役所周辺における恒常的なにぎわいや交流の創出に向けた効果的な手法を検討することとしている。

一方、国土交通省では、昨今の新型コロナ危機を踏まえた今後の都市政策の在り方として、令和2年8月に「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」（論点整理）を公表したところであり、ここでは、「ウォークアブルなまちづくり、ゆとりある緑とオープンスペースの充実についての重要性が高まっており、これを一層推進すべく、様々なオープンスペースを柔軟に活用しつつ、ネットワークを形成することでウォークアブルな空間を充実させることが重要」との方向性が示されている。

本業務は、地域交流拠点清田の機能向上に向けて、新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性を踏まえた上で、地域住民などの意識や意向を調査しながら効果的な手法を検討することを目的とする。

1-2 業務の内容

(1) アンケート調査の実施

無作為に抽出した清田区の市民1,500人を対象とし、アンケート調査を実施した。対象の生活行動を調査することで、市民が地域交流拠点などを訪れる目的及び移動手段の実態、訪れる場所における歩くことについての意識、動機付けとなるもの等を把握した。

(2) きよた暮らしラボ（意見交換会）の企画・運営

地域交流拠点清田の機能強化について、地域住民と意見交換を行った。意見交換会は全4回実施し、地域交流拠点清田のまちづくりにおける将来像や来年度以降に地域で試行的に取り組めそうな活動の実施、もしくはその検討につながるものとした。

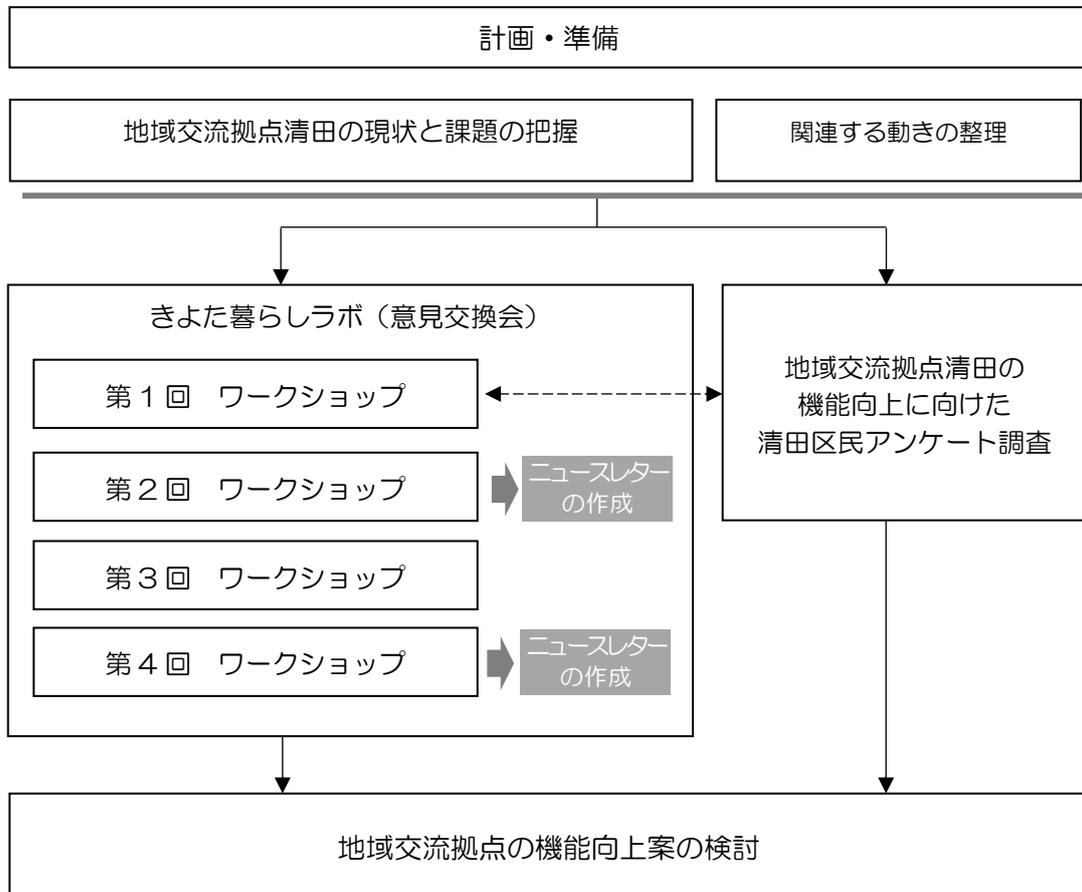
意見交換会実施後はニュースレターを発行し、意見交換会の開催結果等を地域住民等へ周知した。

(3) 機能向上案の検討

アンケート調査や意見交換会の開催結果等を踏まえ、地域交流拠点清田における恒常的なにぎわいや交流の創出に向けた効果的な手法について、具体的な案の作成を行った。

■業務フロー

業務は以下のフローのとおりである。



令和4年度は上記の意見交換の内容を踏まえ、市民交流広場などで実証イベントを実施

2章 地域交流拠点清田の現状と課題

2-1 地域交流拠点清田の現状

(1) 地域交流拠点清田の概要

札幌市では、平成28年に都市づくりの指針である「第2次札幌市都市計画マスタープラン」を策定し、その中で地域の豊かな生活を支える中心的な役割を担う拠点として市内17カ所を「地域交流拠点」として位置付けている。地域交流拠点では、にぎわいや交流が生まれる場の創出、区役所などの公共機能や商業・業務・医療・福祉の多様な都市機能の集積、多様な機能を身近に利用するための居住機能の促進などを進めている。

清田区においては、清田区役所周辺を地域交流拠点とし、市内17カ所の拠点の中でも「選考的に取組を進める拠点」の一つとして位置付けている。

地域交流拠点清田の現状と方向性(札幌市第2次都市計画マスタープランより)

<現状>

拠点の中心には区役所・消防署・図書館で構成される清田区総合庁舎が立地し、その周辺には商業施設や病院などの機能が集積しています。

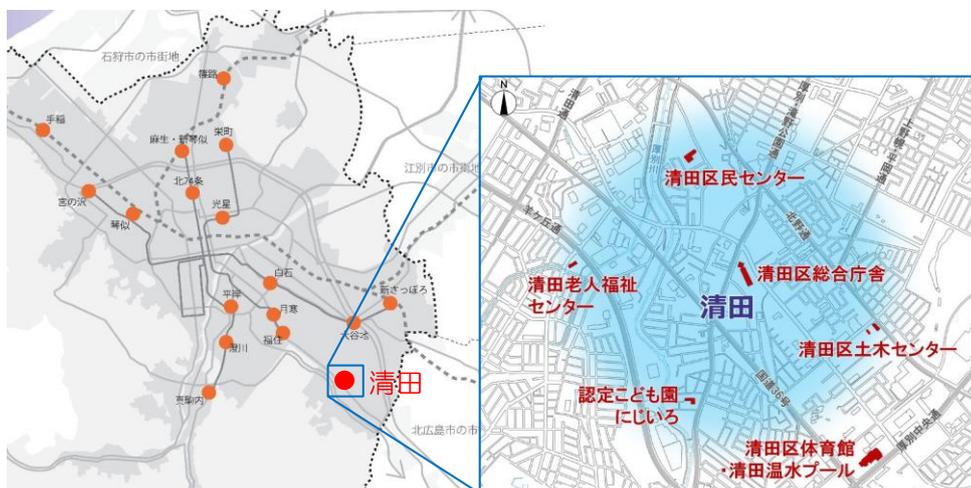
また、清田区には軌道系公共交通機関がなく、最寄り地下鉄駅までのルートを中心にバスネットワークが形成されています。

<方向性>

短期的には、バス待ち環境の改善など、公共交通サービスの利便性向上に努めます。将来的には、拠点機能の向上のために効果的な取組を展開していきます。

(2) 位置

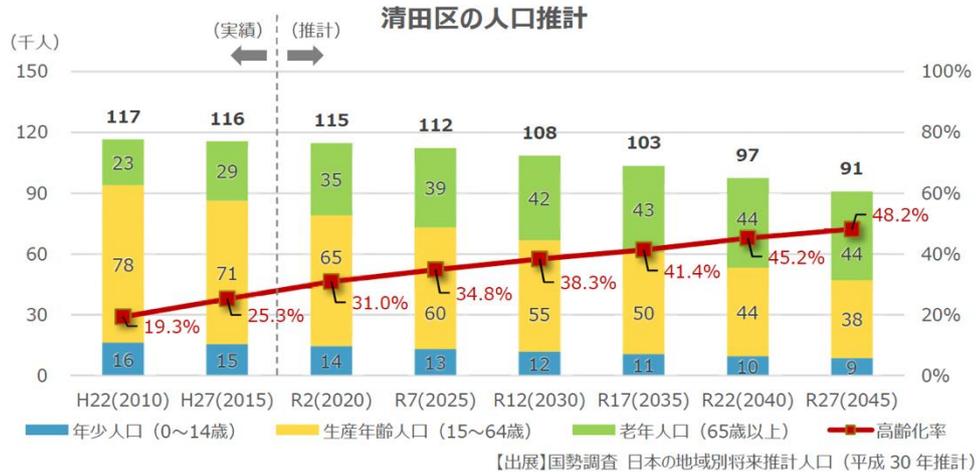
清田区総合庁舎を中心とする地域交流拠点清田は、札幌都心から南東約10kmに位置しており、『清田』及びその周辺には、区民センターや土木センター、老人福祉センター、認定こども園、体育館等の市有施設が立地している。



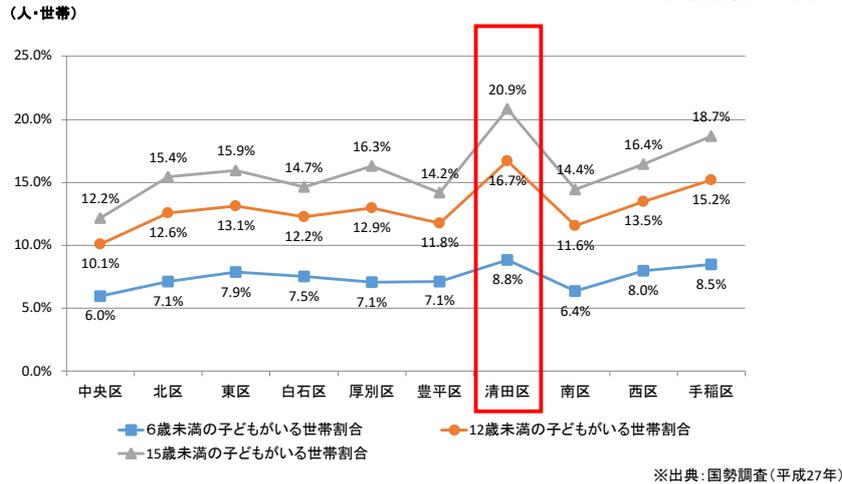
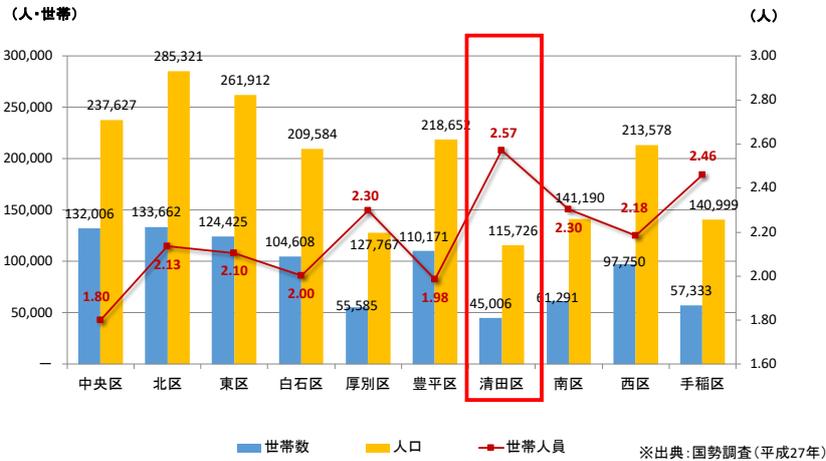
地域交流拠点(第2次札幌市都市計画マスタープラン)

(3) 人口

地域交流拠点清田を含む、清田区の人口は、清田区の人口は既に減少に転じており、令和22年には10万人を下回ると推計されている。また、高齢化率は全市の値よりも高く、将来的には、南区、厚別区に次ぐ3番目の高さになると推計されており、札幌市の中でも高齢化が顕著な区の一つになることが見込まれている。



一方、清田区は、子育て世帯の割合が最も高く、15歳未満（中学生以下）の子どもがいる世帯は全体の2割以上となっている。清田区は、全市の中で総世帯数が最も少ないものの、世帯あたりの子どもの人数が最も多くなっており、他の区に比べ、子育て世帯や夫婦世帯が住む割合多いことが伺える。



(4) 歴史

清田区の中心部はかつて「あしりべつ」と呼ばれており、明治6年(1873年)に月寒開拓団の一員であった長岡重治が「あしりべつ」へ居住したのが最初の入植と言われている。その後、明治34年(1901年)頃、清田、真栄、北野の厚別川周辺の稲作と平岡、里塚、有明の畑作が定着してから集落として成り立つようになり、旧集落は厚別(アシリベツ:現在の清田、北野、平岡、真栄を総称)、三里塚(現在の里塚)、公有地(現在の有明)と呼ばれていた。

明治24年(1891年)に吉田善太郎らが厚別川に用水路を建設し(吉田用水)、また大正10年(1921年)頃から平岡、里塚ではリンゴ栽培が始まり、稲作技術の改良も進み、厚別川の周辺には水田が広がり、酪農も畑作地帯で始まっていった。

昭和36年(1961年)に豊平町と札幌市が合併したことで、都市化が進み、新興住宅街としての発展が進んだ。かつてのあしりべつの開拓と発展の歴史を後世に伝えていくため、昭和55年(1980年)に旧清田出張所の建物を利用し、かつての地区の統一名称を冠した「あしりべつ郷土館」を開館した。

(5) 自然環境

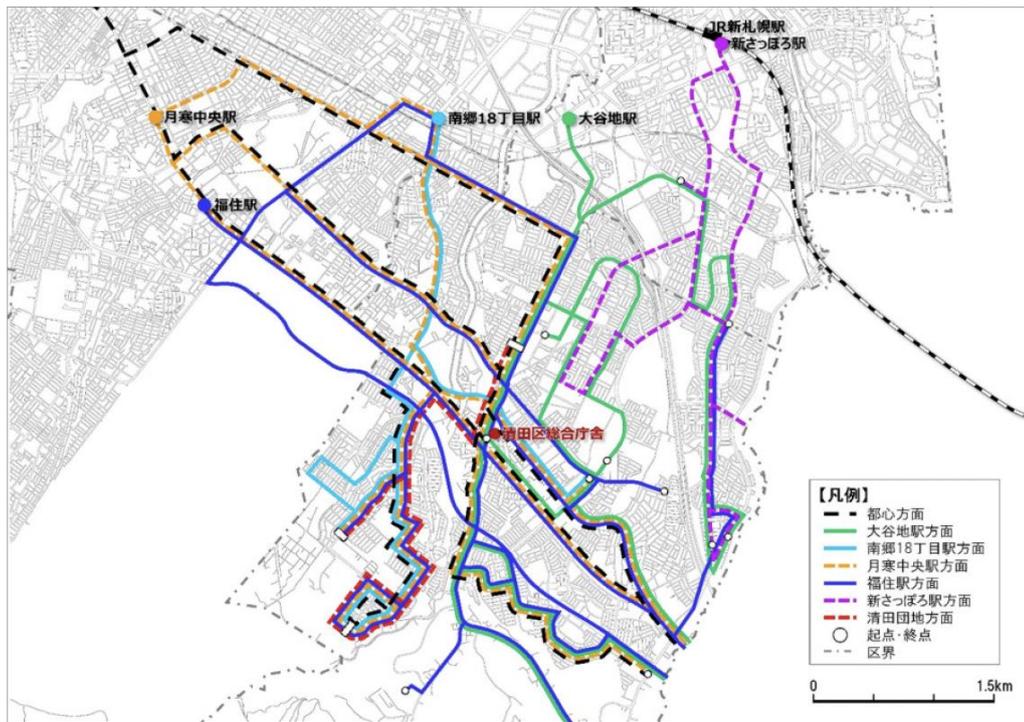
清田区には、総合公園としてモエレ沼公園(東区)、円山公園(中央区)に次ぐ面積を有する平岡公園や、白旗山を有する市最大の市有林がある。また、地域交流拠点清田の区域内には、清田公園や清田緑地があり、夏の豊かなみどりや秋の紅葉など、四季折々の表情で区民の目を楽しませている。清田区における市街化区域内の緑被率は市内で2番目に高く、みどり豊かな環境は、清田区の特徴の一つとなっている。

また、清田区内を流れる厚別川は、清田区のシンボルであり、稲作・畑作や用水路(吉田用水)などまちの発展の歴史と深く関わっている。遊歩道は区民の憩いの場となっており、散歩やランニングをする区民も多く見られている。また、NPO団体等による環境保全活動や子どもたちへの環境教育の取組が実施されるなど、市民活動の場としても活用されている。

(7) 公共交通機関

清田区内の公共交通は、軌道系交通機関がなく、バスが中心的な役割を担っている。区内のバス路線は、その多くが地下鉄東豊線福住駅や地下鉄東西線大谷地駅などの区近傍の地下鉄駅と接続しているほか、都心に至る路線も運行されている。

清田区総合庁舎はバス交通の結節点ともなっており、都心や地下鉄駅に至るための公共交通の重要な拠点とも言える。



清田区内から都心方面及び最寄りの地下鉄駅への接続状況
令和2年10月時点

(8) 区民主体のまちづくり活動

清田区のまちづくりについて区民が集まって話し合い、考え、行動する場として、各地区町内会連合会をはじめさまざまな団体の代表者などが集まる「きよたまちづくり区民会議」が行われている。区民会議では、各団体の情報を全体の情報として共有し、行政と連携しながらまちづくりを進めている。

きよたまちづくり区民会議では、清田区のまちづくりのための意見交換が行われ、そのアイデアをもとにさまざまな活動が実行されている。区民がまちづくりについて考え、意見交換を行う「きよた区民フォーラム」や区内のまちづくり活動を連携させ、スノーキャンドルを同時開催する「まちの灯り in きよた」、きよた地元農家や区内の企業・飲食店・団体による販売などを行う「きよたマルシェ」などがあげられる。

きよたまちづくり区民会議では区内の企業や大学との連携も進められており、区民会議のメンバーとして北海道コカ・コーラボトリング株式会社や札幌国際大学の教授などが入っている。きよたマルシェなどのイベントでは、それらの企業や大学に加え、区内の農家、飲食店やスイーツ店などとも連携を図っている。



きよたまちづくり区民会議の様子



きよたマルシェ

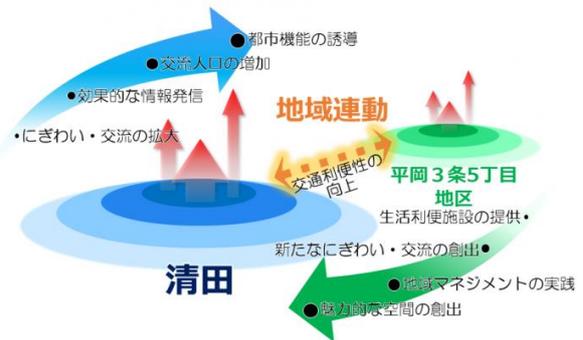


きよフェス



2-2 地域交流拠点清田に関連する取組

令和3年に検討した「地域交流拠点清田の拠点機能向上に向けた官民連携によるまちづくりの基本的な考え方」では、地域交流拠点清田の拠点機能の向上を図るためには、周辺地域にも視野を広げながら、地域の方々や各種団体・企業などの多様な主体と連携し、民間の活力を積極的に活用する新たな取組の推進が必要であるとしている。



民間事業者との意見交換から、イオンモール札幌平岡（平岡3条5丁目地区）において、施設の機能強化により、区民の方々の利便性を更にも高める取組を検討したいとの意向が示された。このことから、平岡3条5丁目地と地域交流拠点清田が連携してまちづくりに取り組むことにより、互いに魅力を高め合う“地域連動”が図られ、地域交流拠点清田におけるにぎわい・交流の創出や民間開発の誘発などにつながることを期待されている。

現在、平岡3条5丁目地区では、地域交流拠点清田の拠点機能向上に資するまちづくりを目指し、地域のイベントなどに活用できる広場・ホールの整備や、緑地を活用した人と自然が触れ合える空間の整備など、更なるにぎわいや交流を創出するための機能強化に向けた検討が進められている。



2-3 地域交流拠点清田の特性と課題

(1) 地域交流拠点清田の特性

1) まちの顔としての清田総合庁舎

きよたまちづくり区民会議での議論でも、清田総合庁舎周辺は清田区のまちの顔としてにぎわいや情報の拠点であるべきという考えから、総合庁舎前の市民交流広場で「きよたマルシェ」や「きよフェス」を開催してきた。また、地域交流拠点の中心である清田区総合庁舎は、区内の主要な交通手段であるバス交通の拠点となっている。

清田総合庁舎はまちの顔としての役割があり、地域交流拠点清田の中心を担う場所である。

2) あしりべつ発祥の歴史

「あしりべつ」という地名は、清田の開拓の中心となったかつての清田地区、北野地区、平岡地区周辺の名称であり、区民にとって親しみと思い入れのある大切な名称である。あしりべつの歴史を伝えるあしりべつ郷土館の周辺は、あしりべつの地名の由来となったとされる厚別川が流れ、清田の歴史的に重要な役割を果たす吉田用水跡が残っているなど、まちの歴史や郷土愛を育む、まちのシンボルと言える大切なエリアとなっている。

3) 子育て世代の割合が多く、教育・子育て支援機能が集積

清田区は市内の他の区と比べ、子どもを持つ世帯の割合が多いことが特徴である。清田区総合庁舎には、保健センターやこそだてインフォメーション「きよつちる一む」などがあり、地域交流拠点清田周辺には、清田小学校や保育園、認定こども園なども立地しており、教育や子育て支援の機能が多く集積している。

また、子どもたちを対象として、あしりべつの歴史を学ぶ場や厚別川における環境学習の取組なども多くある。

4) 公共空間、公園・河川などのオープンスペースの有効活用

清田総合庁舎に隣接した市民交流広場では、「きよたマルシェ」や「きよフェス」、区内のお祭りなどが開催され、併設されたステージでは、区内の子どもたちのダンスや小中高校生の音楽の発表などが行われている。

また、清田公園や清田緑地、厚別川遊歩道など、豊かな自然を感じられるスペースも多く、現在でも区民の憩いの場、ウォーキングやランニングなどのリフレッシュの場として活用されている。

市民交流広場や緑地は区民の交流とにぎわい創出の場として有用であり、みどり豊かな清田区ならではの交流を生み出す可能性がある。

5) 商業エリアとしてのイオンモール札幌平岡

イオンモール札幌平岡は、区民の買い物やレクリエーションの拠点となっている。地域交流拠点清田からイオンモール札幌平岡までは、徒歩で22分、路線バスの場合5～10分程度で行き来することができる。周囲には各方面とアクセスする複数の路線バスの停留所があり、区内の各地域から比較的アクセスしやすい環境が形成されている。

さらに、イオン北海道㈱では、独自の無料送迎バスにより路線バスが通らない地域を運行するなど、周辺地域と地域交流拠点清田とのアクセス性を高める取組を行なっている。

イオンモール札幌平岡と連携することで、地域交流拠点清田の機能向上がさらに効果的になることが考えられる。

6) 地域の方々・企業・団体など多様な主体の存在

清田区では、きよたまちづくり区民会議を中心として区内のまちづくり活動のネットワークが既に構築されており、実際に「きよたマルシェ」や「きよフェス」など清田区総合庁舎を中心とした情報発信や賑わいづくりの取組が行われている。また、町内会や子ども会、厚別川やあしりべつの歴史などをテーマとした活動団体なども活発に活動している。

そのような団体同士のネットワーク構築の場、実際に活動する場として地域交流拠点清田が活用されることも考えられる。

(2) 地域交流拠点清田の課題

1) 公共空間の活用不足

地域交流拠点清田では、清田区総合庁舎前の市民交流広場や清田緑地、厚別川など、清田区ならではのみどりや潤いを感じながら憩うことのできる良好な公共空間やオープンスペースがあり、イベントなどで利用されている。一方で、区民の日常的な活用までは至っておらず、日常的なにぎわい創出に向けた取組が求められる。

2) 清田区総合庁舎から区民センターまでの一帯性不足

地域交流拠点清田の顔となる清田区総合庁舎とあしりべつの歴史を感じるエリアである区民センターやあしりべつ郷土館、厚別川は、地域交流拠点清田の範囲内でありながら、一帯としてのつながりを感じる事が難しい。

3) 区民の足となる公共交通の利便性不足

区内の主要な交通はバス交通であり、複数のバス路線が通っているが、本数が少ないことなどから、区民から利便性の低さがあげられている。地域交流拠点清田の中心となる清田区総合庁舎と清田区民センター周辺やイオンモール札幌平岡など他の地区を結ぶ、使いやすい新たな交通が求められる。

2-4 関連する国の政策等

(1) 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（令和2年 国土交通省）

令和2年に国土交通省より公開された「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」から、地域交流拠点清田に求められる視点として、以下の2つを整理した。

1) テレワークの進展による「地元生活圏」の形成

テレワークの進展により、どこでも働ける環境が整い、働く場と居住の場が融合した。働くにも住むにも快適な環境、ゆとりあるスペースへのニーズが高まった。そのため、複数の用途が融合した職住近接に対応するまちづくりを進める必要がある。特に郊外や地方都市は、居住の場、働く場、憩いの場といったさまざまな機能を備えた「地元生活圏」の形成を推進する必要がある。

老朽ストックのサテライトオフィス等へのリニューアルやゆとり空間や高性能な換気機能を備えた、良質なオフィスの提供促進が重要である。

2) 地域の多様なニーズに対応する柔軟なオープンスペースの活用

自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として運動不足の解消・ストレスの緩和の効果が得られる場としてグリーンインフラとしての緑やオープンスペースの重要性が再認識された。グリーンインフラとしての効果を戦略的に高めていくことが必要であり、ウォークアブルな空間とオープンスペースを組み合わせるネットワークを形成することが重要である。

また、街路空間、公園・緑地、水辺空間、民間空地など、まちに存在するさまざまな緑とオープンスペースについて、テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが必要である。

3章 地域交流拠点清田の機能向上に向けた 清田区民アンケート調査

3-1 アンケート調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、地域交流拠点清田の機能向上に向け、その生活行動を調査することで、市民が地域交流拠点などを訪れる目的及び移動手段の実態、訪れる場所における歩くことについての意識、動機付けとなるもの等を把握するために実施した。

(2) 調査概要

- ・調査時期 令和3年9月29日～令和3年10月20日
- ・調査対象 清田区民 1,500名（無作為抽出）
- ・調査方法 郵送による調査票の配布及び回収・WEBフォームでの回答
- ・調査項目

1.あなた自身のことについて

性別／年齢／お住まい／同居家族／通勤・通学地／職業／自家用車の所有状況

2.平日・休日の過ごし方について

通勤通学について／通勤・通学手段／通勤・通学の道中で立ち寄る場所／平日に訪れる場所／休日に訪れる場所

3.地域交流拠点清田及びその周辺の拠点などの利用について

拠点の利用について／目的ごとの外出

4.日ごろの健康づくりに対する意識について

日ごろの健康づくりに対する意識／日ごろの健康づくりのためにしていること／平日・休日における歩行時間／平日・休日における運動時間／コロナ禍における健康づくりへの意識／歩きたくなる・訪れたくなる環境

5.地域活動に対する意識について

地域活動に対する価値観／地域活動で参加したいと思うテーマ／地域活動を行う上であったらいいと思う機能

6.清田区役所周辺の拠点づくりについて

清田区役所周辺の拠点づくりに対するご意見／ワークショップ（意見交換会）の参加意向

(3) 回収結果

- ・アンケート発送数 1,500 件
- ・アンケート回収数 677 件
- ・回収率 45.1%

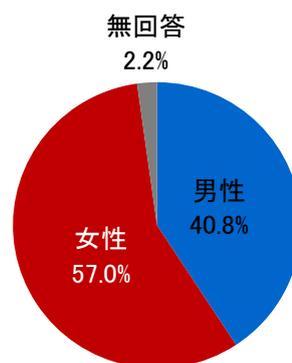
3-2 アンケート調査結果

1. あなた自身のことについて

1, あなたの性別について次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

女性は6割弱、男性は4割強という結果となった。

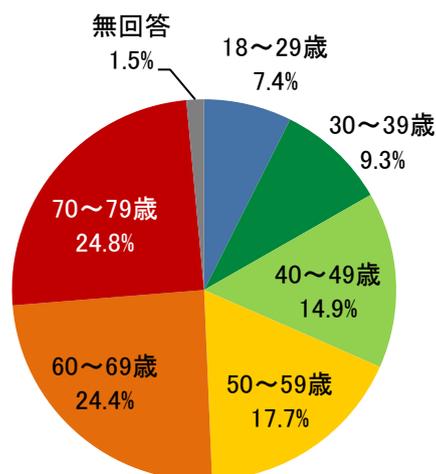
選択肢	回答数	
男性	276	40.8%
女性	386	57.0%
その他	0	0.0%
無回答	15	2.2%
合計	677	100.00%



2, あなたの年齢について次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

70～79歳が最も多く3割弱、次いで60～69歳は2割強という結果となった。一方、18～29歳、30～39歳は1割弱であった。

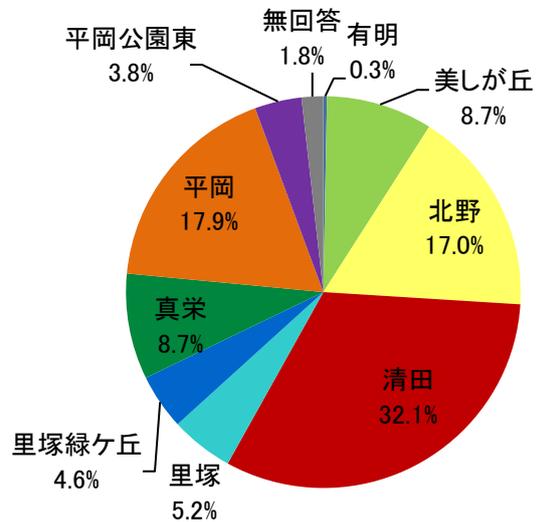
選択肢	回答数	
18～29歳	50	7.4%
30～39歳	63	9.3%
40～49歳	101	14.9%
50～59歳	120	17.7%
60～69歳	165	24.4%
70～79歳	168	24.8%
無回答	10	1.5%
合計	677	100.0%



3. あなたのお住まいの地区についてお答えください。次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

清田が最も多く3割強という結果となった。次いで平岡と北野は2割弱、真栄と美しが丘は1割弱であった。

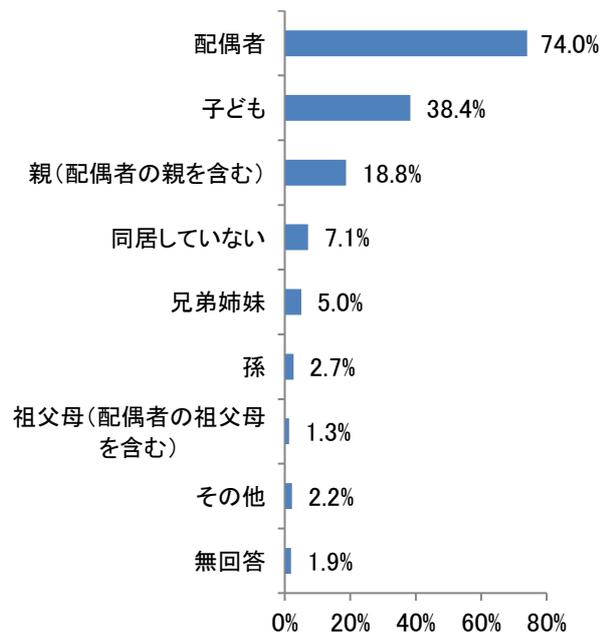
選択肢	回答数	
有明	2	0.3%
美しが丘	59	8.7%
北野	115	17.0%
清田	217	32.1%
里塚	35	5.2%
里塚緑ヶ丘	31	4.6%
真栄	59	8.7%
平岡	121	17.9%
平岡公園東	26	3.8%
無回答	12	1.8%
合計	677	100.0%



4. あなたと同居する方について次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけてください。

配偶者と同居している割合が最も多く約7割という結果となった。次いで、子どもと同居しているが4割弱、親（配偶者の親を含む）と同居しているが2割弱であった。

選択肢	回答数	
配偶者	501	74.0%
子ども	260	38.4%
親（配偶者の親を含む）	127	18.8%
同居していない	48	7.1%
兄弟姉妹	34	5.0%
孫	18	2.7%
祖父母（配偶者の祖父母を含む）	9	1.3%
その他	15	2.2%
無回答	13	1.9%
回答者数	677	100.0%



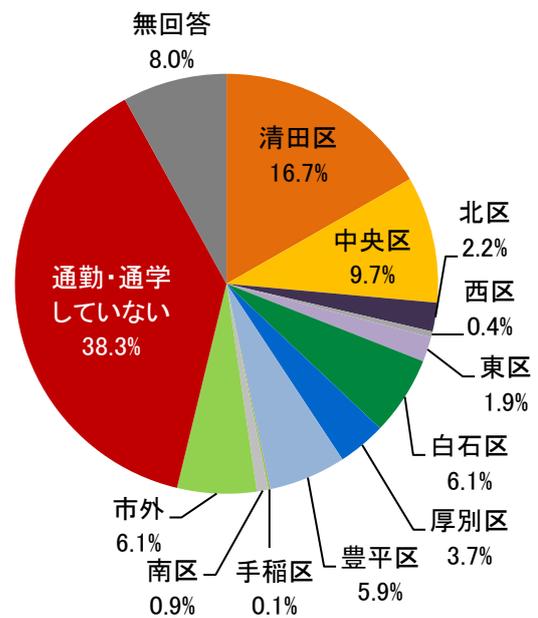
【子ども・孫がいると回答したうち、15歳以下の子ども・孫がいる世帯数・人数】

選択肢	世帯数	15歳以下の子どもの人数
15歳以下の子どもがいる世帯数	113（全回答者の19.6%）	171
15歳以下の孫のいる世帯数	21（全回答者の3.1%）	16

5. あなたの通勤・通学する地域についてお答えください。次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

通勤・通学していないが約4割で最も多く、次いで清田区が2割弱という結果となった。

選択肢	回答数	
通勤・通学していない	259	38.3%
清田区	113	16.7%
中央区	66	9.7%
白石区	41	6.1%
市外	41	6.1%
豊平区	40	5.9%
厚別区	25	3.7%
北区	15	2.2%
東区	13	1.9%
南区	6	0.9%
西区	3	0.4%
手稲区	1	0.1%
無回答	54	8.0%
合計	677	100.0%



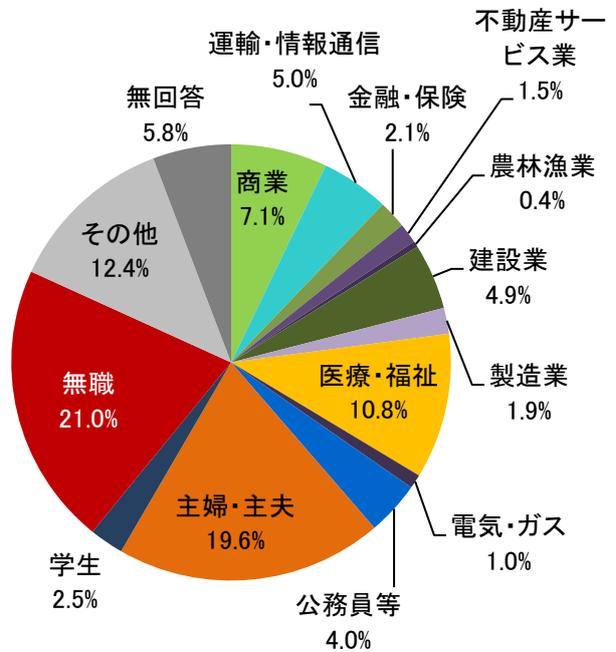
【その他の回答】

市外（恵庭市、北広島市、江別市、小樽市、石狩市、東京都、千歳市）

6. あなたの職業についてお答えください。次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

無職が約2割と最も多く、次いで僅差で主婦・主夫という結果となった。他にも、医療・福祉、商業が約1割であった。

選択肢	回答数	
無職	142	21.0%
主婦・主夫	133	19.6%
医療・福祉	73	10.8%
商業	48	7.1%
運輸・情報通信	34	5.0%
建設業	33	4.9%
公務員等	27	4.0%
学生	17	2.5%
金融・保険	14	2.1%
製造業	13	1.9%
不動産サービス業	10	1.5%
電気・ガス	7	1.0%
農林漁業	3	0.4%
その他	84	12.4%
無回答	39	5.8%
合計	677	100.0%



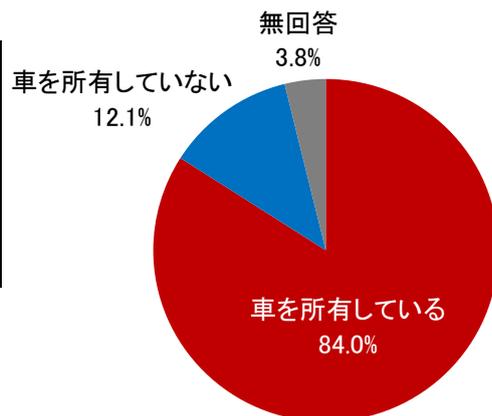
【その他の回答】

清掃業、教育、商社、会社員、施設管理、リフトマン、コールセンター、派遣員、団体職員、自営業、暖房設備、パート・アルバイト、警備員、建設コンサルタント、個人タクシー、公衆浴場、印刷業、道路設計士、派遣、シンクタンク、IT、機械整備、教員（非常勤）、サービス業、調理員、スポーツ指導、レンタル業、犬の訓練士、保育士、美容師

7. あなたの世帯の自家用車の所有状況について次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

車を所有している世帯が約8割、車を所有していない世帯は約1割という結果となった。

選択肢	回答数	
車を所有している	569	84.0%
車を所有していない	82	12.1%
無回答	26	3.8%
合計	677	100.0%

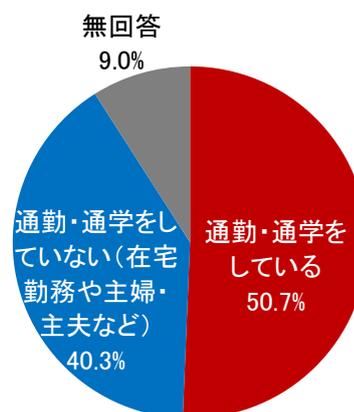


2. 平日・休日の過ごし方について

1, 通勤・通学について次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

通勤・通学をしている方が約5割、通勤・通学をしていない（在宅勤務や主婦・主夫など）方が約4割という結果となった。

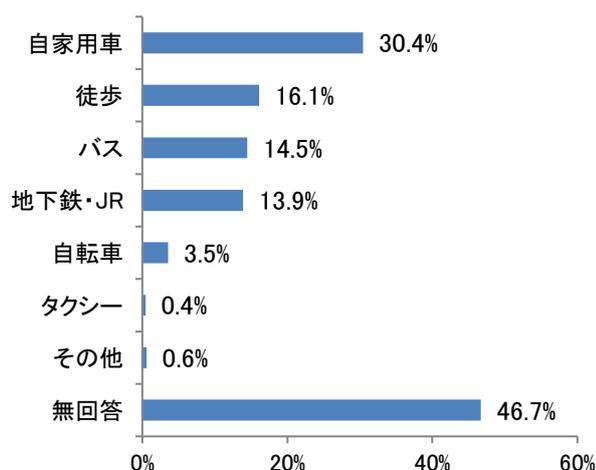
選択肢	回答数	
通勤・通学をしている	343	50.7%
通勤・通学をしていない（在宅勤務や主婦・主夫など）	273	40.3%
無回答	61	9.0%
合計	677	100.0%



2, 問2-1において、「通勤・通学をしている」とお答えの方に伺います。通勤・通学に用いる交通手段を次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけ、その片道の所要時間もお答えください。

自家用車が約3割と最も多い結果となった。徒歩は2割弱、バス、地下鉄・JRは約1割程度であった。

選択肢	回答数	
自家用車	206	30.4%
徒歩	109	16.1%
バス	98	14.5%
地下鉄・JR	94	13.9%
自転車	24	3.5%
タクシー	3	0.4%
その他	4	0.6%
無回答	316	46.7%
回答者数	677	100.00%



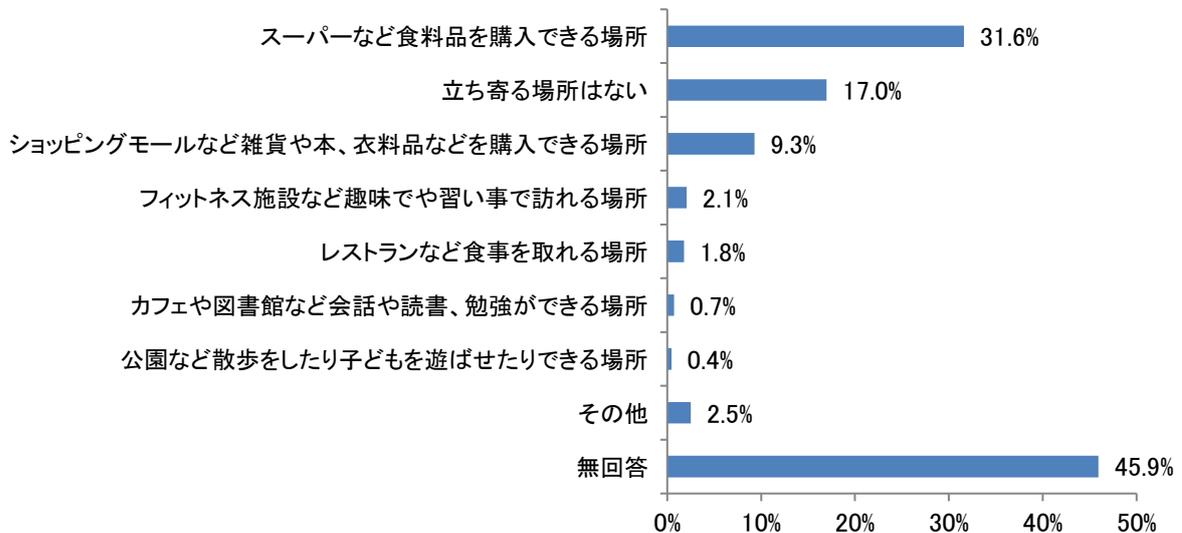
【その他の回答】

社用車

3, 通勤・通学の道中で立ち寄る場所がありますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけ、その頻度もお答えください。

スーパーなど食料品を購入できる場所が最も多く 3 割強、次いで、立ち寄る場所はないが 2 割弱という結果となった。

選択肢	回答数	
スーパーなど食料品を購入できる場所	214	31.6%
立ち寄る場所はない	115	17.0%
ショッピングモールなど雑貨や本、衣料品などを購入できる場所	63	9.3%
フィットネス施設など趣味や習い事で訪れる場所	14	2.1%
レストランなど食事を取れる場所	12	1.8%
カフェや図書館など会話や読書、勉強ができる場所	5	0.7%
公園など散歩をしたり子どもを遊ばせたりできる場所	3	0.4%
その他	17	2.5%
無回答	311	45.9%
回答者数	677	100.0%



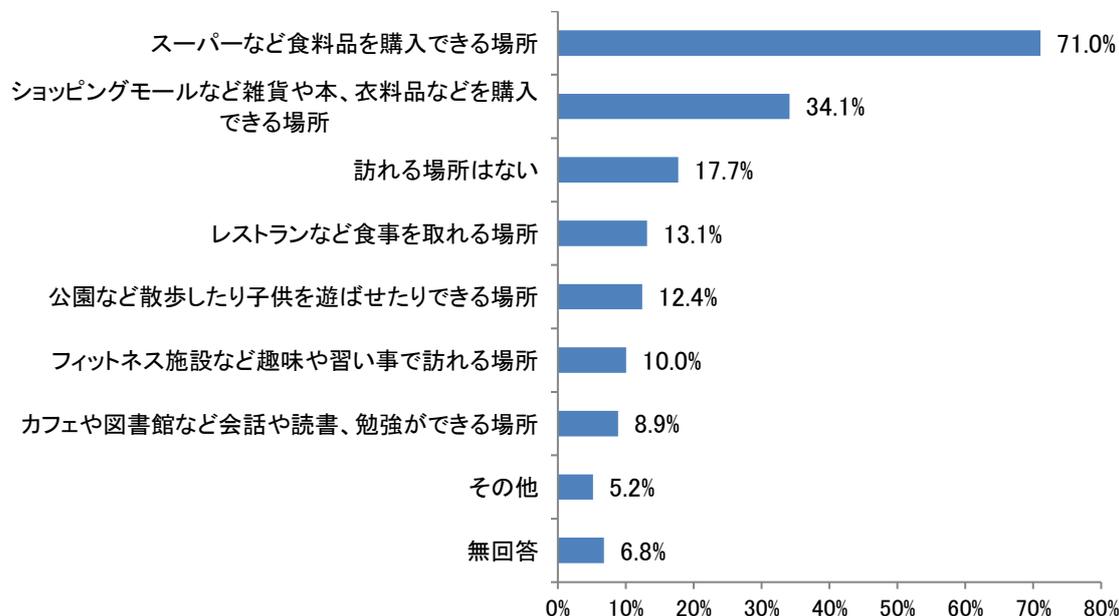
【その他の回答】

コンビニ、ドラッグストア、子供の保育園

4、通勤・通学以外で平日に訪れる場所がありますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけ、その頻度もお答えください。

スーパーなど食料品を購入できる場所が最も多く約7割、次いでショッピングモールなど雑貨や本、衣料品などを購入できる場所が約3割という結果となった。

選択肢	回答数	
スーパーなど食料品を購入できる場所	481	71.0%
ショッピングモールなど雑貨や本、衣料品などを購入できる場所	231	34.1%
訪れる場所はない	120	17.7%
レストランなど食事を取れる場所	89	13.1%
公園など散歩したり子供を遊ばせたりできる場所	84	12.4%
フィットネス施設など趣味や習い事で訪れる場所	68	10.0%
カフェや図書館など会話や読書、勉強ができる場所	60	8.9%
その他	35	5.2%
無回答	46	6.8%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】

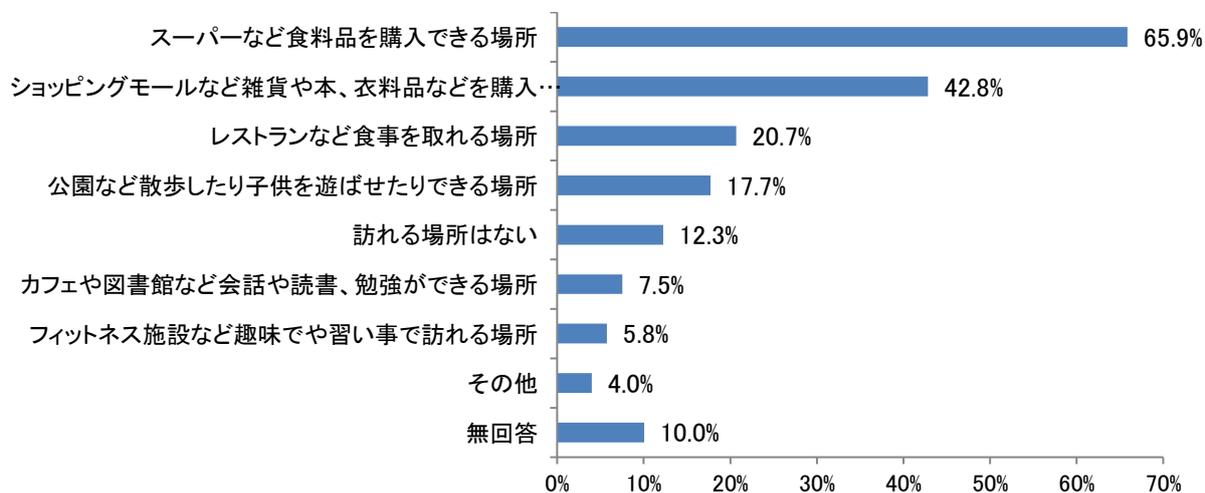
病院、銀行、郵便局、コンビニ、公園、ドラッグストア、接骨院、区役所、パークゴルフ、映画館、美術館、取引先、介護施設、老人ホーム、実家、ホームセンター、習い事

5. 休日に訪れる場所がありますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけ、その頻度もお答えください。

スーパーなど食料品を購入できる場所が最も多く 7 割弱、次いでショッピングモールなど雑貨や本、衣料品などを購入できる場所が約 4 割という結果となった。

その他、レストランなど食事を取れる場所は 2 割強、公園など散歩したり子供を遊ばせたりできる場所は 2 割弱という結果であった。

選択肢	回答数	
スーパーなど食料品を購入できる場所	446	65.9%
ショッピングモールなど雑貨や本、衣料品などを購入できる場所	290	42.8%
レストランなど食事を取れる場所	140	20.7%
公園など散歩したり子供を遊ばせたりできる場所	120	17.7%
訪れる場所はない	83	12.3%
カフェや図書館など会話や読書、勉強ができる場所	51	7.5%
フィットネス施設など趣味や習い事で訪れる場所	39	5.8%
その他	27	4.0%
無回答	68	10.0%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】

接骨院、実家、サイクリングロード、ウォーキング、ニセコ別荘、銭湯、コンビニ、病院、ホームセンター、山（登山）、ふれあいの森、ドラックストア

3. 地域交流拠点清田及びその周辺の拠点などの利用について

1, 拠点の利用頻度や交通手段、利用目的を教えてください。各拠点に対して当てはまるものを選んで、○印にチェックをつけてください。

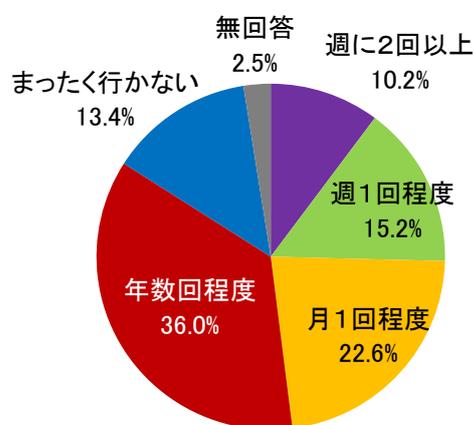
頻度は、清田と新さっぽろが年数回程度が最も多く 4 割弱、福住と大谷地は全く行かないが最も多く、福住は約 3 割、大谷地では約 4 割であった。

交通手段はすべてのエリアでマイカー・シェアカーが最も多く、清田は約 6 割、福住、大谷地は約 3 割、新さっぽろは約 4 割であった。福住と大谷地はバスの利用者も多く、約 2 割が利用している。

また、利用目的はすべてのエリアで買い物が最も多い結果となった。

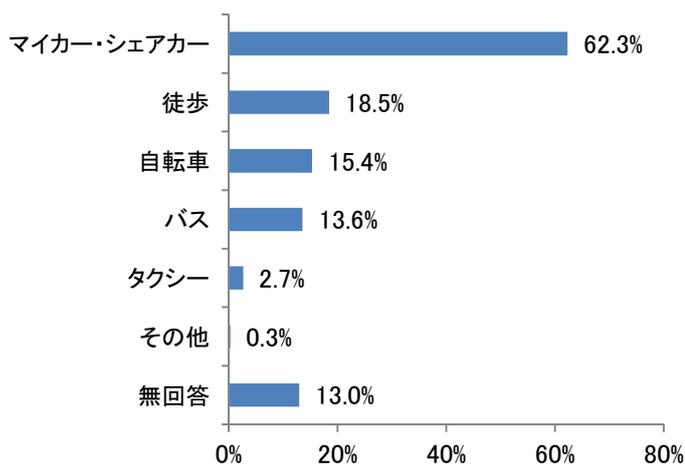
①清田-1：頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	69	10.2%
週1回程度	103	15.2%
月1回程度	153	22.6%
年数回程度	244	36.0%
まったく行かない	91	13.4%
無回答	17	2.5%
合計	677	100.0%



①清田-2：交通手段（当てはまるものすべて）

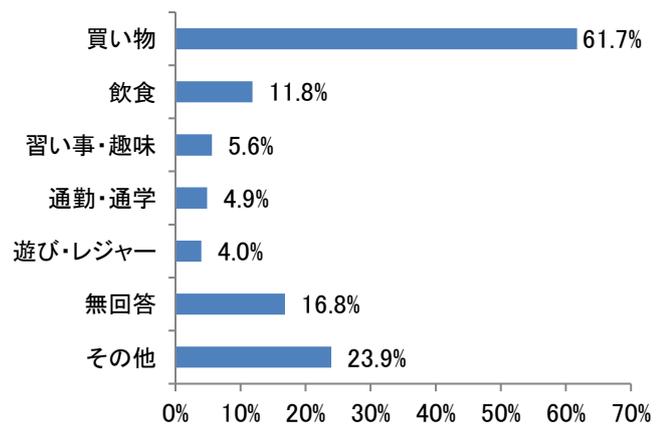
選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	422	62.3%
徒歩	125	18.5%
自転車	104	15.4%
バス	92	13.56%
タクシー	18	2.7%
その他	2	0.3%
無回答	88	13.0%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】 ヘルパーの車

①清田-3：目的（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
買い物	418	61.7%
飲食	80	11.8%
習い事・趣味	38	5.6%
通勤・通学	33	4.9%
遊び・レジャー	27	4.0%
その他	162	23.9%
無回答	114	16.8%
回答者数	677	100.0%

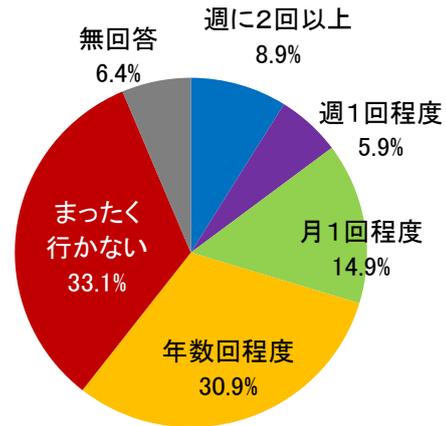


【その他の回答】

銀行、あいワーク、区役所、通院、図書館、会議、病院、散歩、ディーラー、神社、選挙、段ボール廃棄、ガソリンスタンド、子供の送迎、親戚、郵便局

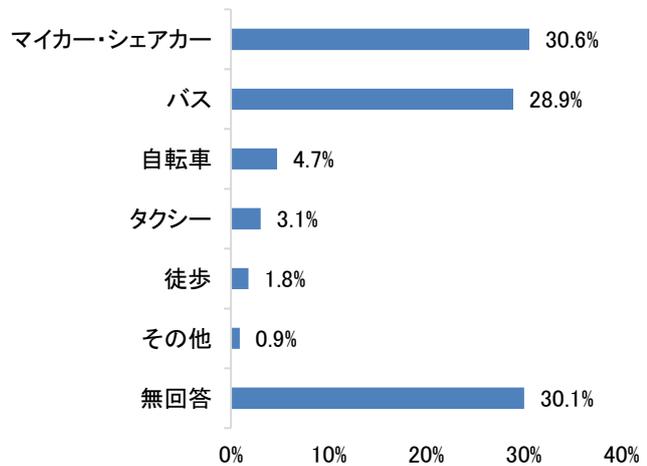
②福住-1：頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	60	8.9%
週1回程度	40	5.9%
月1回程度	101	14.9%
年数回程度	209	30.9%
まったく行かない	224	33.1%
無回答	43	6.4%
合計	677	100.0%



②福住-2：交通手段（当てはまるものすべて）

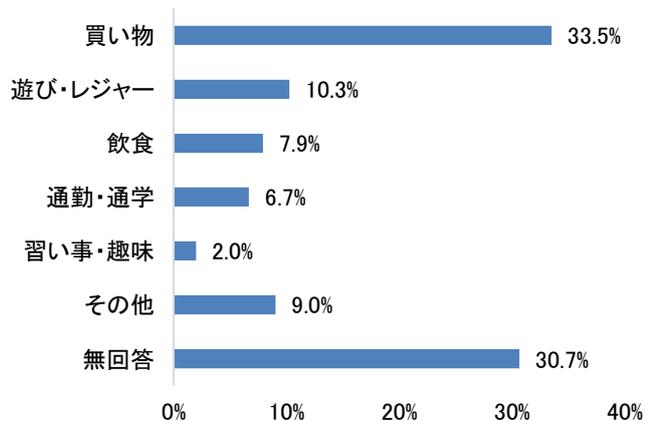
選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	240	30.6%
バス	227	28.9%
自転車	37	4.7%
タクシー	24	3.1%
徒歩	14	1.8%
その他	7	0.9%
無回答	236	30.1%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】 ヘルパーの車、車で送迎、地下鉄

②福住-3：目的（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
買い物	271	33.5%
遊び・レジャー	83	10.3%
飲食	64	7.9%
通勤・通学	54	6.7%
習い事・趣味	16	2.0%
その他	73	9.0%
無回答	248	30.7%
回答者数	677	100.0%

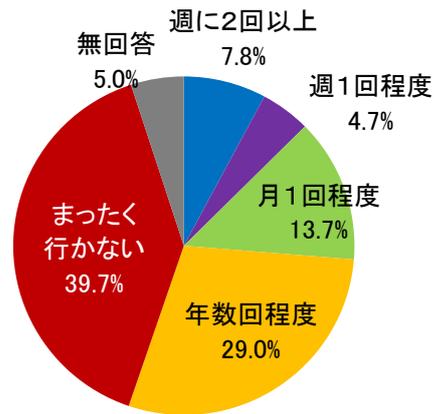


【その他の回答】

ハローワーク、子供の送迎、通院、実家、地下鉄利用、会議、スポーツ観戦、カーディーラー、銀行、郵便局、仕事、札幌ドーム、介護施設

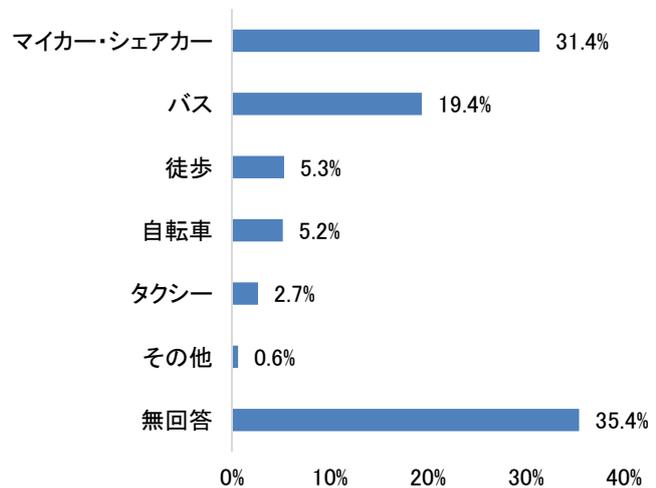
③大谷地-1：頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	53	7.8%
週1回程度	32	4.7%
月1回程度	93	13.7%
年数回程度	196	29.0%
まったく行かない	269	39.7%
無回答	34	5.0%
合計	677	100.0%



③大谷地-2：交通手段（当てはまるものすべて）

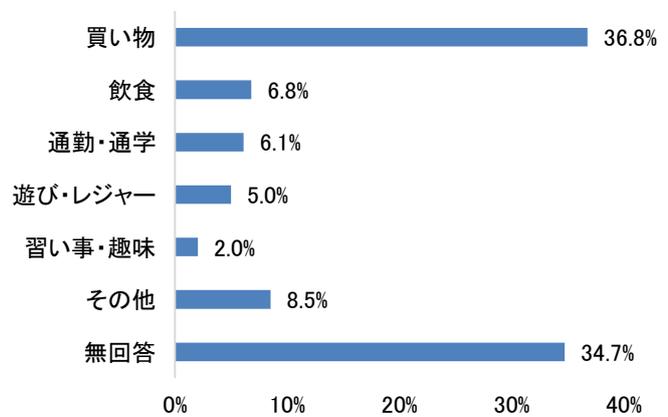
選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	248	31.4%
バス	153	19.4%
徒歩	42	5.3%
自転車	41	5.2%
タクシー	21	2.7%
その他	5	0.6%
無回答	280	35.4%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】地下鉄

③大谷地-3：目的（当てはまるものすべて）

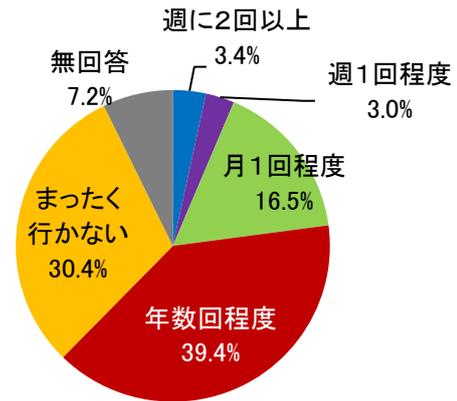
選択肢	回答数	
買い物	324	36.8%
飲食	60	6.8%
通勤・通学	54	6.1%
遊び・レジャー	44	5.0%
習い事・趣味	18	2.0%
その他	75	8.5%
無回答	306	34.7%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】バス利用、地下鉄利用、病院、送迎、散歩、親戚用事、会議、美容院、納骨堂、銀行、アルバイト、クリニック、郵便局

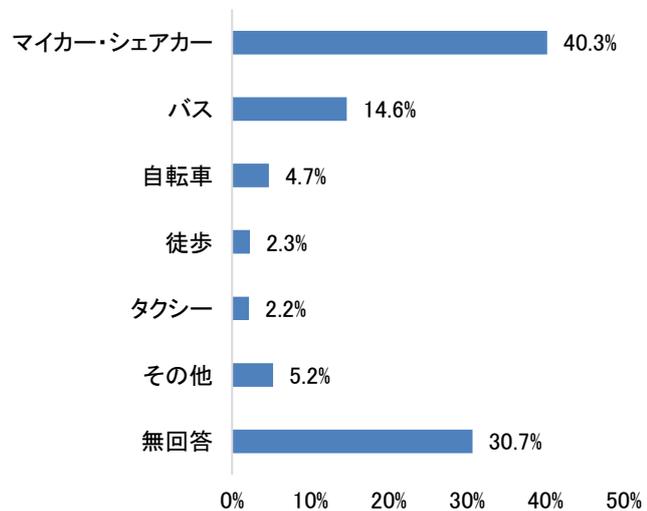
④新さっぽろ-1：頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	23	3.4%
週1回程度	20	3.0%
月1回程度	112	16.5%
年数回程度	267	39.4%
まったく行かない	206	30.4%
無回答	49	7.2%
合計	677	100.0%



④新さっぽろ-2：交通手段（当てはまるものすべて）

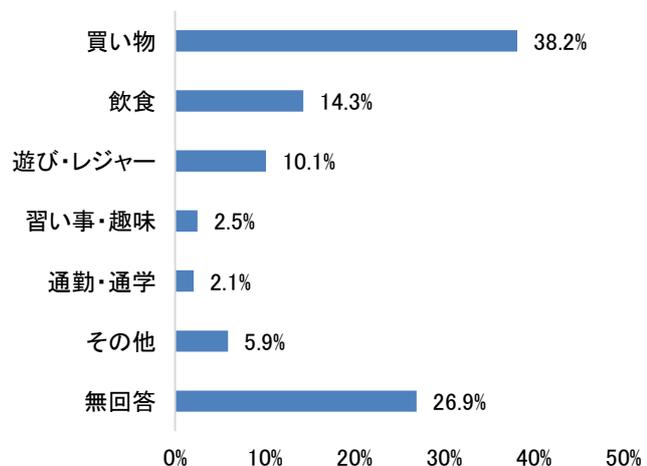
選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	316	40.3%
バス	115	14.6%
自転車	37	4.7%
徒歩	18	2.3%
タクシー	17	2.2%
その他	41	5.2%
無回答	241	30.7%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】地下鉄、車で送迎

④新さっぽろ-3：目的（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
買い物	350	38.2%
飲食	131	14.3%
遊び・レジャー	93	10.1%
習い事・趣味	23	2.5%
通勤・通学	19	2.1%
その他	54	5.9%
無回答	247	26.9%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】病院、送迎、地下鉄利用、ウォーキング、自動車免許更新、親戚用事、美容院、銀行、コロナワクチン接種、参拝

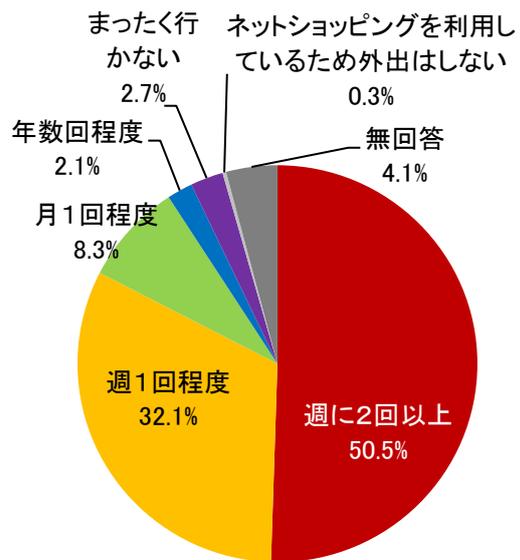
2. 目的ごとに外出する頻度や交通手段、利用するお店や公園などを教えてください。各目的に対して当てはまるものを選んで、○印にチェックをつけてください。

①買い物（生鮮食品などの食料品や日用品や生活雑貨※）

生鮮食品などの食料品や日用品や生活雑貨を購入するために外出する回数は、週に2回以上が最も多く約5割という結果となった。主に利用する場所は、イオンモール平岡が3割弱で最も多く、その他のスーパー、ドラッグストアなども上位にあがった。また、交通手段はマイカー・シェアカーが6割強と最も多い結果であった。

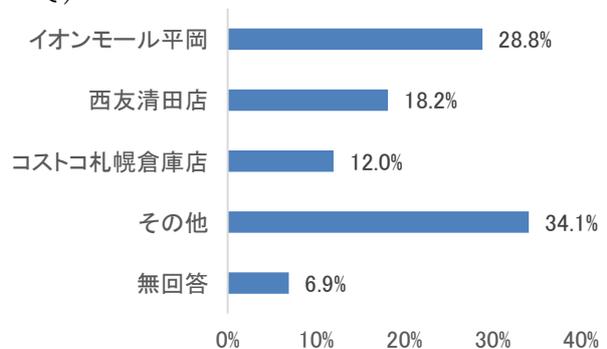
①-1：外出する頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	342	50.5%
週1回程度	217	32.1%
月1回程度	56	8.3%
年数回程度	14	2.1%
まったく行かない	18	2.7%
ネットショッピングを利用しているため外出はしない	2	0.3%
無回答	28	4.1%
合計	677	100.0%



①-2：主に利用する場所（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
イオンモール平岡	313	28.8%
西友清田店	197	18.2%
コストコ札幌倉庫店	130	12.0%
その他	370	34.1%
無回答	75	6.9%
回答者数	677	100.0%

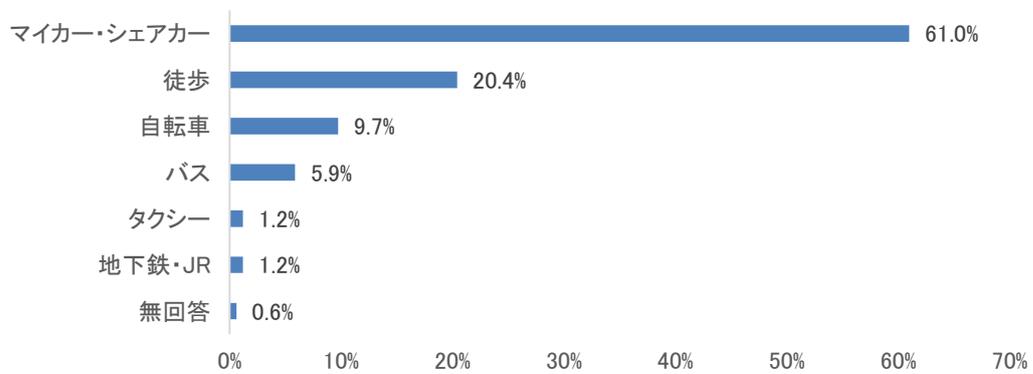


【その他の回答】

スーパーアークス北野店・大曲店、東光ストア平岡店・大谷地店・真栄店・コープさっぽろ平岡店・ルーシー店、ラルズ北野店、ツルハドラッグ北野店・清田店・真栄店・里塚緑ヶ丘店、マックスバリュート北野店・厚別店、産直生鮮市場北野店・平岡店・大曲店、ダイイチ清田店、卸売スーパー清田店・平岡店、ラッキー清田店・平岡店、サツドラ清田2条店・美しが丘店、フードD平岡店・美しが丘店、TSUTAYA美しが丘店、カインズ北広島店、ルーシー大谷地店、ビックハウス里塚店、西友福住店、サンドラッグ平岡店、ホームック北野店、業務スーパー清田店・上野幌店、ザ・ビック西岡店、イオンモール平岡店、三井アウトレットパーク、トライアル月寒店、ドンキホーテ、くるるの杜、アリオ札幌店、イトーヨーカドー、イオン新札幌、セイコーマート、ビバホーム、りんごハウス、サンピアザ、ルミネ平岡店、ニトリ、八紘学園、ローソン平岡店、コーチャンフォー、セブンイレブン

①-3：交通手段（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	508	61.0%
徒歩	170	20.4%
自転車	81	9.7%
バス	49	5.9%
タクシー	10	1.2%
地下鉄・JR	10	1.2%
無回答	5	4.3%
回答者数	677	100.0%

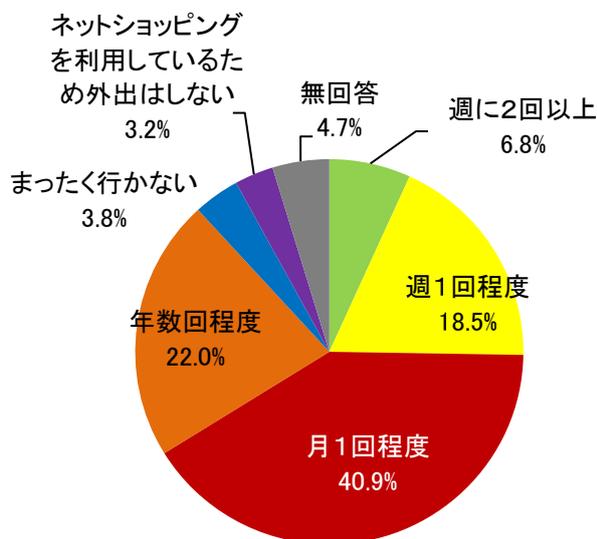


②買い物（衣類や書籍、趣味のものなど）

衣類や書籍、趣味のものなどを購入するために外出する回数は、月に1回程度が最も多く約4割であった。主に利用する場所は、イオンモール平岡が5割弱で最も多く、交通手段はマイカー・シェアカーが約6割と最も多い結果となった。

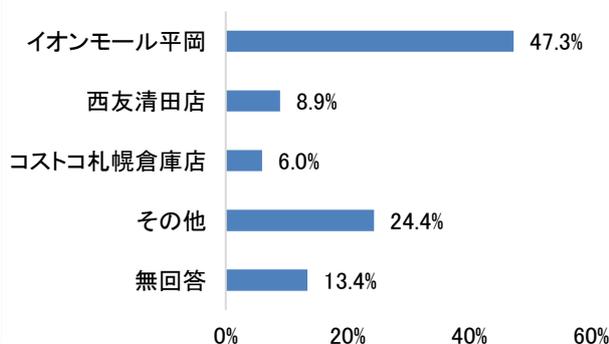
②-1：外出する頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	46	6.8%
週1回程度	125	18.5%
月1回程度	277	40.9%
年数回程度	149	22.0%
まったく行かない	26	3.8%
ネットショッピングを利用しているため外出はしない	22	3.2%
無回答	32	4.7%
合計	677	100.0%



②-2：主に利用する場所（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
イオンモール平岡	419	47.3%
西友清田店	79	8.9%
コストコ札幌倉庫店	53	6.0%
その他	216	24.4%
無回答	119	13.4%
回答者数	677	100.0%

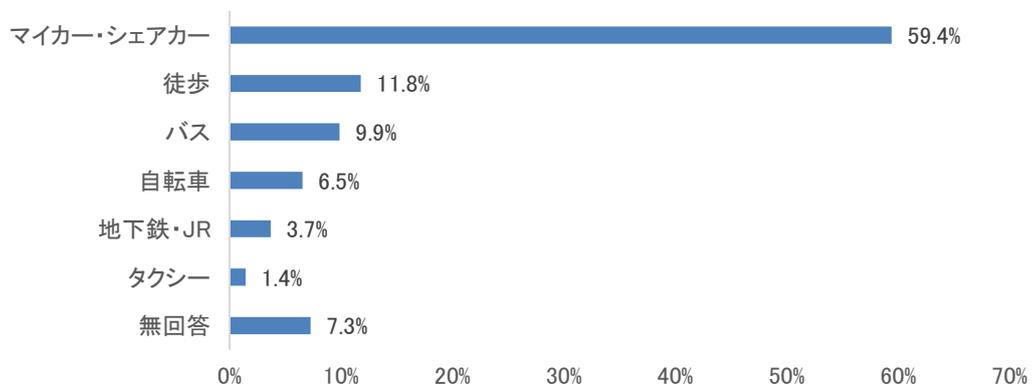


【その他の回答】

コーチャンフォー美しが丘店、TSUTAYA 美しが丘店、BOOKOFF 南2条店・美しが丘店、新札幌サンピアザ、キャポ大谷地、ルーシー大谷地店・白石店、文教堂北野店、ホームック北野店、GEO 北野店、しまむら、ユニクロ真栄店・清田店、サンキ、ヤマダ電機清田店、紀伊国屋書店、フォーエル、丸井今井、カテプリ新札幌、東光ストア平岡店・真栄店、アリオ札幌、フィッシュランド、スーパーアークス北野店、ラッキー、GU、ドンキホーテ平岡店、イトーヨーカドー福住店、セカンドストリート、西松屋、アベイル北野店、BOOKOFF プラス美ヶ丘店、バースデイ、三井アウトレットパーク、三越、無印良品新札幌店、カインズ、ブティック、100万ボルト、ケーズデンキ、ラソラ、ブランチ月寒店、パセオ、大丸、東急百貨店、アークス北野店、コープさっぽろ、ジョイフルエーカー

②-3：交通手段（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
徒歩	99	11.8%
自転車	55	6.5%
地下鉄・JR	31	3.7%
バス	83	9.9%
タクシー	12	1.4%
マイカー・シェアカー	499	59.4%
無回答	61	7.3%
回答者数	677	100.0%

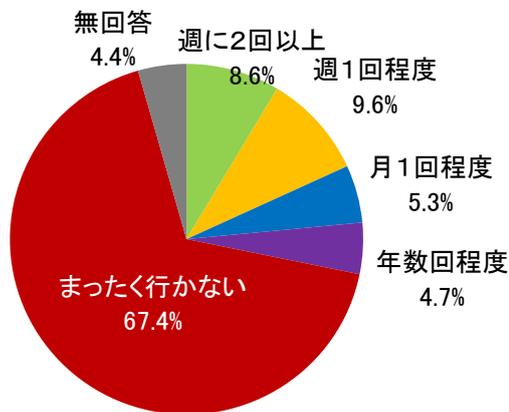


③習い事・サークル活動など（フィットネス・勉強・趣味など）

習い事やサークル活動などのために外出する回数は、まったく行かないが最も多く7割弱であった。次いで、週に1回程度が1割弱であった。主に利用する場所は、図書館やフィットネスクラブ・ジムが同数で1割弱であった。交通手段はマイカー・シェアカーが約2割と最も多い結果となった。

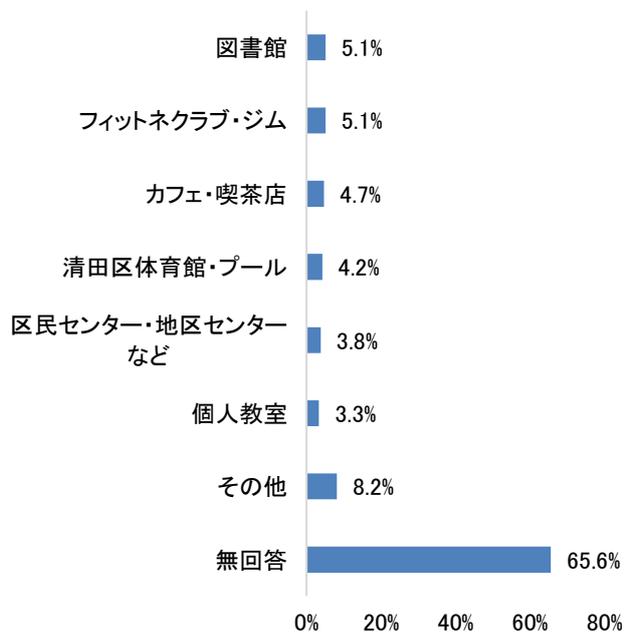
③-1：外出する頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	58	8.6%
週1回程度	65	9.6%
月1回程度	36	5.3%
年数回程度	32	4.7%
まったく行かない	456	67.4%
無回答	30	4.4%
合計	677	100.0%



③-2：主に利用する場所（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
図書館	35	5.1%
フィットネスクラブ・ジム	35	5.1%
カフェ・喫茶店	32	4.7%
清田区体育館・プール	29	4.2%
区民センター・地区センターなど	26	3.8%
個人教室	23	3.3%
その他	56	8.2%
無回答	451	65.7%
回答者数	677	100.0%

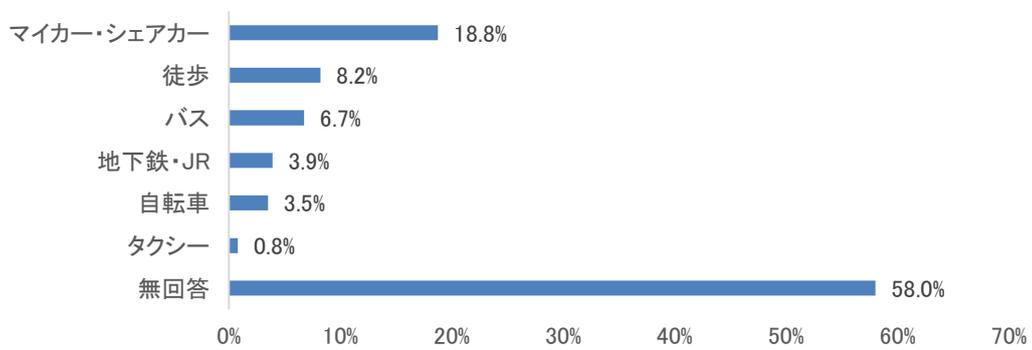


【その他の回答】

喫茶店コメダ、富田屋、ホリデー清田店、厚別プール、道新文化センター、きたえーる、厚別体育館、南小学校、イオン平岡店、清田スイミングスクール、厚別ボウル、アスティ45ビル、パルコ、ルーシー大谷地店、北野台小体育館、大曲カルチャースクール、ゴルフ5大曲ゴルフセンター、ディオールカルチャーセンター、豊平体育館、ホットヨガラバ、リフレサッポロ、平岡カルチャー、ホリデイスポーツクラブ、清田老人福祉センター、スポーツアカデミーブランジ、月寒プール、清田図書館、カーブス大谷地、デイサービスラボ虹ヶ丘、北広島総合体育館、パチンコ、ドコモショップ美しが丘店、パークゴルフ清田、声楽、博物館、芸術の森、ホットヨガスタジオ美温、ブランジ

③-3：交通手段（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	139	18.8%
徒歩	61	8.2%
バス	50	6.7%
地下鉄・JR	29	3.9%
自転車	26	3.5%
タクシー	6	0.8%
無回答	430	58.0%
回答者数	677	100.0%

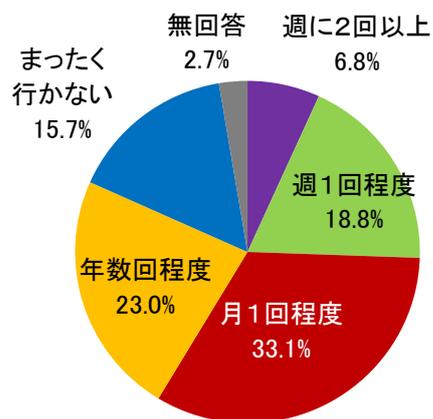


④ 外食

外食のために外出する回数は、月1回程度が最も多く約3割であった。次いで、年数回程度が2割強、週1回程度が2割弱であった。主に利用する場所は、専門店が最も多く、次いでチェーン店で約3割であった。交通手段はマイカー・シェアカーが約5割と最も多い結果となった。

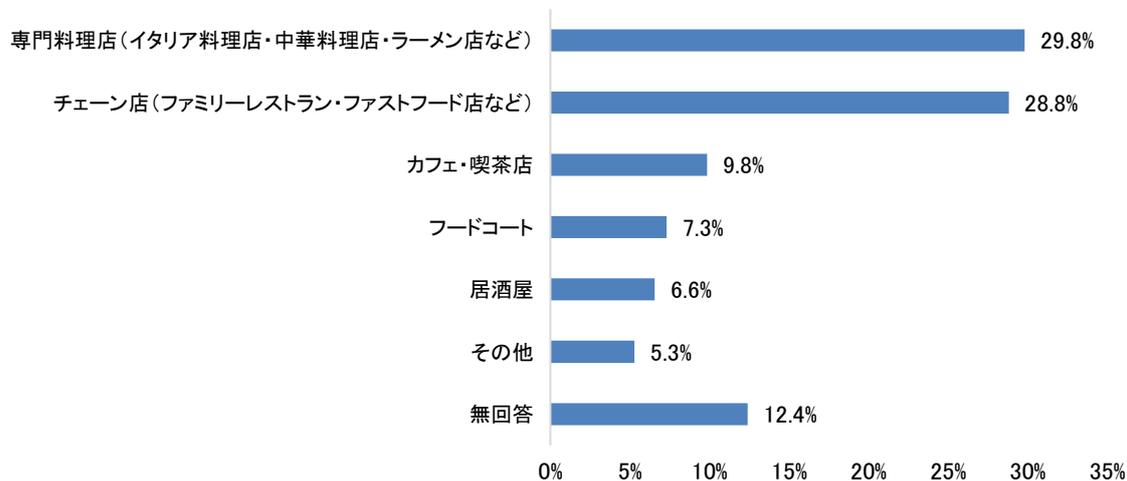
④-1：外出する頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	46	6.8%
週1回程度	127	18.8%
月1回程度	224	33.1%
年数回程度	156	23.0%
まったく行かない	106	15.7%
無回答	18	2.7%
合計	677	100.0%



④-2：主に利用する場所（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
専門料理店（イタリア料理店・中華料理店・ラーメン店など）	327	29.8%
チェーン店（ファミリーレストラン・ファストフード店など）	316	28.8%
カフェ・喫茶店	108	9.8%
フードコート	80	7.3%
居酒屋	72	6.6%
その他	58	5.3%
無回答	136	12.4%
回答者数	677	100.0%

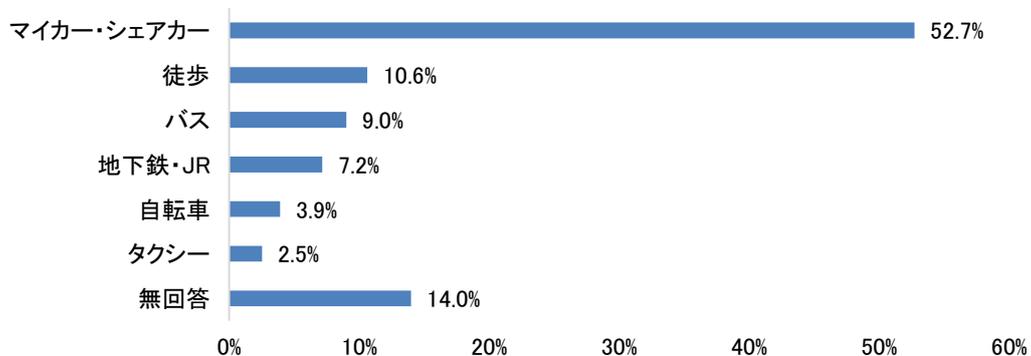


【その他の回答】

なごやか亭、はなまる南郷店、はま寿司、びっくりドンキー南郷店、ラーメンとら、魚べい清田店、麵屋雪風、スシロー清田店、十勝豚丼、焼肉きんぐ北野店、カープス札幌清田、大戸屋、餃子の王将、蕎麦たちばな、とんでん清田店、一風堂、トリトン清田店、コメダ北野店、徳寿平岡店、パルコフードコート、ケンタッキー、スターバックス北野店、イオンフードコート、暖龍綱取り物語、牛屋江戸八、居酒屋炎清田、むさしの森カフェ、居酒屋さんかい、焼肉ガヤ北野店、ラーメン虎、ラーメンRS、中華料理パンダ、ラマイ、マクドナルド、うおりき、ル・クルーゼコロン、宮川本麩、ラーメン謙正、コストコ、だるまや、吉野家、みよしの清田店、手打ちそばさくら、ベビーフェイスプラネット、クッチーナ、ラーメン大心、そばきた戸、ゆでたろう、宮越屋美園店、KINOTOYA 喫茶、ペンギンベーカリー、松栄庵、トムトムキキル、トワイライト、てんてん、サイゼリア、誠寿司、ロカリテ、蕎麦屋正直者、ニューオータニ、エクセル東急ホテル、つるき、葉実皮、チャンゲン平岡店、遊鶴、あんちゃん、宮の森珈琲美しが丘店、ガスト美しが丘店、かねひろ、焼肉花牛、富田屋

④-3：交通手段（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	456	52.7%
徒歩	92	10.6%
バス	78	9.0%
地下鉄・JR	62	7.2%
自転車	34	3.9%
タクシー	22	2.5%
無回答	121	14.0%
回答者数	677	100.0%

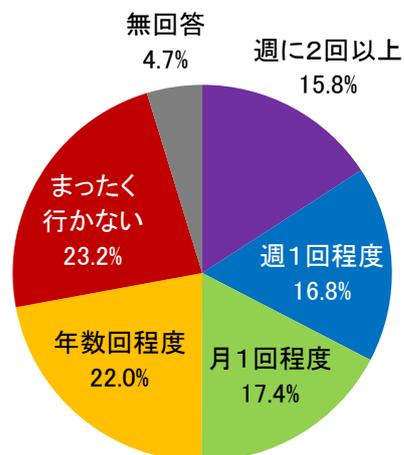


⑤遊び・レジャーなど（散歩やリフレッシュ、子どもを連れて遊びなど）

遊び・レジャーなどのために外出する回数は、まったく行かないが約2割で最も多く、次いで年数回程度が同じく2割と僅差の結果となった。主に利用する場所は、緑地・公園が最も多く4割弱、次いで温泉・入浴施設が2割強であった。交通手段はマイカー・シェアカーが約4割と最も多い結果となった。

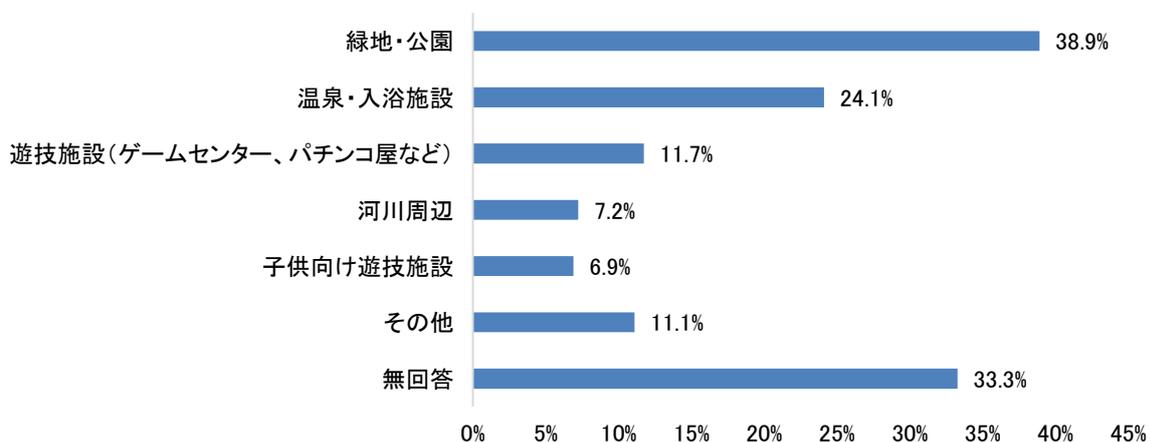
⑤-1：外出する頻度（当てはまるもの一つ）

選択肢	回答数	
週に2回以上	107	15.8%
週1回程度	114	16.8%
月1回程度	118	17.4%
年数回程度	149	22.0%
まったく行かない	157	23.2%
無回答	32	4.7%
合計	677	100.0%



⑤-2：主に利用する場所（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
緑地・公園	242	38.9%
温泉・入浴施設	150	24.1%
遊技施設（ゲームセンター、パチンコ屋など）	73	11.7%
河川周辺	45	7.2%
子供向け遊技施設	43	6.91%
その他	69	11.1%
無回答	207	33.3%
回答者数	677	100.0%

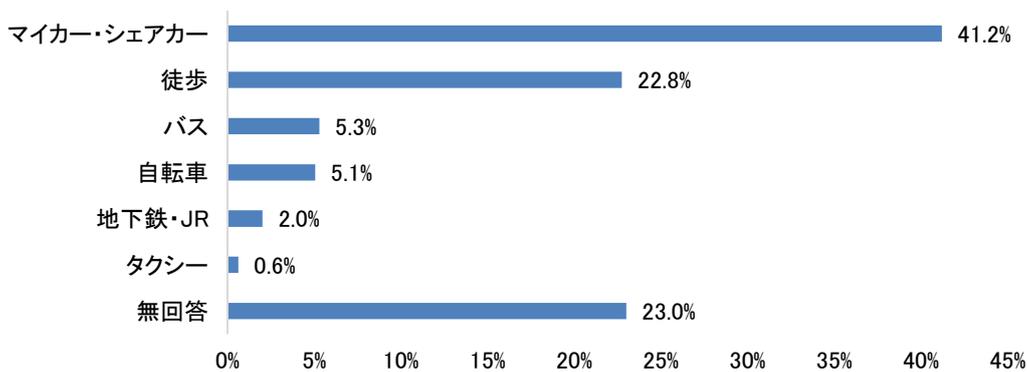


【その他の回答】

あしりべつ川、百貨店、海・山、日帰りバスツアー、道の駅、平岡公園、平岡南公園、札幌ドーム、ゴルフ練習場、ゴルフコース、キャンプ場色々、フォレストアドベンチャー、札幌ファクトリー、パンダ公園、北野中央公園、樹芸センター、美しが丘西公園、真栄東公園、平岡公園、滝野すずらん公園、サイクリングロード、ほのか、メズム東京、レスパイア、月寒温泉、イオンモール平岡、アリオ札幌、定山溪温泉、清田中央公園、森のゆ（北広島）、ほのか（北広島）、歌屋、ベガスベガス、キャッツアイ、白旗山、清田南公園、江別イオンシネマ、清田中央パークゴルフ場、マンダイ、デイサービス、藻岩山、手稲山、ニュー篠津ゴルフ場、コンプレックス、フロンティア、ファクトリー、梅公園、ニセコ、きたえーる、厚別運動公園、ホリデイスーツクラブ、イオンモール

⑤-3：交通手段（当てはまるものすべて）

選択肢	回答数	
マイカー・シェアカー	326	41.2%
徒歩	180	22.8%
バス	42	5.3%
自転車	40	5.1%
地下鉄・JR	16	2.0%
タクシー	5	0.6%
無回答	182	23.0%
回答者数	677	100.0%

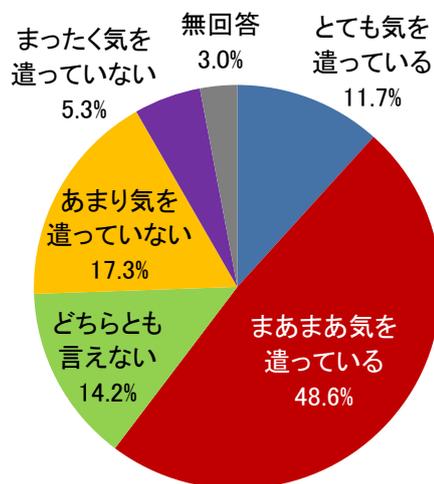


4. 日ごろの健康づくりに対する意識について

1, 日ごろから健康づくりに対する意識は高い方だと思いますか。次の中から当てはまるもの一つを選んで、○印にチェックをつけてください。

まあまあ気を遣っているが約5割と最も多く、次いであまり気を遣っていないが2割弱という結果となった。気を遣っている方は約6割、気を遣っていない方は約2割であった。

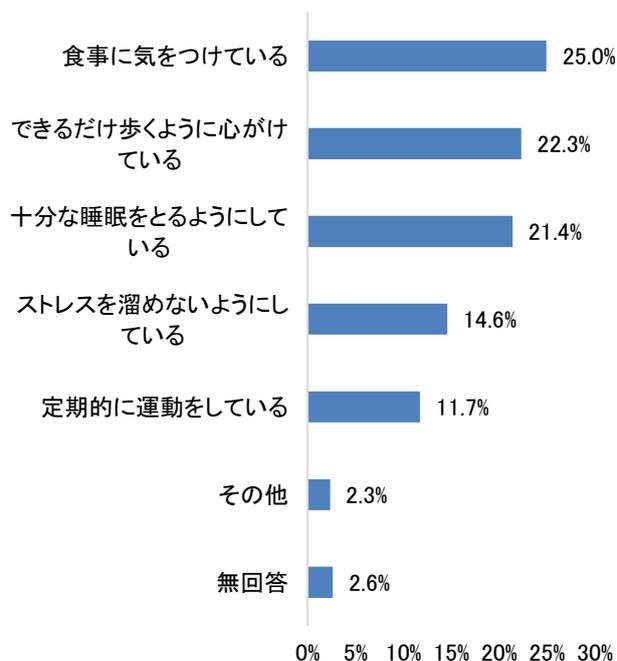
選択肢	回答数	
まあまあ気を遣っている	329	48.6%
あまり気を遣っていない	117	17.3%
どちらとも言えない	96	14.2%
とても気を遣っている	79	11.7%
まったく気を遣っていない	36	5.3%
無回答	20	3.0%
合計	677	100.0%



2, 日ごろの健康づくりのためにしていることはありますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけてください

食事に気をつけているが最も多く3割弱という結果となった。次いで、できるだけ歩くように心がけているが2割強、十分な睡眠をとるようにしているも2割強という結果であった。

選択肢	回答数	
定期的に運動をしている	165	11.7%
できるだけ歩くように心がけている	314	22.3%
食事に気をつけている	351	25.0%
ストレスを溜めないようにしている	205	14.6%
十分な睡眠をとるようにしている	301	21.4%
その他	33	2.3%
無回答	37	2.6%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】

ラジオ体操、受診、家の中でストレッチをしている、スポーツ、庭仕事、登山、畑仕事、除雪

3. 平日と休日における通勤・通学や買い物などでの歩行時間（ウォーキングなどの運動は除く）はどのくらいですか。それぞれ次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

平日の日常生活での歩行時間は10～30分が最も多く4割強という結果となった。次いで40分～1時間が2割であった。

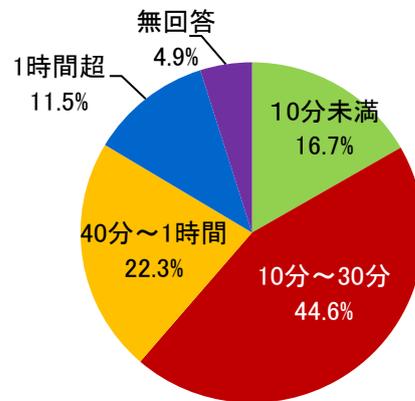
休日の日常生活での歩行時間も10分～30分が最も多く4割強、次いで40分～1時間が2割という結果となった。

本アンケートの回答者は60歳以上で無職または主婦や主夫の方が多いことから、曜日の差はほとんどなかったことが考えられる

①平日の歩行時間

①-1：日常生活での歩行

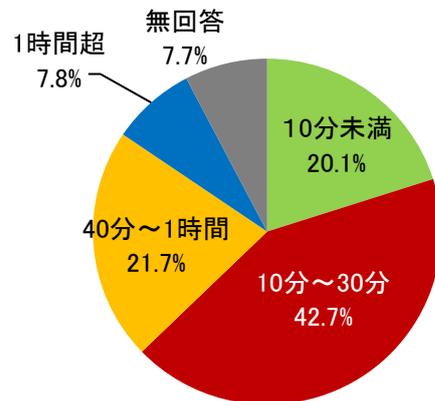
選択肢	回答数	
10分～30分	302	44.6%
40分～1時間	151	22.3%
10分未満	113	16.7%
1時間超	78	11.5%
無回答	33	4.9%
合計	677	100.0%



①休日の歩行時間

①-2：日常生活での歩行

選択肢	回答数	
10分未満	136	20.1%
10分～30分	289	42.7%
40分～1時間	147	21.7%
1時間超	53	7.8%
無回答	52	7.7%
合計	677	100.0%



4. 平日と休日における運動時間（ウォーキングやランニングなどを含めたスポーツをする時間）はどのくらいですか。それぞれ次の中から当てはまるもの1つを選んで、○印にチェックをつけてください。

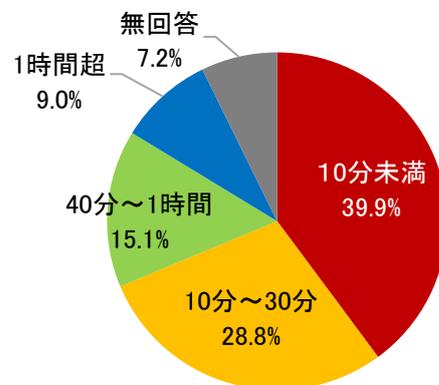
平日の運動時間は10分未満が最も多く約4割という結果となった。次いで10分～30分が3割弱であった。

休日の運動時間も10分未満が最も多く約4割、次いで10分～30分が3割弱という結果となった。

本アンケートの回答者は60歳以上で無職または主婦や主夫の方が多いことから、曜日の差はほとんどなかったことが考えられる

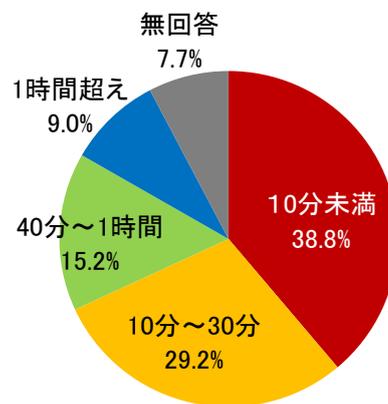
①平日の運動時間

選択肢	回答数	
10分未満	270	39.9%
10分～30分	195	28.8%
40分～1時間	102	15.1%
1時間超	61	9.0%
無回答	49	7.2%
合計	677	100.0%



②休日の運動時間

選択肢	回答数	
10分未満	263	38.8%
10分～30分	198	29.2%
40分～1時間	103	15.2%
1時間超え	61	9.0%
無回答	52	7.7%
合計	677	100.0%



5, 新型コロナウイルス感染症の拡大により、健康づくりへの意識の変化はありましたか。
下記枠内に記入してください。(自由記載)

●運動面の変化

(屋内)

- ・テレビ体操
- ・YouTube でエクササイズ動画を見て運動するようになった。
- ・健康器具を買って毎日 20～30 分運動。
- ・家事をしながらストレッチなど『ながら運動』を意識して行う。
- ・家で素振りをする回数が増えた。
- ・フィットネス系のテレビゲーム。
- ・リモートでヨガ。
- ・家でトレーニング動画をみる。コロナ禍前より運動することが増えた。

(屋外)

- ・近所の公園を散歩する機会が増えた
- ・土日、犬の散歩がふえた。
- ・コロナ禍前から続けていたウォーキングはマスクをしながら続けているが人が多い場所へは行けないため運動は限られる。
- ・スポーツクラブに通っていたが行けなくなった。
- ・外に出られないので、散歩ができなくて本当に困った。
- ・自宅で Zoom を利用したフィットネス、登山はコロナに影響なく行うことが出来た。

●食事面の変化

- ・食事の量を家にいる時は少なめにしてカロリーをとりすぎないようにした。
- ・体調管理のために以前より規則正しい生活を心掛けるようになった
- ・野菜をたくさんとる。
- ・外食をしなくなった。スポーツ等はしていない、コロナ以前から出歩くことが少なかったため生活はあまり変化していない。
- ・家の中でのトレーニングを短時間でも続けられるようになった。

●その他の変化

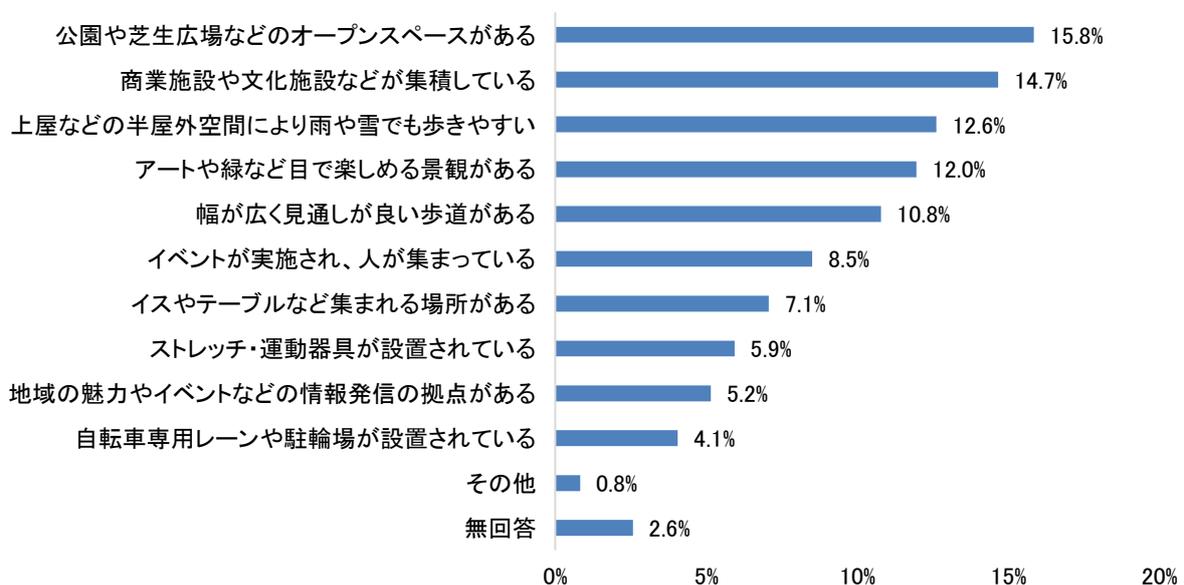
- ・外出後、すぐシャワーを浴びるようになった。外出後、必ずしっかり手洗いをするようになった。
- ・自然（海、山 etc.）にふれる機会が増えた。
- ・外出が減ったので行動機会がほぼなくなった。
- ・対面で人と会うことが少なくなった。
- ・外出するときはできるだけ平日として、人が少ない時間帯を選ぶようになった。
- ・家の中を整理、本を読む。
- ・予防に全力を注いだ。

6. どのような環境があれば、歩きたい・訪れたいと思いますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけてください

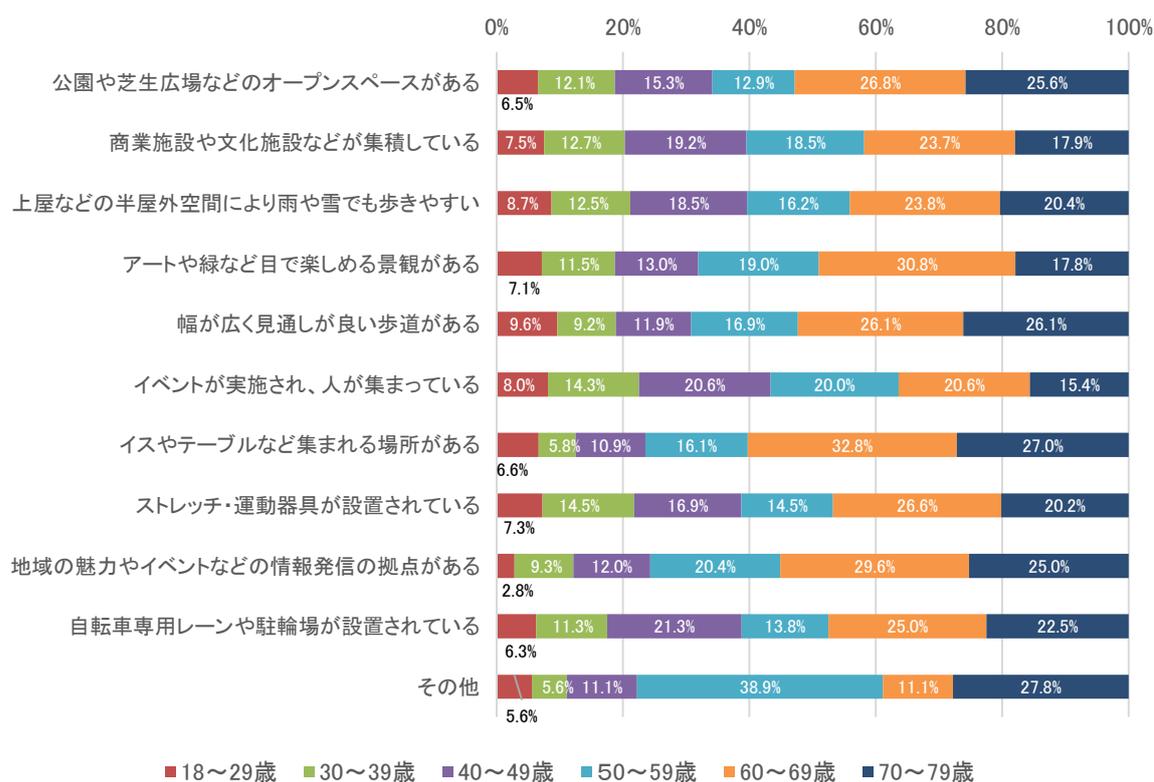
公園や芝生広場などのオープンスペースがあるが最も多く 2 割弱という結果となった。次いで、僅差で商業施設や文化施設などが集積しているが 2 割弱、上屋などの半屋外空間により雨や雪でも歩きやすいが 1 割強という結果であった。

年代別に見ると、18～29 歳は幅が広く見通しが良い歩道があるが最も多く、30～39 歳はストレッチ・運動器具が設置されている、40～49 歳は自転車専用レーンや駐輪場が設置されている、50～59 歳は地域の魅力やイベントなどの情報発信の拠点がある、60～69 歳と 70～79 歳はイスやテーブルなど集まれる場所があるが最も多く、50～59 歳はソフト面、それ以外の年代はハード面の環境を重視していることがわかった。

選択肢	回答数	
公園や芝生広場などのオープンスペースがある	363	15.8%
商業施設や文化施設などが集積している	336	14.7%
上屋などの半屋外空間により雨や雪でも歩きやすい	289	12.6%
アートや緑など目で楽しめる景観がある	274	12.0%
幅が広く見通しが良い歩道がある	247	10.8%
イベントが実施され、人が集まっている	195	8.5%
イスやテーブルなど集まれる場所がある	162	7.1%
ストレッチ・運動器具が設置されている	136	5.9%
地域の魅力やイベントなどの情報発信の拠点がある	118	5.2%
自転車専用レーンや駐輪場が設置されている	93	4.1%
その他	19	0.8%
無回答	59	2.6%
回答者数	677	100.0%



■年代別クロス集計（書面回答分のみ）



【その他の回答】

とにかく清潔なところ、自然が残っているところ、ウォーキングしながら季節の花や木を観ながら楽しめる樹木が多い歩道公園、景色の良いところ、駐車場があるところ、花壇や庭園、困っている人が相談できる場所、スターバックス、マック等飲食店、人が密集しなそうな広いところ、外でバスケ、バレーができるスペース、身近に緑に触れる場所、車の通行がない静かに過ごせる場所、自然の林や緑地があるところ、空が見渡せるところ、土の上を足に負担少なく歩けるところ、映画館、果物狩り

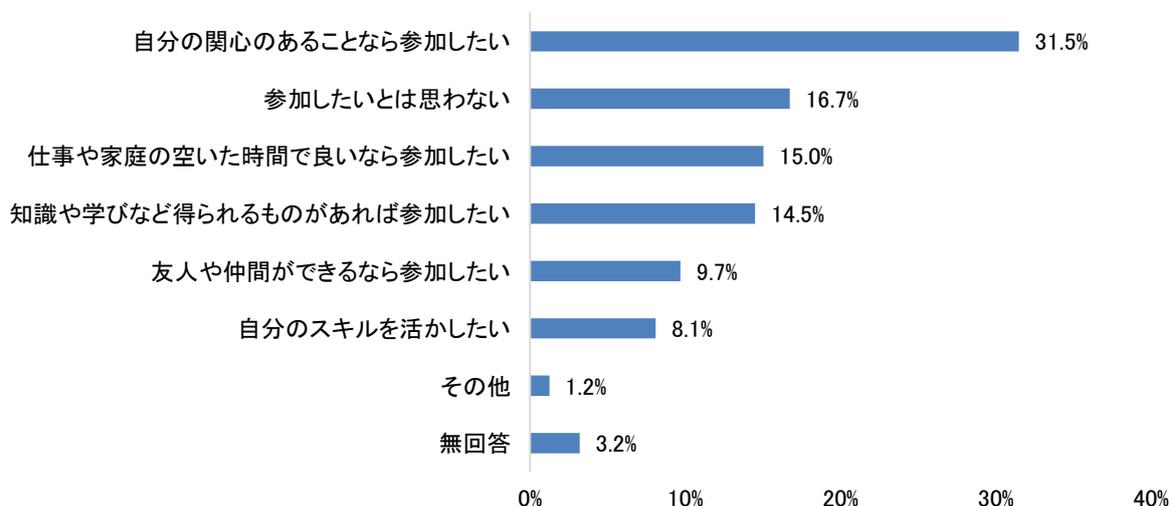
- ・ 普段から歩いている・訪れている具体的な場所があれば、記入してください
- ・ 平岡公園、あしりべつ川堤防、イオン平岡、厚別川、清田公園…等

5. 地域活動に対する意識について

1, 地域活動（趣味でつながるコミュニティ、賑わいづくりのためのお祭りやイベント、清掃活動、交流会など）への参加について、次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけてください

自分の関心のあることなら参加したいが最も多く約3割という結果となった。次いで、参加したいとは思わないが2割弱、仕事や家庭の空いた時間で良いなら参加したいが1割強であった。

選択肢	回答数	
自分の関心のあることなら参加したい	354	31.5%
参加したいとは思わない	188	16.7%
仕事や家庭の空いた時間で良いなら参加したい	169	15.0%
知識や学びなど得られるものがあれば参加したい	163	14.5%
友人や仲間ができるなら参加したい	109	9.7%
自分のスキルを活かしたい	91	8.1%
その他	14	1.2%
無回答	36	3.2%
回答者数	677	100.0%



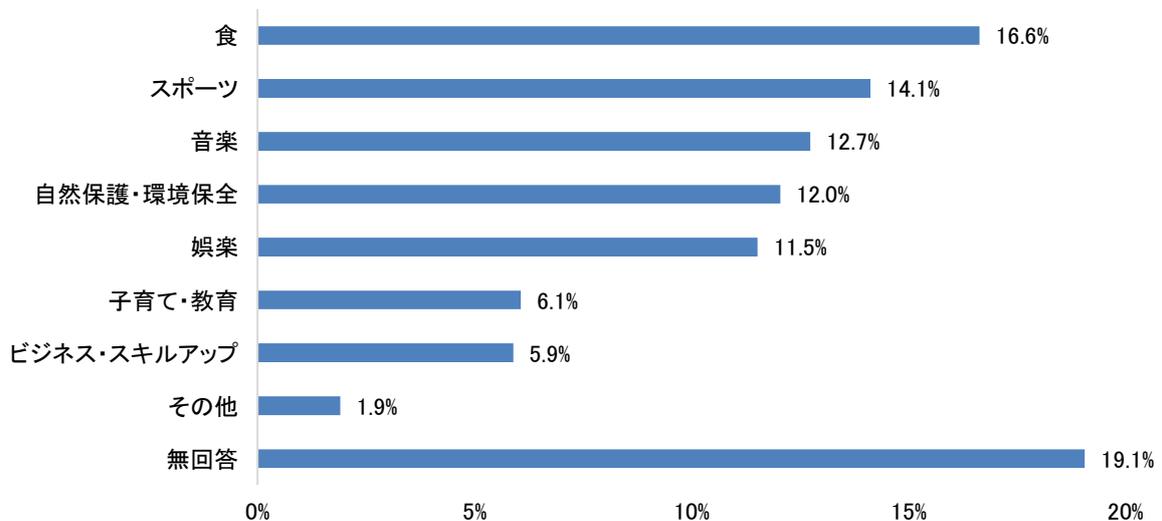
【その他の回答】

高齢になり意欲があっても体力、気力が伴わず参加は考えていない、体力があれば全部参加したい、体調があまり良くない、近所ではやりたくない、小学校の絵本の読み聞かせをやってる 20年、自治会長 10年、仕事があるので無理、子供に良さそうなもの、介護の為、生活の時間に余裕ができれば参加しても良い

2, 参加したいと思うテーマはありますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけてください。

食が最も多く、2割弱という結果となった。次いで、スポーツが1割強、音楽や自然保護・環境保全も上位を占める結果となった。

選択肢	回答数	
自然保護・環境保全	139	12.0%
子育て・教育	70	6.1%
音楽	147	12.7%
ビジネス・スキルアップ	68	5.9%
食	192	16.6%
スポーツ	163	14.1%
娯楽	133	11.5%
その他	22	1.9%
無回答	220	19.1%
回答者数	677	100.0%



【その他の回答】

郷土の歴史、認知症予防の何か、動物保護、洋裁、手芸等、ものづくり、防災、書、絵画、コンピュータ系、語学 フランス語、エネルギー、食べ飲みイベント、歴史探訪、昆虫、健康について、朝運動、アウトドア

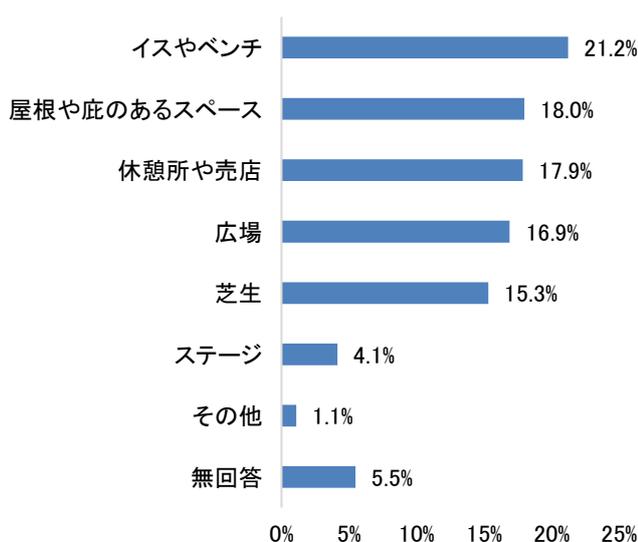
3, 地域活動を行う場合、どのような機能があったらいいと思いますか。次の中から当てはまるものすべてを選んで、○印にチェックをつけてください

①屋外の機能

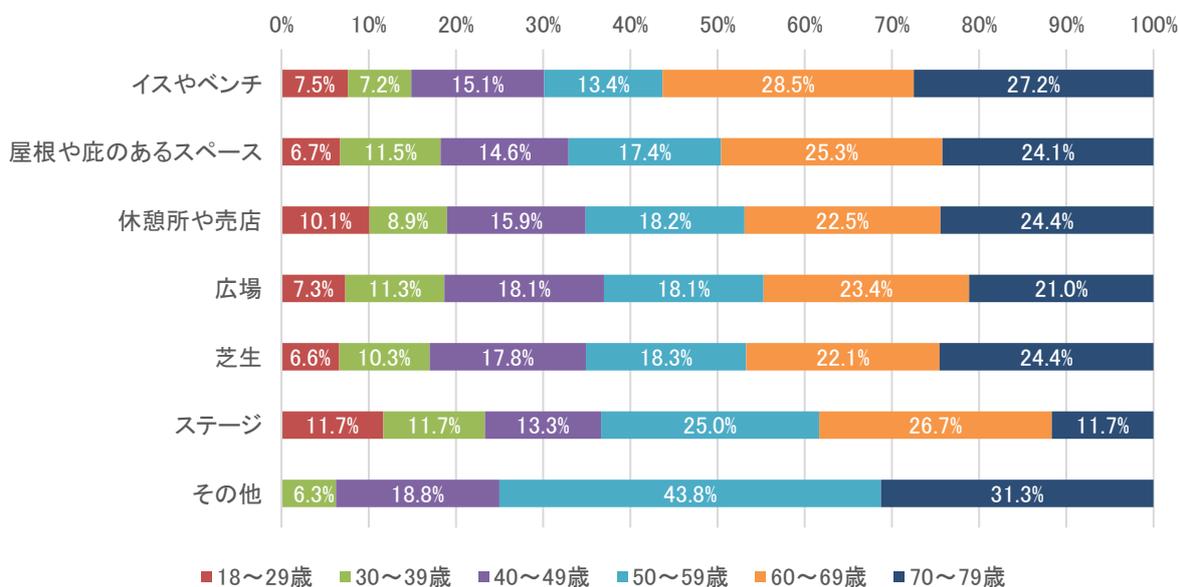
イスやベンチが最も多く約2割という結果となった。

年代別に見ると、18～29歳と30～39歳、50～59歳はステージが最も多く、40～49歳は広場、60～69歳と70～79歳はイスやベンチが最も多い結果となった。

選択肢	回答数	
ステージ	65	4.1%
広場	265	16.9%
屋根や庇のあるスペース	282	17.9%
芝生	240	15.3%
イスやベンチ	333	21.3%
休憩所や売店	280	17.9%
その他	17	1.1%
無回答	86	5.5%
回答者数	677	100.0%



■年代別クロス集計（書面回答分のみ）



【その他の回答】

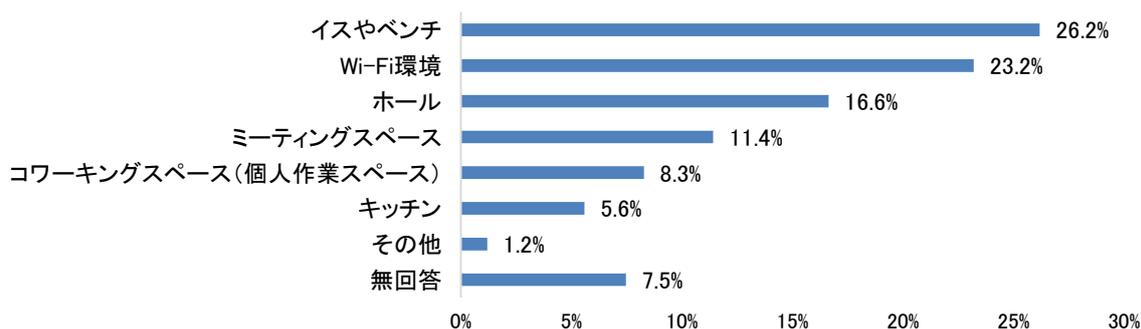
駐車場、屋内スポーツ場の充実、球場、バスケットコート、トイレ、自然、気軽な雰囲気、キャンプ場、バリアフリー

②屋内の機能

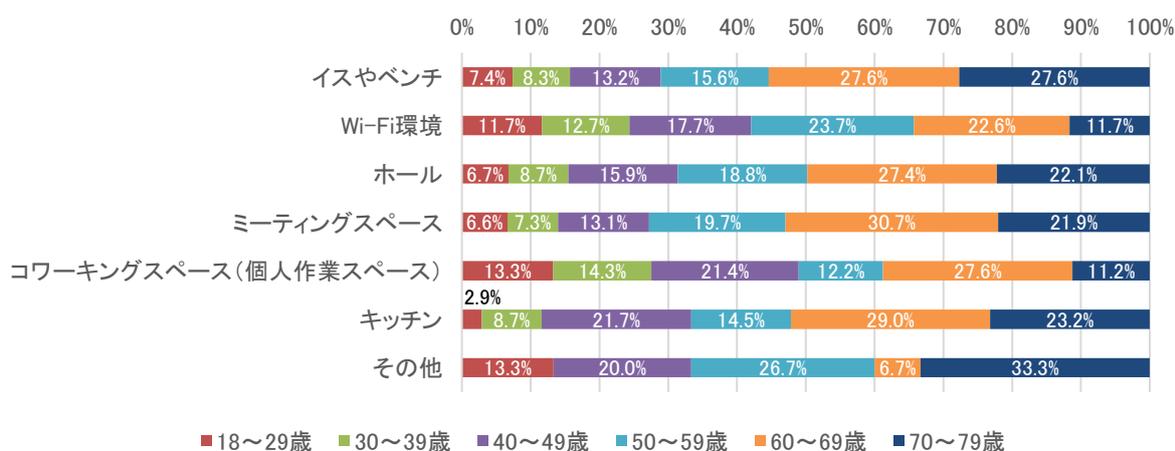
イスやベンチが最も多く 3 割弱という結果となった。

年代別に見ると、18～29 歳と 30～39 歳はコワーキングスペース(個人作業スペース)が最も多く、40～49 歳はキッチン、50～59 歳は Wi-Fi 環境、60～69 歳はミーティングスペース、70～79 歳はイスやベンチが最も多い結果となった

選択肢	回答数	
イスやベンチ	351	26.2%
Wi-Fi 環境	311	23.2%
ホール	223	16.6%
ミーティングスペース	153	11.4%
コワーキングスペース(個人作業スペース)	111	8.3%
キッチン	75	5.6%
その他	16	1.2%
無回答	100	7.5%
回答者数	677	100.0%



■年代別クロス集計 (書面回答分のみ)



【その他の回答】

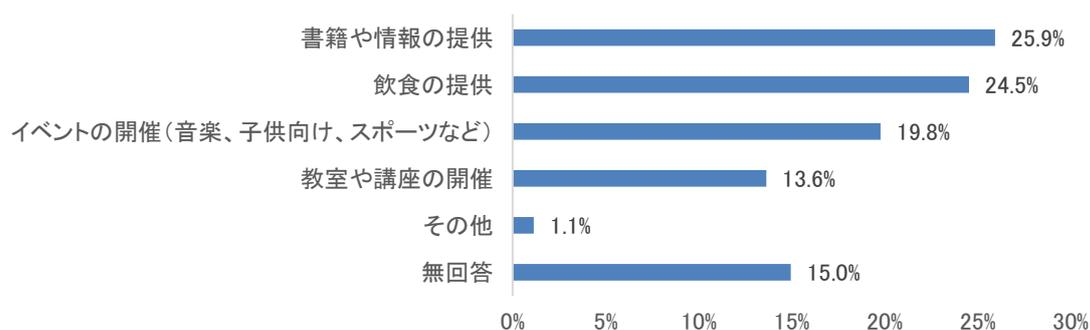
サロンのな場、頭を使うもの、日除け、十分な数のトイレ、コンセント、子供連れで入れるトイレ(ベビーカーごと) 自販機、託児、勉強スペース、気軽な雰囲気バリアフリー、横になるスペース、冬でも散歩できる施設、防音室

③それ以外の機能

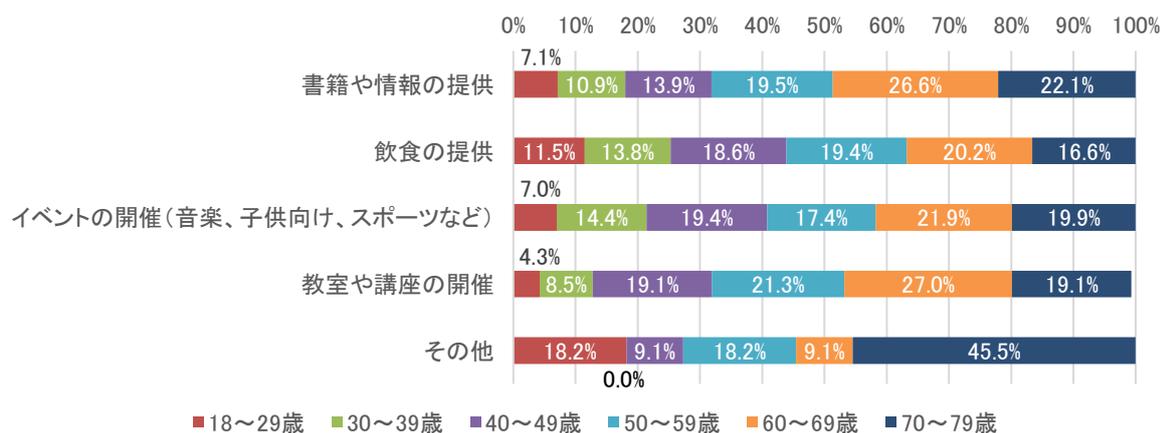
書籍や情報の提供が3割弱で最も多い結果となった。

年代別に見ると、18～29歳は飲食の提供が最も多く、30～39歳と40～49歳はイベントの開催、50～59歳と60～69歳は教室や講座の開催、70～79歳は書籍や情報の提供が最も多い結果となった。

選択肢	回答数	
書籍や情報の提供	295	25.9%
飲食の提供	279	24.5%
イベントの開催(音楽、子供向け、スポーツなど)	225	19.8%
教室や講座の開催	155	13.6%
その他	13	1.1%
無回答	170	15.0%
回答者数	677	100.0%



■年代別クロス集計 (書面回答分のみ)



【その他の回答】

地域の学生など若い人たちの協力、若者や働いている人向けの講座やスポーツ、相談コーナーの設置、スケートボード、サイクリングコース、中学生、高校生、大学生、社会人が少人数でも発表できる場所(高齢者より若者中心)、様々なマルシェで季節に合わせ開催、フルーツ、野菜、雑貨、清田の自然に詳しい人(植物学者、動物学者、環境保全活動経験豊富な人など)、老人の勉強会や相談セミナー、地域で暮らす障害者の交流

6. 清田区役所周辺の拠点づくりについて

1. 清田区役所周辺の拠点づくりに対するご意見があれば、下記枠内に記入してください。
(自由記載)

●交通手段に関して

- ・利用していたバスも減便、廃止になり困った。交通の便をよりよくして中央バスなど協力しながら拠点だけの盛り上がりにならないように展開してほしい。
- ・地下鉄が通ってくれたらありがたい。
- ・地下鉄(駅)延長をしないと、街づくりは進まないと思う。
- ・もっとバスの便を増やしてほしい。
- ・交通アクセスの充実が望まれる。車に頼りすぎない拠点づくりの視点が必要。
- ・清田区役所へ行く手段がほぼ車しかない。里塚緑が丘地域のバス便がもう少しよくなるとよい。
- ・区役所へ行く交通手段として無料でなくても近くから区役所行きのバスがあるとか、そうするとお年寄りも行きやすくなると思う。
- ・区役所周辺に集中するなら駐車場を拡大してほしい。
- ・区役所まで交通の便がよくないため区役所の近くではなく駅やショッピングモールの近くに拠点をつくってほしい。

●施設に関して

(公共施設)

- ・清田警察署設置の早期実現。
- ・図書館は定期的に利用している。さらに広く、本がふえればよいと思う。
- ・区民センターと区役所が一体化すると活用しやすくなると思う。
- ・他の区のような大きめの遊具がある公園がほしい。
- ・図書館の書籍に漫画も取り入れて子どもたちの居場所があるとよい。室内アスレチックなど、外の環境に左右されず子どもたちが遊べる場所。
- ・絵本図書館が清田区にもできたら通いたい。

(その他の施設)

- ・リサイクルセンター、エクスチェンジセンターがあるとよい。
- ・清田には、これ、というものが無い。子どもと出かけて1日いられる場所がほしい。
- ・ペットを飼っている人が多いためドッグランがあると良い。
- ・道の駅のような特産物、野菜、お菓子などを置くアンテナショップがあると活気づいて良いと思う。子ども食堂や福祉の充実も大切だと思う。
- ・スポーツジムや地下鉄、店舗が集まるといいと思う。ペットの預かり、託児、幼稚園、老人ホームなど様々な施設があると良い。

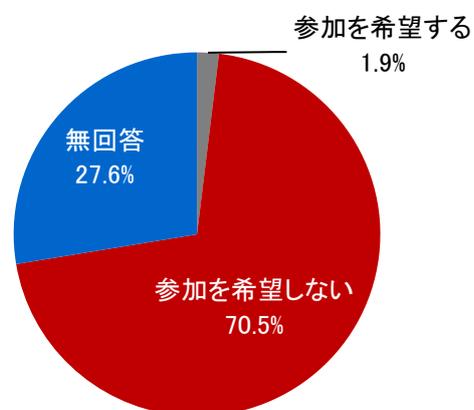
●その他

- ・地域の人達が、一人で考え込まないで、いろいろな人達と、コミュニケーションがとれ、明るく生きていける様な環境を提供する拠点があると良いと思う。
- ・人が集まるイベントや催し物の開催。今っぽい場所があればよい。
- ・芸術的な面で屋外の彫刻をふやしてほしい。
- ・清田にも札幌のオータムフェスタのような飲食店のイベントがあるとよい。

2、今後、地域住民や各関係者とともに、地域交流拠点清田の将来イメージや必要な機能などを考える意見交換会を開催する予定です。参加のご意向をお答えください

参加を希望しないが約7割、参加を希望するは1割未満という結果となった。

選択肢	回答数	
参加を希望する	13	1.9%
参加を希望しない	477	70.5%
無回答	187	27.6%
合計	677	100.0%



3-3 アンケート調査結果からの考察

(1) アンケート調査の結果

1) 清田区民の平日・休日の暮らしについて

マイカーを持っている回答者が多く、通勤・通学や買い物などにおける主な交通手段は車と回答した方が多い。一方、散歩やリフレッシュのための遊びやレジャーにおいては、徒歩で移動する回答が多く、自宅から近い公園などに行っていることがうかがえる。

買い物は、食料品などは自宅から近いスーパーなどを利用し、衣類や書籍などたくさんの商品を見たい場合はイオンモール札幌平岡を利用する方が多く見られた。

また、地域交流拠点清田を利用する機会は年に数回程度であった。また、周辺の地域交流拠点は年に数回かまったく行かないと回答した方も多い。

2) 歩きたい、訪れたいと思う場所について

平日・休日の歩行時間はどちらも10分～30分程度が最も多く、運動時間は10分～30分程度、10分未満が多いことから、あまり運動をする機会がない傾向がある。「歩きたい、訪れたい」と思う場所としては、「公園や芝生広場などのオープンスペース」が最も多く、特に60代以上の回答者からの回答が多かった。40代～50代の回答者からは「商業施設や文化施設などが集積している」という回答が多くみられた。

3) 考えられる地域活動のテーマと求められる機能

地域活動において参加したいテーマは「食」・「スポーツ」・「音楽」が多い傾向となった。また、地域活動を行う場合に求められる機能として、屋外では「イスやベンチ」「屋根や庇のあるスペース」が多い回答であり、屋内においては特に60代以上からは「イスやベンチ」が多く回答され、一方50代以下からは「Wi-Fi環境」との回答が多かった。それ以外の機能としては、40代以下からは「飲食機能」のニーズが高いことがわかった。

(2) アンケート調査の考察より求められる機能

1) 車移動を想定した機能

アンケート結果から、通勤や買い物には基本的にはマイカー移動が多いため、地域交流拠点清田においても駐車場の確保など車移動を想定した機能が求められる。マイカー移動が多いことから、きっかけがあれば区内の遠方の地区からも地域交流拠点清田に来訪する可能性は高いことがうかがえる。

2) みどりや水辺など豊かな自然を感じるオープンスペース

歩いたり訪れたいと思う場所としては、「公園や芝生広場などのオープンスペース」が高いことから、開かれた場所で自然と触れ合いながら歩いたり、座って休憩することができるような場所のニーズが高い。厚別川の遊歩道や清田緑地、市民交流広場などを用いながら、清田区の豊かなみどりや水辺のうるおいなどを活用した憩いの場を形成することが求められる。

3) 人が集まり、話し合いや活動することができる交流機能

屋内・屋外ともに「イスやベンチ」のニーズが高く、座って休憩ができ、談話できるような交流のイメージがうかがえる。50代以下からは「Wi-Fi環境」との回答が多かったことから、パソコンやスマートフォンなどを用いた活動も想定されていることがわかる。「書籍や情報の提供」のニーズも高いことから本を読むことやパソコンなどを用いた作業を行うような場面もイメージされる。40代以下からは「飲食機能」も高いニーズがあったことから、カフェなどでコーヒーや軽食の提供なども期待されている。

4章 きよた暮らしラボ（意見交換会）の企画・運営

4-1 きよた暮らしラボ（意見交換会）の目的

きよた暮らしラボ（意見交換会）では、地域交流拠点清田の機能強化について、地域住民と意見交換を行った。学生や子育て世代、高齢者、地元事業者など様々な属性の区民に参加してもらい、意見交換を行った。

4-2 令和3年度きよた暮らしラボ（意見交換会）の流れ

きよた暮らしラボ（意見交換会）は、これからの清田の暮らしのシーンのイメージから、地域交流拠点清田の機能や使い方、取組を検討し、そのために必要なネットワークなどについて意見交換を行った。

■令和3年度

	開催日時	主な情報提供	主な議題
第1回	令和3年 11月6日	【これからの清田の暮らしのシーンをイメージ】 ・アンケート調査結果の報告 ・アンケート調査から想定される年代や属性ごとの区民の暮らしのイメージ(ペルソナ)	・10年後の清田の暮らしをペルソナを元に具体的なシーンをイメージ ・暮らしのシーンから地域交流拠点の使い方を整理
第2回	令和3年 12月18日	【地域交流拠点の機能と使い方を検討】 ・地域交流拠点で想定される機能 ・拠点やオープンスペースを活用した活動の事例	・求められる地域交流拠点の機能を検討 ・拠点の機能やオープンスペースを活用しながら市民主体でできる取組のアイデア
第3回	令和4年 1月29日	【地域交流拠点のにぎわいをつくるつながりづくり】 ・地域交流拠点の機能やオープンスペースを活用した取組を実践していくプラットフォームの事例	・地域交流拠点の魅力を高めていくために始める取組や活動
第4回	令和4年 2月19日	【オープンスペースを活用した活動の検討】 ・地域交流拠点の賑わいづくりに向けたオープンスペースを活用した活動の事例	・オープンスペースなどを活用した取組や活動のアイデアの具体化 ・意見交換の総括



令和4年度は上記の意見交換の内容を踏まえ、市民交流広場などで実証イベントを実施

4-3 参加者の募集

参加者は、清田区民会議の委員や清田区内の企業、大学の学生、またアンケート調査やWEBフォームから一般からの参加を募った。

■きよた暮らしラボ参加者

所属	人数	詳細
清田区民会議メンバー	8名	
企業・大学	7名	<ul style="list-style-type: none">・北海道中央バス・JA・清田区内の農家・北海道コカ・コーラボトリング株式会社・イオン北海道株式会社・北星学園大学
一般参加	17名	<ul style="list-style-type: none">・20代～70代の一般参加者

4-4 きよた暮らしラボ（意見交換会）ワークショップの実施と結果

(1) 第1回きよた暮らしラボ（意見交換会）の開催

1) 開催概要

日 時：令和3年11月6日（土）13：30～15：30

場 所：清田区民センター集会室2・3

参加者：17名

事務局：札幌市政策推進課 3名

清田区 2名

株式会社グローバルデザイン 安達、酒本、松田、高橋、深津



2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・意見交換の趣旨 ・地域交流拠点とは ・清田でのこれまでの検討 ・今年度の取り組み（意見交換+アンケートで清田の将来像を検討） ・アンケート結果の速報
14：00	休憩	
14：10	意見交換	・3～5年後の区役所周辺（地域交流拠点清田）の暮らしの具体的なシーンをイメージ ・暮らしのシーンから区役所周辺の使い方を検討
15：30	閉会	

3) 説明資料

アンケート調査の速報

別紙「地域交流拠点清田 アンケート調査 速報」をご覧ください

地域交流拠点 清田の機能向上を考える流れ

アンケート調査
清田区民18歳以上を対象に1500名を無作為抽出し、アンケート調査を実施
＜実施期間＞
令和3年9月29日～10月20日
＜回収数＞
526件(回収率:33.7%)

意見交換会(きょうぼ)
地域住民や関係者とともに、地域交流拠点清田の将来イメージや必要な機能などを考える意見交換会
＜実施＞
全4回の意見交換会を予定

地域交流拠点「清田」に地域交流拠点のあり方・機能を検討
地域交流拠点「清田」の機能向上案の作成

きょうぼの今後の進め方

	意見交換の内容
地域交流拠点 清田を中心とした暮らし方をイメージ	第1回(本日) ・10年後の清田の暮らしをペルソナを元に具体的なシーンをイメージ ・暮らしのシーンから地域交流拠点の使い方を整理
地域交流拠点 清田に必要な機能を検討	第2回(12月18日予定) ・求められる地域交流拠点の機能を検討 ・拠点の機能やオープンスペースを活用しながら市民主体でできる取組のアイデア
地域交流拠点 清田の市民主体となった使いこなしを考える	第3回(令和4年1月29日予定) ・取組を実施していくために必要な市民のつながりのイメージ 第4回(令和4年2月19日予定) ・オープンスペースを活用した活動のアイデア ・意見交換の継続

意見交換

「10年後の清田で、どんな暮らしをしますか？」

どんな風に働きますか？

どこに遊びに行きますか？

どこに買い物に行きますか？

どんな風に遊びますか？

どんな時間を過ごしますか？

公園のベンチでピクニック
カフェでディスカッション
本物の自然に包まれる場所
家でヨガ教室
地元の野菜を貰えるマルシェ

アンケート結果速報を参考に、仮の人物像(ペルソナ)から今後の清田の暮らしに求めるニーズを検討

参考としたアンケート結果速報

- 回答割合が多い世代 → 60代以上
- 家族構成はパートナー(配偶者)と同居 → 夫婦2人暮らし
- 通勤・通学はしていない
- 地域活動や余暇を充実させたい
- 地域活動に必要な機能
- 知識や学びを得られるテーマに参加したい
- 移動手段は車が主だが、健康づくりの意識はある → 近所への買物は徒歩

65歳 男性 清田地区に居住(妻と2人暮らし)

- ・65歳で退職したタイミングで地元の町内会役員となり、地域活動や小学校のスクールガードを行っている。
- ・平日の空いた時間は、移動中に区役所の交流スペースで休憩を兼ねて読書をしている。
- ・休日は、妻と健康づくりのため、あしりべつ用池をウォーキングしている。
- ・車を所有しているため買物は車移動が多いが、生鮮品の買い物は区役所にある宅配BOXを利用している。
- ・将来的に高齢で運転が不安になった場合は自家用車ではなく、健康づくりも合わせて徒歩とバス移動のライフスタイルに変えようと考えている。



アンケート結果速報を参考に、仮の人物像(ペルソナ)から今後の清田の暮らしに求めるニーズを検討

参考としたアンケート結果速報

- 家族構成はパートナー(配偶者)と同居 → 夫婦2人暮らし 30代
- ・勤務地 → 中央区に就業
- ・地域活動に必要な機能 → 知識や学びを得られるテーマに参加したい
- ・歩きたくない要素 → 公園やオープンスペースがあること、広場でのイベント

36歳 女性 半農地区 戸建て住宅に夫30代と居住

- ・平日は札幌郊外の企業に勤務している。
- ・車を所有しているが、通勤にはバスと地下鉄で移動している。
- ・帰宅後18時からは区役所の交流スペースで行われている清田の地産地消の料理教室に参加している。
- ・市民交流広場は日常的にキッチンカーが出店するようになり、軽食のテイクアウトができることが楽しみである。
- ・区役所周辺では、緑があったりいつも何か行われている雰囲気があり、何気なく散歩にすることが増えた。
- ・休日は夫とイオンモール札幌平岡で開催されているイベントや樹芸センターへ足を通っている。



アンケート結果を参考に、仮の人物像（ペルソナ）から今後の請田の暮らしに求めるニーズを検討

参考としたアンケート結果速報

- 家族構成 → 子どもと専業主婦（子育て世帯）
- 勤務地 → 通田で就業（在宅勤務）
- 遊び・レジャーで出向く先 → 公園・緑地、温泉施設
- 地域活動に必要な機能（屋内機能）
 - Wi-Fi、ミーティングスペース、コワーキングスペース
- 歩きたくなる要素
 - 公園やオープンスペースがあること、商業施設、車庫、歩きやすい歩道、広さなど



- 43歳 男性 北野 戸建て住宅に妻40代・小学生と未就学の子どもと4人で居住**
- 午前中は在宅で、午後からバスで区役所内のミーティングスペースやコワーキングスペースで仕事をする。
 - 仕事の休憩時は、カフェで昼食を購入して、天気がいい時は、広場の芝生やベンチに座ってラウンジをとる。
 - 早めに昼食をとって、区役所周辺を歩くこともある。
 - 子どもは秋に市民交流広場で行われる例年の軽トラ市を楽しみにしている。
 - 休日は子ども連と、あしりべつ田舎いを自転車でサイクリング。酒田公園でスポーツを楽しんだりしている。

事例: わいわいコンテナ (佐賀県佐賀市)

- 街なかで誰もが無料で、自由に楽しむことができる「空き地リビング」
- 空き地のコンテナを設置し、寛くつろぎの時間に、友達との待ち合わせに、お昼休みの休憩に、仲間とのダベリングに、親子で子どもとの団らんに、さまざまな使い方がされている。



事例: 豊田市駅東口まちなか広場とよしば (愛知県豊田市)

- 多様な人々が「集い」「交わり」、アイデアと受賞が「生まれ」そして「育つ」ための拠り所となる場、アイデアやチャレンジの受け皿となる開かれた場として整備された。
- 芝生は自由につかうことができ、イベントなども開催される。
- まちなか活用の勉強会をひらくなど、場と人を育てながら活用していくことをコンセプトとしている。



事例: Park[ing]Day (山形市飯沼町など)

- 「車のための空間を人のために使ってみる」ことをコンセプトに、路上駐車スペースを小さな公園として使ってみるイベント。
- 公共空間の活用の実証実験として、世界的に実施されている。



事例: 延岡駅前複合施設「エンクロス」(宮崎県延岡市)

- 「新しく自由のあるまち」というコンセプトで女性や子ども、若者、ご老人、ビジネスマンや観光客、延岡市民、宮崎県民、他県の方々、誰もがいつでも訪れることができ、自由な時間を過ごすことができる場所として使われている。
- 「市民活動でまちの中心に、にぎわいを創る」という理念のもと、市民活動の場やワークショップ、習い事の場、読書会やスターバックスなどの書店・カフェも入っており、多様な活動・賑わいを生み出す場となっている。

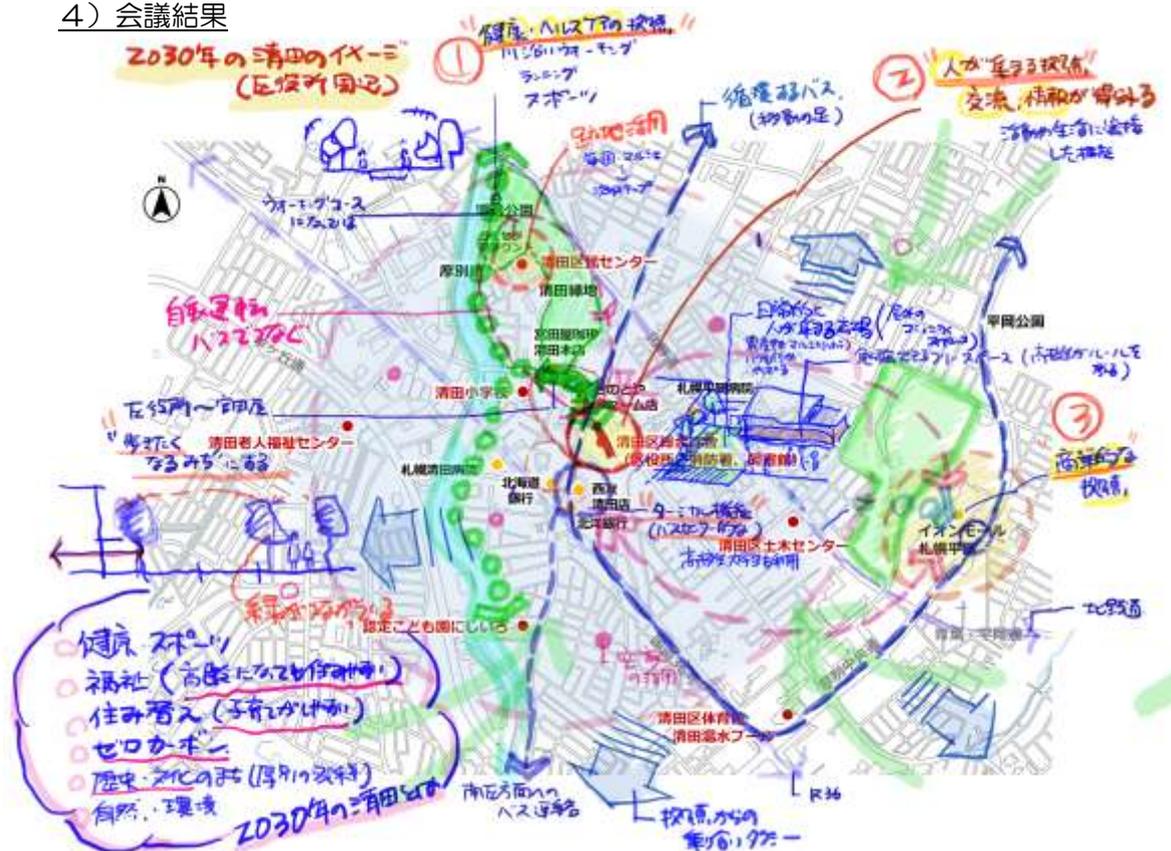


事例: えにあず (恵庭市)

- 市民活動センター、保健センター、夜間・休日急病診療所、図書館東館分館、学習クラブ、子どもひろば、子育て支援センターが、民間施設としては宮の森スポーツクラブ、セイコーマート、地域FM放送e-rivaiが入る
- エントランスホールやロビー、カウンター席は読書や勉強、交流の場として自由に利用することができる。



4) 会議結果



①2030年の清田のまち（全体）のイメージ ～キーワード

- 子育てがしやすいまち（住み替えがしやすい、空き家などの活用）
- 自然が豊かで健康に暮らせるまち（高齢になっても暮らしやすい）
- ゼロカーボン・環境にやさしいまち
- 厚別発祥の地として歴史・文化を育むまち

②区役所周辺の将来のイメージ

- ・区役所周辺（地域交流拠点）は人・暮らしの交流⇔イオン平岡は商業 差別化
- ・モビリティ（自動運転バス）で各拠点をつなぐ

A) 区役所・市民交流広場：人が集まる拠点（交流・情報・生活支援）

- ・いつも何かやっている・日常的な賑わい ～市民交流広場で農産品・マルシェ
- ・コミュニティスペース（屋内外）、勉強スペース、行政機能 ～区役所
- ・バスのターミナル機能 ～セイユー

B) 区民センター周囲：健康・ヘルスケア拠点

- ・あしりべつ川沿いをウォーキングコース
- ・区民センターの跡地活用
- ・区民センター～宮田屋～区役所間を「歩きたくなるみち」にする（緑化・パーキングデイ）

C) イオン平岡：商業機能の拠点

拠点の大まかな役割や位置づけが出された

必要な機能の一部も出された（コミュニティスペース、ターミナルなど）

<グループごとの意見>

Aグループ

●施設について

<区民センター>

- ・区民センターは若い人も含め様々な人が利用できる施設にしたい。
- ・区民センター前にある広場の地面は土であり風が起るとほこりが舞ってしまうために芝に変えたら今よりも利用しやすくなる。
- ・区民センター前の広場で定期的にイベントを行っているが雨天時に使用できなくなるため、天気に関係なく使用できるようにして欲しい。

<あしりべつ川>

- ・あしりべつ川には散歩している方やサイクリングをしている方が多く、ぶつかる可能性があるためにサイクリングコースを作成して欲しい。
- ・あしりべつ川では休憩できる場所がないため、ベンチ等を設置した方が良い。
- ・あしりべつ川緑地に子どもが遊べる公園などの憩いの場を作成して欲しい。

<その他>

- ・運動できる公園が交流拠点には少ないので設置した方が良いのではないか。
- ・交流拠点には警察署や郵便局がないため生活で使う時に交流拠点から離れる必要が出てきてしまう。
- ・小さい病院なら交流拠点にもあるが総合病院のような大きな病院があった方が高齢者の方は安心することができる。
- ・子どもの教育として美術館や音楽ホールのような文化的な施設があると子育て世代のためになるかと思う。
- ・札幌ドームで野球以外に音楽ライブなどのイベントを行えたら野球ファン以外にも清田区に訪れるようになるかと思う。
- ・さらに訪れる人が増えてくるとホテルの誘致もすることができる。

●イメージ（印象）

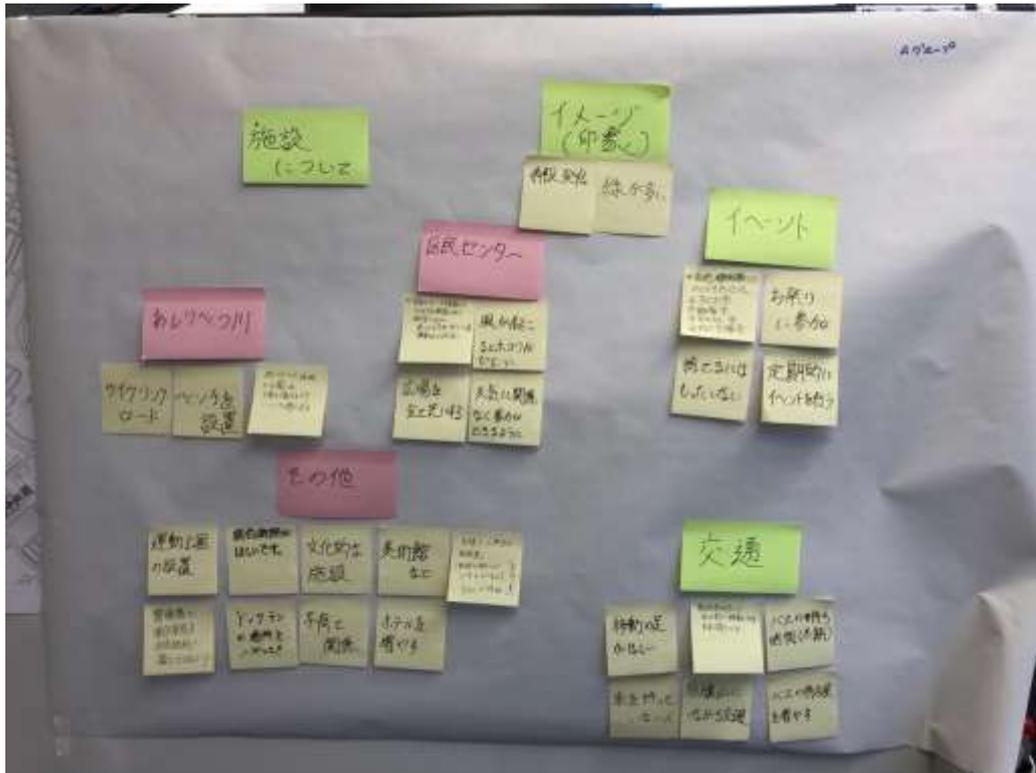
- ・清田区は情報発信の種類が少なく住民に情報が伝わらないことがあるためにSNS等の活用を増やして欲しい。
- ・清田区には他の地域と比べて緑が多く、その情報を外に発信して欲しい。

●イベント

- ・毎週、どこかでイベントをやっているようにしたら他の地域からも人を集めることができると思う（①子ども市、②野菜市、③おもてなし市、④物々交換市）
- ・フリーマーケットを行うと捨てるにはもったいない物を他の人が使ってもらうことができエコにもつながる。

●交通

- ・清田区には電車もないため移動の足が欲しい。
- ・清田区各地区から中心街に移動しやすい交通網を作って欲しい。
- ・冬のバスの待ち時間が寒く辛いため待合室を増やして欲しい。
- ・車をもっていない人は移動するのが難しく車に乗れない高齢者の方に厳しいと感じる。
- ・白旗山と交流拠点につながる交通はなく車を持っている人しか行けない。
- ・そのため白旗山と交流拠点の交通をつなげることができれば観光地や散歩コースとして活用することができる。



Bグループ

●厚別川周辺

- ・厚別川沿いは散歩やウォーキングができるようなエリアとなると良い。
- ・スポーツの拠点、健康の拠点となると良い。
- ・普段自然と触れ合う機会の少ない子供達が川で遊べるような場所となると良い。

●区民センター周辺

- ・歴史深いエリアでもあるので、清田区の歴史を感じられるエリアとなると良い。

●安全安心で子育てしやすい、高齢者も暮らしやすいまち

- ・警察署の設置など地域の安全を考えていくことも必要である。大きな交番でも良い。
- ・10年後も子育てのまちとして子育て世代が多く来るようなまちとなると良い。
- ・一方で、高齢化も進んでいくため高齢者の住み替えに対応したまちになる必要がある。
- ・空き家(戸建て)に新しい人がきちんと入ってくれるような、入れ替えのしくみが必要である。
- ・ゼロカーボン、水素・バイオのまちのような環境への配慮も進めていくと良い。

●地域の魅力を生かした観光

- ・札幌オリンピック開催も想定し、白旗山を活用した観光により集客できるのではないかな。
- ・清田区はスイーツ店やカフェなども多く集まっているのでその魅力を発信していきたい。

●イオンモールとの役割分担

- ・拠点は、イオンモールと差別化を図りながら役割分担をしていく必要がある。
- ・冬はイオンモールに人が集まるが、駐車場が狭いのが課題である。

●地域交流拠点の機能

- ・地域交流拠点を中心に、上から下に人の流れをつくりたい。各地域はバスでつなぐとよい。
- ・地域交流拠点には、ちえりあ的な施設があると良い。



C グループ

●「緑」区内を周遊できる空間

- ・清田区は自然に恵まれている。ここは10年後と言わず今から、活かす必要がある。
- ・区内は緑が多い場所が点在しているので、これをつなぐウォーキングコースをつくるなど周遊することも検討すると良い。
- ・緑地はアオサギの生息地でもあり、このような貴重な自然も存在している。

●「情報」情報が自然と入る環境

- ・清田区の中心地区でイベントを今後開催するにしても情報の発信が清田区の課題となるところである。
- ・イオンさんは情報を常に発信しており、買い物客自身が自分の欲しい情報を手に入れることができる。
- ・清田区としてのイベントや情報も区内の施設と連携し強化することも検討する。

●「交通」域内の循環と区役所周りの環境の整備

- ・バスターミナルがあるとよい。
- ・交通の便のよいところがより“日常的”な環境になってくる。
- ・駐車場スペースが中心部も確保されると滞在時間を増やすことができる。
- ・区民まつりの時には循環バス利用者が多いので、イベント時の循環バスは利用が見込める。

<今後の域内の活用案>

●厚別川の利用を増やす

- ・厚別川はパークゴルフ場や緑が多く、サイクリングロードしても利用する人が多い。
- ・あしりべつ川は釣りで楽しむ人が多い（サクラマス、ヤマベ）。

●地域に根ざしたイベントを開催する

- ・天気に左右されないことが必要である。
- ・区役所で毎週産直があるとよい。
- ・キッチンカーがあるとよい。
- ・子育て世代のイベントを開催する（子育て世代の呼び込み）。
- ・農産物の直売所を設置する（主婦層の呼び込み）

●清田地域に点在するスイーツ店の活用

- ・清田区の再発見として活用する。
- ・現在のスイーツのスタンプラリーを行っているのをこれを推進する。
- ・区役所前でミニマルシェを開催する（現在は7～10月、月に2回土日）。

●企業や大学施設の利用

- ・コカ・コーラさんや札幌国際大学のスペースを駐車スペースとしたり、町内ウォーキングの休憩スペースとし、キッチンカーを呼び込んだりと活用する。
- ・イオンモールなどは常にイベントやお買い物といった情報を発信しているので、このような施設と連携し情報発信を行う。

D グループ

●区役所から厚別川までのルートは歩いて楽しいものにしたい

- ・厚別川の遊歩道は散歩コースとして最適であるが、パークゴルフが行われているので、ルールづけも必要かと思う。
- ・清田小学校の周辺には桜並木もあり、春にはとても綺麗である。
- ・区役所から厚別神社周辺の道も、自然が綺麗で歩いていて楽しい。

●公園を自然と触れ合える場・交流の場にする

- ・落ち葉は邪険にされがちだが、そこから子どもが自然環境を学ぶような機会があると良い。
- ・コロナで室内に集まれなかったときは、公園で集まりを開いたこともあった。ベンチやテーブルを設置して、交流できるような場としたい。
- ・地域の交流の場所は、徒歩圏内の公園を小さな拠点とし、区役所周辺を大きな拠点として、アクセスを高められると良い。

●拠点へのアクセスを高める

- ・乗り合いタクシーなどの制度があると良いのではないか。
- ・乗り合いタクシーの実証実験を清田で行ったことがあるが、行きは良いが、帰りのタイミングが合わないのが難しかった。
- ・里見地区などは特に公共交通の便が悪い。清田区の各拠点をまわる循環バスが必要である。

●地域交流拠点に来るきっかけづくり

<歩くことでポイントが貯まる仕組み>

- ・歩くことでポイントが貯まって、イオンで使えるような仕組みがあるとよい。

<来たくなるコンテンツづくり>

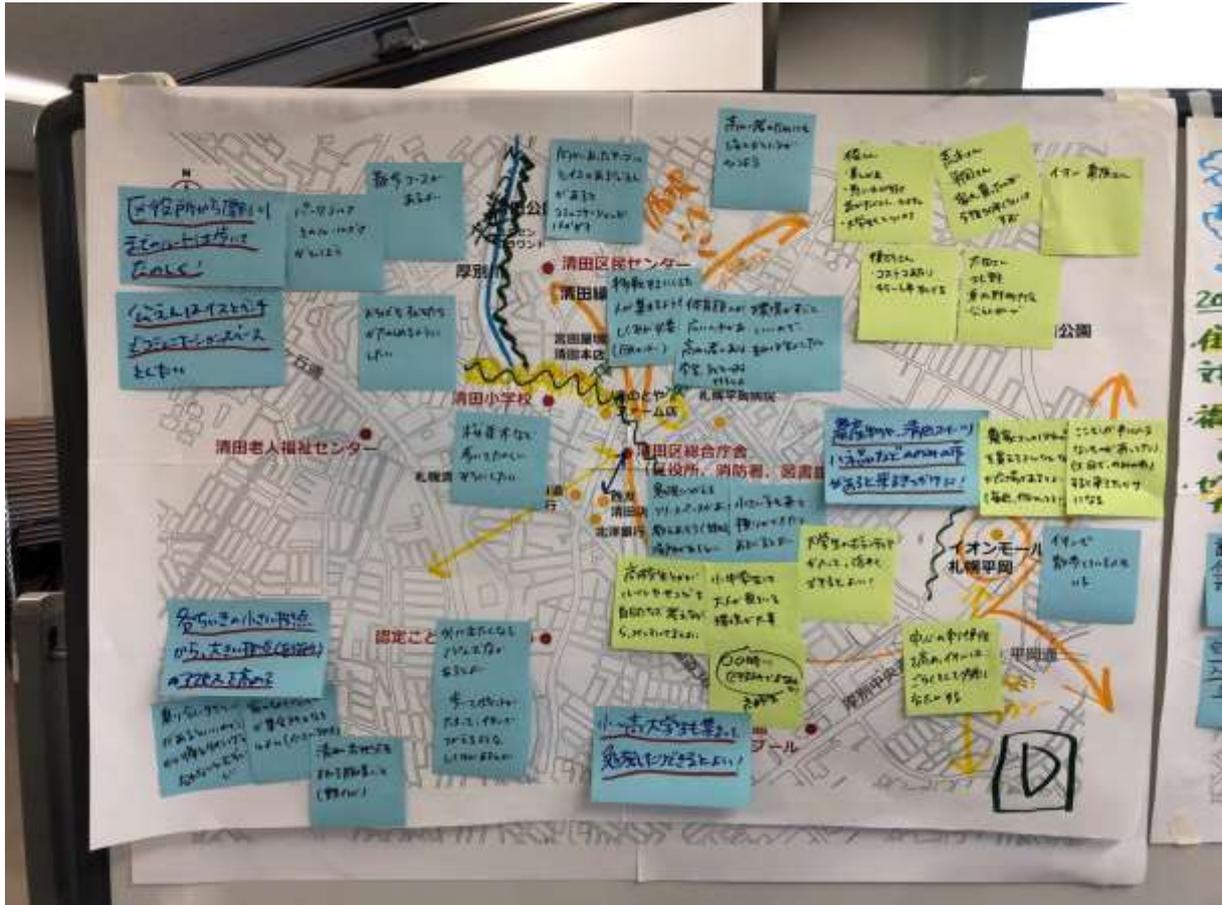
- ・地元農作物や清田スイーツのハネ品などの蚤の市があるときかけになるのではないか。
- ・小学生から大学生までが遊んだり、勉強したりできる場所があると良い。
- ・小学生に大学生が勉強を教えたりできるような、会話もできるフリースペースがあると良い。
- ・低学年以下の子どもを清田周辺の大学の保育や教育を学ぶ学生がボランティアで面倒を見たり、勉強を教えたりできるような取組ができると良い。恵庭市では行っているところもある。
- ・高校生の勉強スペースをつくるならば、どのような設えやルールが必要かなどから高校生と考えてつくっていけると面白いのではないか。

●区民センターの活用

- ・体育館のような広い部屋があると高齢者の集会や子どもの学習会なども開けるのではないか。
- ・とにかく自然環境が素晴らしいのでそれを生かしていきたい。

●地域交流拠点とイオンとの役割分担

- ・拠点は地元ならではのものや情報が手に入るような利便性を高め、イオンは娯楽施設として役割を分担すると良いのではないか。



(2) 第2回きよた暮らしラボ（意見交換会）の開催

1) 開催概要

日 時：令和3年12月18日（土）13：30～15：30

場 所：清田区役所 大会議室

参加者：21名

事務局：札幌市政策推進課 4名

清田区 3名

株式会社グローバルデザイン 安達、酒本、松田、高橋、青竹

2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・第1回の振り返り ①2030年の清田のまち（全体）のイメージ ②区役所周辺の将来のイメージ
14：00	休憩	
14：10	意見交換	・2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能はなんですか？ ・地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組はなんですか？
15：30	閉会	



3) 説明資料

第1回きよらポの振り返り

①2030年の清田のまち(全体)のイメージにつながるキーワード

- 子育てがしやすいまち
 - ・地域全体で子どもを見守り、育てられる
 - ・空き家を使うなどで移住がしやすく、自然の中で子育てができる など
- 多世代が健康に暮らせるまち
 - ・住替えがしやすく、高齢になっても暮らしやすい など
- 豊かな自然を次世代につなぐゼロカーボン・環境にやさしいまち
 - ・現在の豊かな自然を生かした魅力がある
 - ・ゼロカーボンなどの環境保全の取組をしている など
- 厚別発祥の地としての歴史・文化を育むまち
 - ・あしりべつ神社や資料館など、歴史や文化を育み、子供たちに伝えていく など

第1回きよらポの振り返り

②区役所周辺の将来のイメージ

第1回きよらポの振り返り

区内のエリアと繋がる交通

区民センター周辺
健康・ヘルスケアのエリア

- ・あしりべつ川沿いをウォーキングコースにする
- ・区民センター→区役所間を「歩きたくなるみち」にする
- ・歴史、文化を感じられる場所となる など

区役所 市民交流広場
人が集まるエリア(交流・情報・生活支援)

- ・「ひとつも何か受けている+日常的な賑わい」がある(市民交流広場で農産品・マルシェなど)
- ・館内外のコミュニティスペース、勉強スペース など

イオンモール 札幌平岡周辺
商業機能のエリア

- ・徒歩、車など

区内のエリアと繋がる交通

意見交換

テーマ1
2030年のきよらの中心部としてまちの価値を高める機能はなんですか？

テーマ2
＜第1回きよらポの意見＞
・区役所・市民交流広場でいつも何かやっているといい！
・人が集まるきっかけになる日常的なにぎわいづくりの取組が必要

地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組はなんですか？

豊田市駅東口まちなか広場とよしば(愛知県豊田市)

＜主な機能＞

- カフェ・飲食機能
- まちを育んだイベント機能
- 人材育成の機能

・多様な人々が集い「交わり」、アイデアと愛着が生まれ、そして「育つ」ための拠り所となる場。アイデアやチャレンジの受け皿となる開かれた場として整備された。

・芝生は自由につかうことができ、イベントなども開催される。

・まちなか活用の勉強会をむらなくなど、場と人を育てながら活用していくことをコンセプトとしている。

えにあす(恵庭市)

＜主な機能＞

- 子育て支援機能
- 運動機能
- カフェ・飲食機能
- 高齢機能
- 学習・研修機能
- など

・市民活動センター、保健センター、夜間・休日急病診療所、図書館、児童遊園地、学習クラブ、子どもひろば、子育て支援センターが、民間機能としては京の森スポーツクラブ、セイコーマート、地域FM放送e-mwaが入る

・セントラルホールやロビー、カウンター席は読書や勉強、交流の場として自由に利用することができる。

わいわいコンテナ (佐賀県佐賀市)

・街なかで誰もが無料で、自由に楽しむことができる「空き地リビング」
 ・空き地のコンテナを設置し、夏(くつろ)ぎの時間に、友達との待ち合わせに、お昼休みの休憩に、仲間とのダベリングに、親子で子どもとの団らんに、さまざまな使い方がされている。

<主な機能>
 交流機能(ベンチ・イス)
 運動機能
 情報提供機能



Park(ing)Day (山形市旅館町など)

・「車のための空間を人のために使ってみる」ことをコンセプトに、路上駐車スペースを小さな公園として使ってみるイベント。
 ・公共空間の活用の実証実験として、世界的に実施されている。

<主な機能>
 交流機能(ベンチ・イス)



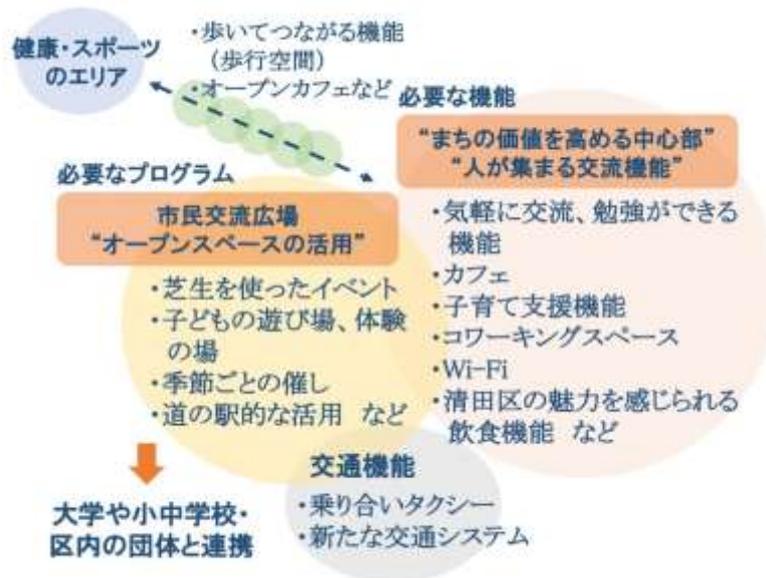
平岸GOGOベンチプロジェクト (札幌市豊平区)

・地下鉄平岸駅周辺のお店の軒先などに木製ベンチ5基を設置し、地域にお住まいの方、地域を訪れる方が自由に使えるようにしている。
 ・「平岸まちづくり指針」に基づき、平岸中央商店街振興組合と札幌市が連携し、コロナウィルス感染症により必要性が高まっている屋外での休憩、飲食スペースを生み出す取組である。

<主な機能>
 交流機能(ベンチ・イス)



4) 会議結果



① 2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能はなんですか？

- コミュニティ機能（気軽に交流、勉強ができるなど）
 - ・ 勉強や仕事ができるイスとテーブル
 - ・ おしゃべりができる場所 など
- 子育て支援機能
 - ・ 子育てサロン、子どもの遊び場
 - ・ 子どもを遊ばせながら休憩ができるカフェ など
- 飲食機能
 - ・ 清田の食の魅力を感じられると良い など
- コワーキング機能
 - ・ リモートワークに対応したコワーキングスペース
 - ・ Wi-Fi 機能 など
- 交通機能
 - ・ 区民センターなど周辺のエリアと歩いてつながる機能
 - ・ BRT（バス・ラピッド・トランジット）や自動運転バスなど新たな交通システム
 - ・ タクシー乗り場 など

② 地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組はなんですか？

必要なプログラムのアイデア（一部抜粋）

- 子どもたちの体験の場
 - ・ 子どもたちが自然と触れ合ったり、大学生が勉強を教えたりするような取組があると良い
- 拠点を活用するマネジメントの必要性
 - ・ 拠点を活用していくため、区内の団体がつながっていくと良い。

<グループごとの意見>

Aグループ

<2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能>

○集まるきっかけの機能

- ・いつも何かをやっているというイメージがつくと良い。
- ・映画館やカフェなど「人が集まるきっかけ」をつくり、普段の生活の拠点となるコンパクトシティを目指すことが考えられる。
- ・区役所周辺は、区民が「気軽に使える場」として活用されると良い。「清田区のハブ」となると良い。
- ・住む人が誇れるまち、生活面の利便性を求める。

○子育て中の方向けの機能

- ・子どもをフリースペースで遊ばせながら、会話や交流ができるカフェ機能があると良い。
- ・子どもが遊べる機能があると良い。
- ・気軽に子育て世代が集まり食事ができる場があると良い。
- ・ずっと住みたくなる、若い世代が住みたくなるまちになると良い。

○働いている若い方向けの機能

- ・Wi-Fi 機能(通信)など若い世代(20代)が来たいと思える機能が必要である。
- ・コワーキングスペース等があれば、若い世代が利用するのではないかな。

○区民センターと清田緑地の活用

- ・5年後に移転する、区民センターと清田緑地をどう活用するかも検討が必要である。
- ・自然だけにこだわらないまちづくりも考えられると良い。

○拠点へのアクセスを整える

- ・利便性の良い拠点をつくるだけでなく、そこにアクセスできる交通を整えることも必要である。
- ・地下鉄に頼らず、車がなくても生活ができる環境をつくる。
- ・人を集めたい地域の周辺の交通ネットワークを整える。

○人が集まると人口増につながる

- ・人口を増やす、移住したくなるまちづくりが必要である。

<地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組>

○対象に応じたテーマやプログラムを展開

- ・市民交流広場は、子ども、若い方(20～30 歳代など)、子育て中の親、働いている方、地元暮らし高齢者が利用対象になる。
- ・世代や季節に応じたテーマを設定し、賑わいづくりのプログラムを展開する。
- ・きよフェス、きよたマルシェは大きなイベントとして、継続することを前提に考える。
- ・大きなイベントを重視するより、まず日常的な賑わいを目指す。

○子どもを対象としたプログラム

- ・小学生などはコロナの影響もあって発表の機会が減少した。
- ・夏場に芝生の広場などで、音楽やダンスの発表会を行う。屋外であることを活用する。
- ・未就学や小学生などの低年齢だけでなく、中学生や高校生も発表の機会は限られている。特に音楽の発表機会を設けることが考えられる。
- ・スポーツ教室など、初心者でも遊び方を学べる機会を市民交流広場で展開できると良い。
- ・冬季は広場に雪山をつくって滑り台やそり遊び、雪だるまづくりなどプログラムを設ける。

○若い方(20～30 歳代など)を対象としたプログラム

- ・夏場には広場を活用して、アウトドアイベントや焚き火など、キャンプのお試しプログラムを行う。
- ・清田のスイーツ店が一同に集まるようなイベントを催す。
- ・冬はサウナを設置して冬場の楽しみ方を増やす。
- ・冬に外で焼肉を行うと面白いのではないかな。

○子育て中の親を対象としたプログラム

- ・親子で楽しめるスポーツ教室があるといい。
- ・ただスポーツができる空間を用意するだけでなく、屋外での遊び方を学べるプログラムをつくる。
- ・親と子どもに市民交流広場を使ってもらうには、アウトドアや焚き火などの「体験」プログラムが必要ではないかな。
- ・子どもと一緒に親の広場利用も想定できる。

○働いている方を対象としたプログラム

- ・キッチンカーなどが出店していると利用するのではないかな。

○地元暮らし高齢者を対象としたプログラム

- ・スポーツや健康づくりは年代に応じた嗜好があるように思う。
- ・ラジオ体操や軽い運動の仕方などを学べるプログラムを用意することが考えられる。
- ・野菜の販売なども考えられる。

Bグループ

<2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能>

○区民センター跡地の有効活用

- ・区民センターの跡地活用が重要である。
- ・体育館をここに持つてくるといいのではないかな。
- ・人が集まるような施設にすべきである。
- ・官民連携で活用を図る。
- ・「えにあす」のような施設があると良い。
- ・ボランティア団体の拠点にすると良い。
- ・行政施設としての機能は残した方が良い。
- ・体育振興会の事務所とすると良いのではないかな。

<地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組>

○イベントの開催

- ・大きな通りでよさこいをやったら賑わいが生まれるのではないかな。
- ・通りの名称をつけると愛着が育てられて良い。
- ・あしりべつという名称を活かした取組があると良い。
- ・空中回廊などで2つのゾーンをつなぐ取組があると良い。
- ・恵庭岳の眺めが良いので、それを生かした取組があると良い。
- ・オープンカフェなどでゾーンをつなぐことができても良い。
- ・子ども向けのイベントができると良い。

○拠点にあるべき施設

- ・良い景観があるので、それを活かした施設があると良い。
- ・清田のシンボルとなるような施設があると良い。
- ・デジタルの聖地にする。
- ・ホテルなどの宿泊施設があると良い。
- ・白石区役所のように官民連携した施設があると良い。
- ・集客力のある区民センターができると良い。
- ・歩いて集うエリアにすることが大切である。

○交通機能

- ・交通機能が重要である。
- ・ドローンサポートを検討する。
- ・福住からの新交通システムなどで延長できると良い。
- ・BRTなどのシステム(電気バス)を検討していきたい。
- ・路面電車などでも良いのではないかな。
- ・このバスセンターから北広島市などとの連携する交通システムがあると良い。
- ・高齢化社会なので交通は大切である。

Cグループ

<2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能>

○地域の魅力の見直し

- ・中心部の価値を高めるためには、身近にある公園といった、小さい交流の場の活用も並行して検討することが必要である。
- ・高齢者、子どもなど気軽に中心部の集いの場に行けない人も来やすい配慮があると良い。
- ・1人ひとりの暮らしに合わせたまちづくりが必要である。
- ・自分たちの家の近くの場も小さな交流拠点として活用することが必要。
- ・きよたの中心部は情報発信や交流の拠点となる機能が必要である。

○交通の拠点が必要

- ・交通(移動)の面が課題である。
- ・交通の拠点が必要である。
- ・きよたの中心部に人を呼び込むためにも、イベント時はバスのダイヤ見直しなどの検討が必要。

<地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組>

○取組のアイデア

- ・清田樹芸センターは秋の紅葉がきれいなので活用できると良い。
- ・自然や緑はそのまま大事にしていきたい。
- ・イベントと同時に人材育成も進められると良い。
- ・公園の整備はされているので、もっと活用できると思う。

○ターゲットを明確にしたイベントの開催

- ・各町内会や公園でイベントを開催して人の集まりがどのくらいできるかと試してみても良い。
- ・イベントなどもターゲットによって楽しみ方が異なるので、ターゲットを考えられると良い。
- ・キッチンカー、子育て支援など中心部だけではなくきよた地区内で移動して開催する動くイベントができると良い。
- ・食や子育てをテーマにしたイベントがいいのではないかな。

○交通の整備

- ・お祭りの時に循環バス等を活用し、日常的に使えるようにできると良い。

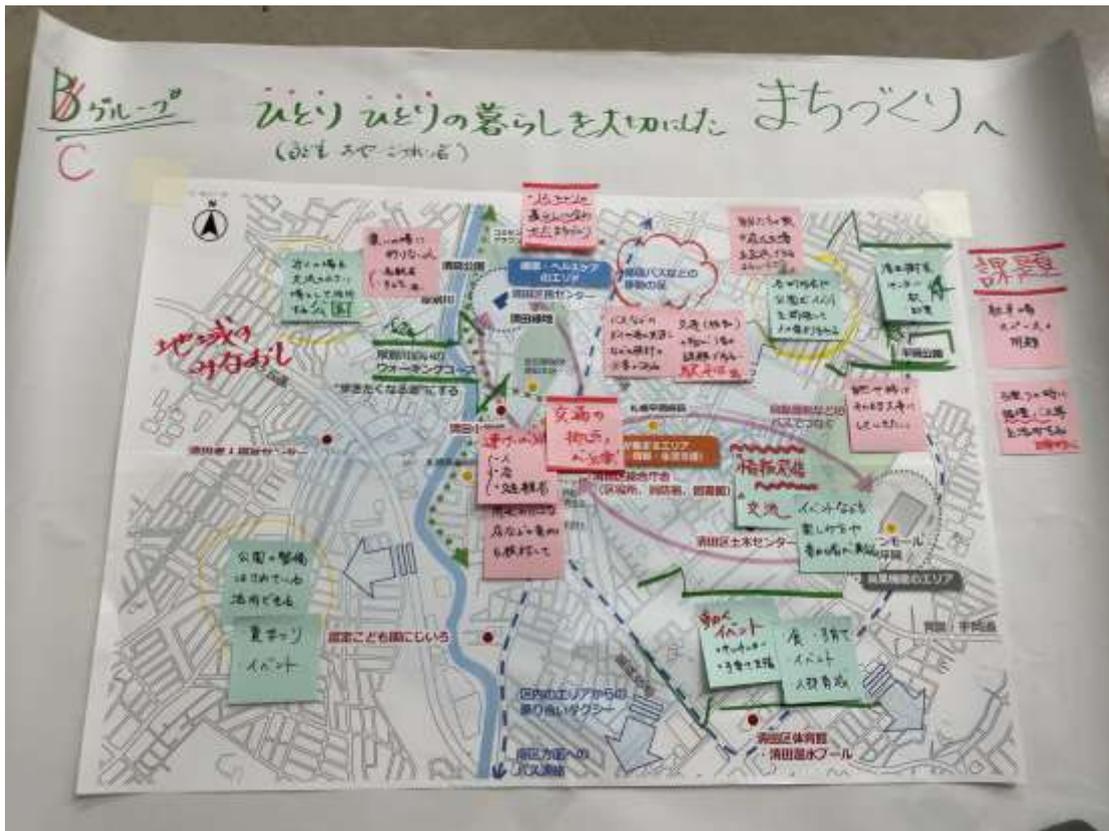
○運用体制

- ・人・店・交通事業者の連携が必要である。
- ・きよた中心部の周辺にある小さな店などの参加も検討し、地域での活性化を図る。

○課題

- ・中心部でイベント行っても、駐車スペースがないのが問題である。

■C グループ模造紙



Dグループ

<2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能>

○芝生、イス、ベンチなどの交流機能

- ・イス、ベンチがあると交流しやすい。
- ・高齢者は芝生に座りにくい。
- ・高齢者が外出するきっかけになるものがあると良い。
- ・芝生など人が集まる中心都になると良い。

○書籍、Wi-Fi 機能

- ・貸し会議室の機能は区民センターからそのまま持ってくると良い。
- ・本を読めるところがあると良い。
- ・Wi-Fi は若い人たちが使うのであると良いのではないか。

○清田の魅力を活かした飲食店機能

- ・農協の余ったモノを売るなど 新しい店を呼ぶのではなく、地元のお店を活かしたものと良い。
- ・飲食は西友など近くのお店の協力が取れると良い 商店街の賑わいにつなげたい。

○区民センターの機能を拠点に移転し、機能向上

○交通機能

- ・車で来ない人の向けに、タクシー乗降場があると良い。そのためには定期的に乗るニーズが必要である。
- ・乗り合いタクシーはまわる順番によって遅くなり不便であったが、時間が決まっていなかった目的地までの移動には便利だった。
- ・札幌オリンピックが開催されれば、白旗山の活用があることが予想されるので、地下鉄などの区内の交通ネットワークが重要である。

○イオンモール平岡との連携

- ・イオンが先行的に取り組んだ内容を区役所でもできるようにし、それが区内のエリアに広がっていくなど「連鎖」が起きると良い。
- ・買い物やフリースペースなどイオンでしかできないことがあるので、特性を生かした連携ができると良い。

○情報発信

- ・継続的に取り組みがやっていて、「いつも何かやっている」というイメージがつくと良い。

＜地域交流拠点の日常的な賑わいづくりのために、「やってみたい」「あったらいいな」と思う取組＞

○「きよた道の駅」のような場所になると良い。

○運営体制

- ・国際大学、北星大学のサークルなどの大学生や学校、商店街などいろいろな団体が連携し、取組を進められると良い。
- ・大学のボランティア、サークルが手伝ってもらえると良い。
- ・イベントカレンダーのようなものがあると他の団体と協力しあえるのではないかな。
- ・学生や学校、イオン、行政、N P O、商工会…など区内のさまざまな団体が連携するネットワークを構築できると良い。

○季節ごとのイベント

- ・季節ごとのイベントが年中やっていると良い。
- ・「まちのあかり」は区内の各所でアイスクャンドルを設置し、広くいろいろなところでやるようになってきた。拠点でもできるようにすると良い。
- ・もちつき大会など若い人たちがあまりできない行事ができるといい。
- ・マルシェなど小規模でも余った野菜を売るものがあると良い。

○助け合いや交流につながるイベント

- ・イベントを通して孤立や困りごとのある人とイベントの団体が繋がり、さらにそれを解決できる人や団体と繋げられるネットワークができるとよい。(イベントなどを通じて困りごとを聞いたり、それを解決できたりする体制)
- ・拠点での取組が小さい困りごとを助け合える仕組みや相談しやすい窓口となると良い。
- ・「どうでもいい話」でもちょっと聞いてほしいことを話せる場所、仲間ができる場所になると良い。

(3) 第3回きよた暮らしラボ（意見交換会）の開催

1) 開催概要

日 時：令和4年1月29日（土）13：30～15：30

場 所：清田区役所 大会議室

参加者：20名（会場：13名、オンライン7名）

事務局：札幌市政策推進課 4名

清田区 3名

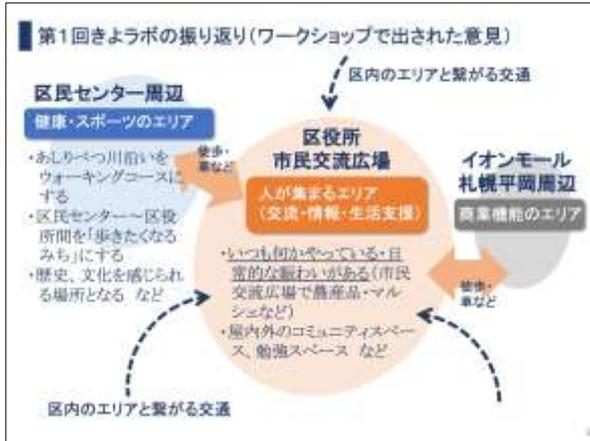
株式会社グローバルデザイン 安達、酒本、松田、高橋、深津、青竹

2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・第1回の振り返り 2030年のきよたの中心部としてまちの価値を高める機能と取組のアイデア
14：00	休憩	
14：10	意見交換	・地域交流拠点の魅力を高めていくために、まずは「どんな取組や活動」からはじめるか
15：30	閉会	



3) 説明資料



今までの意見交換で出された取組・活動のテーマやアイデア

●子育て

- ・子育て世代が参加しやすくなるイベント
- ・子育てサロン
- ・子どもを遊ばせながら休憩できるテラス

●健康

- ・厚別川沿いをウォーキングコースにする
- ・区役所から厚別川までを歩いて楽しい道にする
- ・親子連れで楽しめるスポーツ教室

●清田区の魅力発信

- ・清田の農産物のマルシェ
- ・清田スイーツを食べられるカフェ
- ・キッチンカー

●環境保全・自然

- ・川で子供達が自然と触れ合う
- ・アウトドアフェスタや焚き火、キャンプのお祭りプロジェクト
- ・雪山まつり、滑り台やそり遊び、雪だるまづくり、アイスキャンデル

●交流

- ・ベンチ、テーブルでおしゃべり
- ・知らない人とも気軽に話ができる
- ・大学生が小学生に勉強を教える
- ・勉強スペースのルールなどを学生で考えてもらう
- ・フリーマーケット
- ・オープンカフェ

●歴史・文化活動

- ・あしりべつの歴史を感じられる取組
- ・屋外で音楽やダンスの発表会







意見交換

テーマ

地域交流拠点の魅力を高めていくために、
まずは「どんな取組や活動」からはじめますか

・オープンスペース等を活用した取組のアイデアを考えましょう

29



取組を行うことで魅力を高める事例

- ・ 栃木県小山市 城山公園の活用
- ・ 札幌市 東区栄町
- ・ 網走市 網走中央商店街
- ・ 岩手県いわき市 大工町公園Park plus
- ・ 東広島市 市役所前キッチンカー
- ・ 東京都豊島区 池袋・GREEN BLVD MARKET(パークレット)

栃木県小山市 城山公園活用

- ・ 公園の再整備に向けて、キャンプしながら参加者がまちづくりを語り合う社会実験「みらい創造キャンプ」を実施した。
- ・ 通常は許可されていないキャンプを公園で実施してみたり、これからの公園活用に向けて意見交換をするなど、取り組んでいる。

賑わいをつくる

公園の再整備が決まる
再整備に向け、どのような活用ができるかを社会実験を行いながら検討
今後の公園の活用可能性の調査 ＜公園でのキャンプ実験＞ ・公園をキャンプ場とするときのルール ・実際に泊まってみて意見交換など
公園を再整備する際のハード施設などの検討につなげる

栃木県小山市 城山公園活用

つながりをつくる

公園の側を通る思川でSUP(サップ)やサップヨガを実施
周辺を活用したまちづくり

SUP(サップ)とは、スタンドアップ・パドルボード(Stand Up Paddleboard)の略で、専用のボードに乗ってパドルで進むウォータースポーツのこと。

札幌市東区栄町

- ・ 地元住民などによるワークショップを開催し、地下鉄東豊線 栄町駅周辺のにぎわいづくりや価値を高めること検討した。

賑わいをつくる **つながりをつくる**

栄町駅周辺のにぎわいづくり
ワークショップの開催 地元ができることを検討
冬のスノーキャンドル(PR) 企業も参加した駐輪マナーの改善 企業の協力によるベンチの設置 プランターの設置 大型店の協力を得た特急乗降の向上
冬の風物詩になっている

※スノーキャンドル 数夜を閉きながら継続している(2022年はコロナで中止)

2006年は雪まつり第2会場が「サップロさとらんど」になった最初の年で、ワークショップで検討したことを受けて、東豊線合町内会が中心となって栄町を明るくするためにスノーキャンドルを設置しました。

地下鉄東豊線栄町駅周辺にスノーキャンドル1000個を設置しました。
事業には107名(うち子ども28名)もの地域の方々が参加

写真: 東区連合町内会連絡会ホームページ

網走市中央商店街



- 網走中央商店街内の
ラルズ跡地の再開発事業
- テナント誘致も難しく
事業採算性が悪い再開発を見送り
- 商店街のにぎわい創出
- ラルズ跡地の有効活用を考慮した
商店街活性化の検討
- まちづくり会社設立協議会
- まちづくり会社を設立
- 朝市の開催
駐車場の運営
ふるさと納税品発送
情報発信
まちなかゲストハウス(令和2年度)

朝市の開催 **賑わいをつくる**

- 生鮮食品の購入先が少ないと言ったニーズに
対して「網走中央商店街」が朝市を開催(7月
~9月の毎週土曜日)
- 2016年7月からスタートし今年度も実施。



情報発信・ネット販売 **賑わいをつくる** **つながりをつくる**



起業・空き店舗対策のまちづくりセミナーの開催 **つながりをつくる**

カフェ講座の開催

- 札幌コミュニティカフェ組合の理事長に来てもらい、「カフェ講座」を開催。
- カフェ講座の受講生が空き店舗を活用して、カフェを営業している。

ゲストハウス講座の開催

- 札幌市内のゲストハウスYUのオーナーに来てもらい、話題提供してもらった。
- まちづくり会社が網走まちなかゲストハウスWATARUを営業している。

その他のまちづくりセミナーの開催

- 起業家セミナーなどを開催している。



市民参加の動き **つながりをつくる**

- まちづくりセミナーを通して知り合った市民やカフェオーナーのメンバー
が、「アパシリアソビ」という冊子を制作したり、コミュニティFM番組をス
タートしている。
- まちづくり会社とともに支援しています。



岩手県いわき市 大工町公園 Park plus

- まちなかにある公園や駐車場など、有効活用されていない空間(Park)に、
ちょっとだけ何かをプラス(+)してオープンエアで楽しい、新しいまちの日
常を作る

賑わいをつくる **つながりをつくる**

- 公園や駐車場の有効活用
地域のにぎわいづくり
- オープンスペースの活用に向けたた
まざまな使い方を提案実践
- 地元の飲食店や雑貨屋が出店する
マルシェや
オープンカフェの実施
- 継続的な実施
2020年から7回開催



岩手県いわき市 大工町公園 Park plus





恵庭市 市役所前キッチンカー

- 市役所駐車場キッチンカー販売をできるようにし、さまざまなキッチンカーが出店している。

販わりをつくる




市役所に隣接する市民会館の利用者の立ち寄り場所づくり

駐車場の三分のスペースを使い、市内外のキッチンカーが日替わりで営業

市役所周辺の薄暮にぎわいづくり
使用料を市の財産に

東京都豊島区 池袋・GREEN BLVD MARKET(パークレット)

- 道路上の駐車空間を使ってオープンカフェを設置

販わりをつくる

つながりをつくる

道路空間の利活用
オープンカフェ運営もエリアマネジメント組織へ委託に向けた進行

・利用者の行動観察
アンケート調査 など

道路空間の活用に向けたメ
リット・課題を整理
日常的な活用につなげる




※パークレット一歩道とフラットにつながるプラットフォーム部分を土管とし、車道との間の橋、段・椅子などのアメニティの他、花が植えられたプランターや駐輪スペースなどで構成された駐車スペース敷分の小さな空間

4) 会議結果



●オープンカフェ

- ・市民交流広場を中心に区民センターに向かう道路沿いもしくは駐車場にオープンカフェを設置
- ・キッチンカーを並べても良い。
- ・テーブルと椅子、Wi-Fiなどの環境を用意してみると、さまざまな使われ方をするのでは。
- ・合わせて郷土館も開館させる。
- ・区民センターまでの空き地や駐車場を活用してみる。など

●マルシェ+飲食機能

- ・清田の農産物やスイーツを販売するマルシェを開催、その場で食べられるような飲食機能をつける
- ・毎週〇曜日、など定期的に開催してみる
- ・車で来られるような体制づくり
- ・子どものお店体験など、子どもが楽しめるコンテンツ仕掛け
- ・テントを張るなど、アウトドアとしても楽しめるが良い。 など

●道に愛称をつける

- ・区役所から区民センターに向かう道に親しみやすい愛称をつける
- ・地区を「あしりべつ」を入れた名称に変える。
- ・区役所を出発点として歩きながら愛称を決める。
- ・期日を設けて各自で歩いてもらい意見をもらうなども考えられる。
- ・旧道には「あしりべつ桜並木」という愛称がつけられているため区民センター前の道路に愛称を付ける。
など

●歩いて楽しいイベント

- ・区役所から区民センターもしくは厚別川遊歩道を歩くきっかけとなるイベントを開催する
- ・既存のイベント「旧道・桜ウォーキング&花見会」と共同実施する。
- ・スタンプラリーを用意する。
- ・橋の名前を学びながら郷土館に向かうような学びのあるウォーキングイベント
- ・あしりべつ川沿いで水と親しめるイベントを実施
- ・写真の撮り歩きをして SNS に投稿し、映えポイント探しや情報発信につなげる など

●冬のにぎわいづくり

- ・雪を楽しむ遊びやスポーツをテーマにしたイベントを実施
- ・雪合戦大会
- ・スノーボードやカーリングなど冬のスポーツを楽しめる場所があると良い。
- ・厚別川沿いで雪だるまを並べコンテストを開催
- ・スノーシューで森林を歩く
- ・極寒の焼き肉やビアガーデン など

<グループごとの意見>

Aグループ

<地域交流拠点としてどのような取組・活動があるとよいか>

○試行的な取組・活動を行う際の方針(日常的な賑わいや魅力づくり)

・大きなイベントよりも定期的に行えるものを取り組んでみる。

例えば月1回の実施、大人数の集客ではなく少人数でも定期参加できる、などが望ましい。

取組・活動を通じて、子ども達や学生などの若い世代に清田区の良さに気づいてもらう。

・今まで行なったことがない使い方に取組んでみる。

2つの取組を組み合わせる、これまでとは違う使い方などができると人が集まるのではないかな。

・区内の事業者や団体、学生などと協力・連携して取り組む。

○オープンスペースを活用して試行的に行うことが考えられる取組・活動

<ウォーキング・スタンプラリー>

・区役所から区民センターまでの道のりを歩く取組・活動が考えられる。

・清田緑地の心地よさ、健康づくりの促進と清田の魅力を再発見することにつながるのではないかな。

・ウォーキングの取組・活動は、これまでも取り組まれてきた。参加の機会は充実していると言える。「旧道・桜ウォーキング&花見会」などもあるが、参加者の顔ぶれが同じで区民全体には定着していない。

・子ども向けにはスタンプラリーが良いのではないかな。参加景品を貰えるなどの仕掛けがあると良い。

・北海道コカ・コーラでは歩いてポイントが貯まる「Coke On ウォーク」のサービスを展開している。既存のサービスや企業と連携して取り組むといいのではないかな。イオン北海道とも協力できないかな。

・ウォーキングとスタンプラリーなど、既存の取り組みを組み合わせることで、新たな魅力づくりになる。

・取組・活動を通じてウォーキングルートとして定着させて、その後、必要なハード整備へとつなげる。

<オープンカフェ>

・区民センターの駐車場で屋台などが行われていると良い。

・屋台というよりは、小さいテーブル・イスを設置してコーヒーやお茶を提供するカフェの方が狭いスペースでも日常的に楽しめる取組・活動になるのではないかな。

・景観の良い場所で、コーヒーやアルコールが飲めると世代ごとでも楽しめるのではないかな。

・歩行空間にテーブル・イスを設置し、区民活動を披露してもらうことで、ウォーキングと組み合わせることもできる。

・景観の良い写真やカフェがまちの魅力を高める活動のスタートになるのではないかな。

・セイユウの屋上駐車場を活用できるように協力してもらいたい。

・やわらぎ斎場清田で「つながりマルシェ」が開催された。駐車場にはキッチンカーも出店した。人が集まるイベントとなった。

・市民交流広場で薪能(たきぎのう)が行われたことがあった。今までにないような広場の使い方だったためか、人も集まった。

・いつもの場所で今までやったことのないものを行うことで、区民の注目を集めることができる。

< SNS を活用した写真撮り歩き >

- ・清田緑地を通る区民センターまでの道路や厚別川沿いなどで、写真の撮り歩きが考えられる。
- ・インスタグラムなど SNS を活用することで、清田中心部の魅力発信にもつながる。
- ・散歩をすることが好きな人は若い世代でも一定以上いる。
- ・インスタグラムで写真映えするスポットなどを決めると良いのではないかな。
- ・大学生に声を掛けて、写真の撮り歩きに参加してもらおう。
- ・清田区は花・緑のまちづくりの一環でフォトコンテストも行っており、市内 10 区の中でも力を入れている。

< その他の取組・活動のアイデア >

市民交流広場でのマルシェ

- ・コロナ禍で縁日の雰囲気を取り戻すことを目指した「昭和マルシェ」が北広島、清田(市民交流広場)、新札幌で行われた。子ども達が楽しんでいた。
- ・子どものお店体験など、子ども達に関わりながら楽しめる仕掛けをつくる必要があるのではないかな。
- ・市民交流広場でイベントを行うと、宮田屋珈琲も出店してくれるのではないかな。

スイーツの販売会

- ・市民交流広場で清田スイーツを提供するのはどうか。老若男女問わず人気があるのではないかな。
- ・清田スイーツなど既存の取組に高校生たちと協力して今後の動きにつながるのではないかな。

区民センター前の清田6号線の愛称づくり

- ・すでに旧道には「あしりべつ桜並木」という愛称がつけられているため区民センター前の道路に愛称を付けることは良いかと思う。
- ・区役所を出発点として歩きながら愛称を決める。
- ・感染症対策を考慮すると、期日を設けて各自で歩いてもらい意見をもらうなども考えられる。

あしりべつの歴史や水の歴史を生かす

- ・コカ・コーラの付近に吉田用水跡があり、歩くコースとして使用する予定である。
- ・歴史のエリアとして使うことが出来ないかな。

○お試しの取組・活動の実施体制(使いこなすための仕組みづくり)

- ・お試しで行うにしても、個人で行うのか区役所で行うものか検討する必要がある。
→実施体制は議論が必要と考えている。事務局と関係者で進めていくこともあるかもしれない。
- ・ハード面を使いこなせるようなソフト面の仕組みづくりが必要ではないかな。
- ・高校生や大学生、事業者とも協力・連携して取り組めると良い。

○その他、情報発信の強化

- ・回覧板を見ていない世代が少ないので情報発信が必要ではないかな。
- ・清田公園の野球場、厚別川の付近でパークゴルフ、河川上にこいのぼりも揚げている。色々な活動が行われているが、誰が行なっているのか知られていない。いかに区民に参加してもらうかが重要である。

Bグループ

<地域交流拠点としてどのような取組・活動があるとよいか>

○目指すイメージ

- ・「あしりべつ」の歴史を感じるエリアにしたい。
- ・区民センターのところに人がたくさん歩くと良い。
- ・区民センターの拠点性を高めたい。

○エリアの名称と通りの名称を考える

- ・地区を「あしりべつ」を入れた名称に変える。
- ・エリアの名称や通りの名称を考える。

○通りのにぎわいをつくる

- ・郷土館を休日も開館させる。
- ・オープンカフェをやる。
- ・きよたスイーツまつりを通り沿いでやる。
- ・キッチンカーが並ぶと良い。

○あしりべつの歴史を感じさせる取組

- ・橋の名前を学びながら郷土館へ向かうルートを考える。
- ・郷土資料館で学ぶ機会をつくる。
- ・ガイドを育成する。

○道の駅のような施設を目指す

- ・車で来られる集客施設も必要である。
- ・地元の農産物などの販売がある。
- ・官民連携の体制が必要である。

○魅力を高めるしくみ、さまざまな団体の連携が必要

- ・にぎわいづくりはさまざまな団体の連携が必要である。
- ・歴史に詳しいメンバーはいる。
- ・冬は雪合戦大会のメンバーがいる。
- ・バンドをやっている人もいる。

○既存のイベントのバージョンアップ

- ・区民まつりは2日間だったが、今は1日になった。3日間くらいに延長し、バージョンアップをする。
- ・区民まつりのエリアの範囲を広げる。
- ・きよフェス、きよたマルシェは継続させる。

○冬のにぎわいづくり

- ・冬のにぎわいとして野外焼肉大会があると良い。
- ・冬は雪合戦の練習がある。
- ・旧道の桜並木で焼肉ができるのではないかな。

○健康・スポーツのエリアについて

- ・健康・スポーツのエリアから人の動きをつくり、エリアの再開発を目指したい。
- ・スポーツの拠点として機能させたい。
- ・清田緑地の整備も必要である。

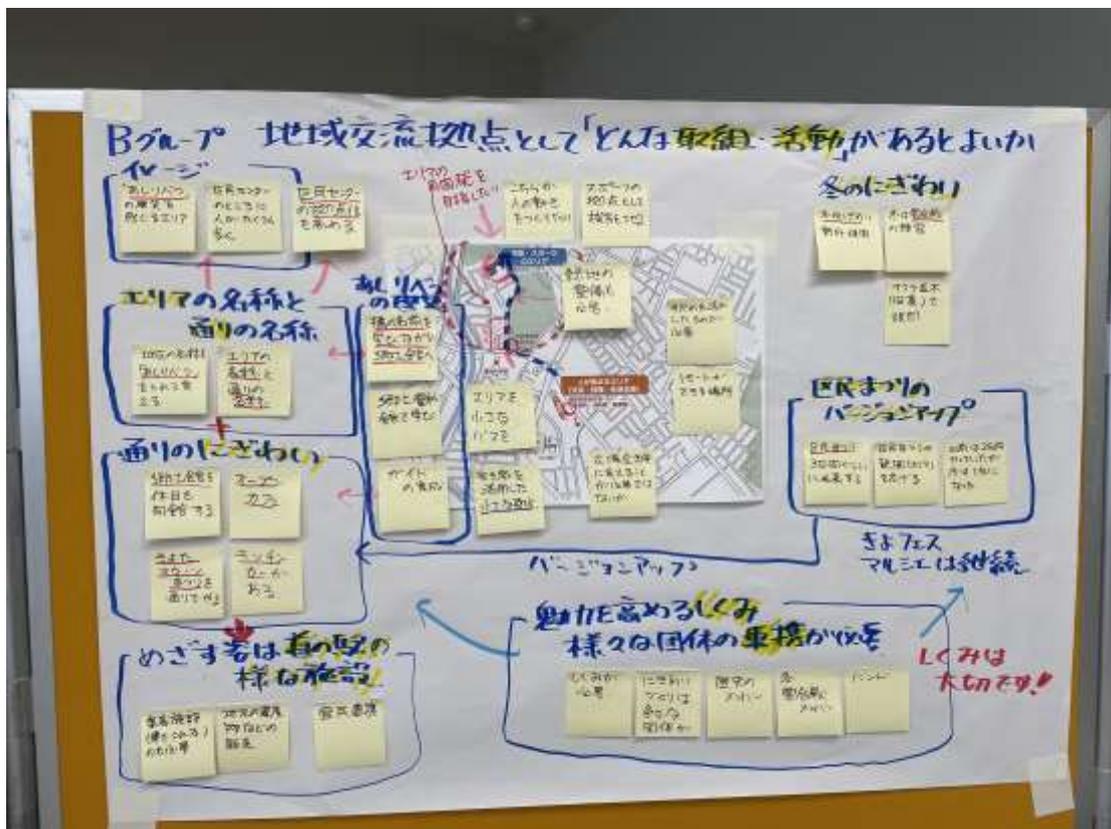
○人が集まるエリアについて

- ・眺めを活かしたものが必要である。
- ・リモートワークができる場所があると良い。
- ・市民交流広場は全天候型に変えることが必要ではないかな。

○区内の小さな拠点をつなぐネットワーク

- ・空き家を活用した小さな拠点があると良い。
- ・エリアを小さなバスでつなぐと良い。

■B グループ模造紙



Cグループ

○健康公園づくり

- ・清田緑地の設備としては、自然を活かしたものが必要である。
- ・清田緑地とグラウンドの活用が必要である。
- ・多世代の活用が可能である。
- ・健康公園とし、多世代で楽しめるものとなると良い。
- ・健康器具がある。
- ・ピクニックなどでのんびり過ごせると良い。

○清田グラウンド

- ・清田グラウンドは憩いの場として、外で開放的に過ごせると良い。
- ・テントを常設して自由に利用でき、焚き火などアウトドアの体験ができる様にできると良い。

○区役所から区民センターまでの道

- ・みどりを増やして歩ける道づくりが必要である。
- ・ベンチや東屋を置き、道路を使って憩いの場となると良い。

○厚別川の遊歩道の活用

- ・厚別川の遊歩道を活用したい。
- ・年間を通して、ウォーキングやスノーシュー、サイクリングなどが楽しめるが良い。
- ・遊歩道の整備をしておく、災害時の備えとしても活用できる。

○市民交流広場は1年中みんなで楽しめる広場とする

- ・ブラスバンドや幼稚園の発表会、フラダンスや日本舞踊など自由に使える広場になると良い。
- ・マルシェで、ケーキや野菜、アイスなどをキッチンカーで提供されると良い。
- ・区役所の空中歩道なども活用できるのではないかな。
- ・花壇がいっぱいあり、彩りが増えると良い。
- ・プランターに小中高の名前をつけて育てる。
- ・花を育てることで地域を愛する心が育つのではないかな。

○交通整備も並行して行う

- ・拠点の外から人をどのように繋ぐのかも大切である。
- ・循環バスも一緒に考えると良い。
- ・北野通の整備も必要である。
- ・区民センター跡地は駐車場となると良いのではないかな。
- ・地域の店舗も一緒に取り組む必要がある。

■Cグループ模造紙



D グループ

<地域交流拠点としてどのような取組・活動があるとよいか>

○毎週定期的なイベントがあると良い。(マルシェやフリマ、ビアガーデンなど)

- ・毎週決まった曜日にイベントがあるように設定すると、定着するのではないかな。
- ・農家さんの廃棄野菜などが買えると良い。
- ・夏場はビアガーデンなどもできると良い。
- ・マルシェやフリマは多世代が来やすいのではないかな。

○身体を動かすイベント

- ・身体を動かすことは全世代楽しめることなので、ヨガや気功などをやっているに参加しやすいのではないかな。
- ・スケボーやボッチャなど新しいスポーツが楽しめる設備があると良い。若い人がスポーツを楽しめるようになるとう良い。
- ・よさこいは昔から区内でやっているなので、素地があり、声をかければやりやすい。

○厚別川でウォーターガーデン

- ・豊平川緑地でやっているようなウォーターガーデンを厚別川河川敷でできると、夏場の子供たちが楽しめるのではないかな。
- ・川沿いに出店を設置し、にぎわいをつくれるとう良い。
- ・河川敷の火器使用については、規制緩和につながるような試験的な取組ができると良い。

○雪だるまコンテスト

- ・冬場のにぎわいが少なく感じる。
- ・雪だるまをそれぞれが作って並べるようなイベントがあっても良いのではないかな。手軽に誰でも作れて、子供がつくったものを親は見に行くのではないかな。
- ・カーリングのような冬のスポーツを楽しめる場所があると良い。
- ・雪合戦大会も盛り上がるのではないかな。
- ・冬のビアガーデンも話題になるのではないかな。

○若い世代の意見を聞く

- ・若者の文化が育っていくような環境があると良い。
- ・若者の参加しやすい場所や時間帯での開催を想定するべきである。
- ・若者が地元で楽しめるものが必要である。
- ・若い人たちがやりたいこと、興味のあることにチャレンジできる場所が必要である。

○若い世代のサポート体制

- ・清田区では、企業と連携はよくしているので、動きやすいのではないかな。
- ・拠点のにぎわいづくりは町連が持ち回りで担当すると良いのではないかな。
- ・資金調達がしっかりできるような仕組みが必要である。

○拠点における設備について

- ・拠点の設備については、“若い世代が使いやすい”という視点は強調されているが、高齢者の視点が少ないように感じる。清田区も高齢化が進んでいくので、高齢者が使いやすいベンチなども必要である。

○区役所から区民センターまでのつながりづくり

- ・目的がないと区民センターまで歩くことは難しいと思うので、区民センターや厚別川でイベントなどがあると良いのではないかと。
- ・イベントなどをやるときは、市民交流広場、区民センター・厚別川、その間の宮田屋の駐車場や幼稚園の駐車場、空き地などを活用して、歩いて楽しい道をつくと良い。
- ・広場までは車で来る人が多いと思うので、さまざまなところでイベントをやるならば駐車場の確保が必要である。

■D グループ模造紙



(4) 第4回きよた暮らしラボ（意見交換会）の開催

1) 開催概要

日 時：令和4年2月19日（土）13：30～15：30

場 所：清田区役所 大会議室

参加者：20名（会場：12名、オンライン8名）

事務局：札幌市政策推進課 4名

清田区 3名

株式会社グローバルデザイン 安達、酒本、松田、高橋、深津、青竹

2) プログラム

時間	内容	
13：30	開会	・開会、あいさつ
13：35	情報提供	・第3回の振り返り 地域交流拠点としての魅力を高めるために どのような活動・取組があると良いか
14：00	休憩	
14：10	意見交換	・オープンスペースなどを活用した 取組や活動のアイデアのタネをふくらませる
15：30	閉会	



3) 説明資料



意見交換

テーマ

オープンスペースなどを活用した
取組や活動のアイデアのタネをふくらませる



<アイデアのタネ>

- ① オープンカフェ
- ② きよたミニ道の駅マルシェ
- ③ 道に愛称をつける
- ④ 歩いて楽しいイベント
- ⑤ 冬のにぎわいづくり

オープンカフェ **つながりをつくる** **賑わいをつくる**

<アイデア>

- 市民交流広場を中心に区民センターに向かう道路沿いもしくは駐車場にオープンカフェを設置

<+αのアイデア>

- キッチンカーを並べても良い。
- テーブルと椅子、Wi-Fiなどの環境を用意してみると、さまざまな使われ方をするのでは。
- 合わせて郷土館も開館させる。
- 区民センターまでの空き地や駐車場を活用してみる。 など

関わってもらえそうな人・団体(いままでのワークショップの結果から)

- 宮田屋珈琲/きよたスイーツ店/コココア など
- 実施場所(いままでのワークショップの結果から)
- 市民交流広場/宮田屋珈琲駐車場/清田幼稚園駐車場 など

きよたミニ道の駅マルシェ **賑わいをつくる**

<アイデア>

- 清田の農産物やスイーツを販売するマルシェを開催
- その場で食べられるような飲食機能をつける

<+αのアイデア>

- 毎週〇曜日、など定期的に開催してみる
- 車で来れるような体制づくり
- 子どものお店体験など、子どもが楽しめるコンテンツ仕掛け
- テントを張るなど、アウトドアとしても楽しめるなど良い。 など

関わってもらえそうな人・団体(いままでのワークショップの結果から)

- 区内の農家さん/きよたスイーツ店/コココア など
- 実施場所(いままでのワークショップの結果から)
- 市民交流広場 など

道に愛称をつける つながりをつくる

<アイデア>

- 区役所から区民センターに向かう道に親しみやすい愛称をつける

<+αのアイデア>

- 地区を「あしりべつ」を入れた名称に集える。
- 区役所を出発点として歩きながら愛称を決める。
- 期日を設けて各日で歩いてもらい意見をもらうなども考えられる。
- 旧道には「あしりべつ桜基本」という愛称がつけられているため区民センター前の道路に愛称を付ける。 など



関わってもらえそうな人・団体(いままでのワークショップの結果から)

- 小中学生、高校生、大学生、親子連れ など
- 実施場所(いままでのワークショップの結果から)
- 旧道、区民センター前の道路 など

歩いて楽しいイベント つながりをつくる

<アイデア>

- 区役所から区民センターもしくは厚別川遊歩道を歩くきっかけとなるイベントを開催する

<+αのアイデア>

- 既存のイベント「旧道・桜ウォーキング&花見会」と共同実施する。
- スタンプラリーを用意する。
- 橋の名前を学びながら郷土館に向かうような学びのあるウォーキングイベント
- あしりべつ川沿いで水と親しめるイベントを実施
- 写真の撮り歩きをしてSNSに投稿し、教えポイント探しや情報発信につなげる など



関わってもらえそうな人・団体(いままでのワークショップの結果から)

- まちづくり区民会議、あしりべつ郷土館、町内会、川の会、大学生、小中学生、あしりべつの歴史に興味のある人、関係局(河川) など
- 実施場所(いままでのワークショップの結果から)
- 区役所から区民センターまでの道、厚別川遊歩道 など

冬のにぎわいづくり 賑わいをつくる

<アイデア>

- 雪を楽しむ遊びやスポーツをテーマにしたイベントを実施

<+αのアイデア>

- 雪合戦大会
- スノーボードやカーリングなど冬のスポーツを楽しむ場所があると良い。
- 厚別川沿いで雪だるまを並べコンテストを開催
- スノーシューで森林を歩く
- 極寒の焼き肉やビアガーデン など



関わってもらえそうな人・団体(いままでのワークショップの結果から)

- まちづくり区民会議、飲食店、町内会、小中学生、親子連れ、など
- 実施場所(いままでのワークショップの結果から)
- 市民交流広場、厚別川遊歩道 など

意見交換

アイデアをふくらませる視点

- 協力してほしい人・団体は？
- どこで実施したら効果的？
- どのくらいの時期にやると効果的？
- かかる費用はどこから用意できそう？
- 必要な手続きや調整が必要なことは？

など

意見交換

- ① 関心の高いテーマごとにグループを分かれて意見交換
- ② ファシリテーターよりグループごとの発表
- ③ 「やってみたいもの」「やれそうなもの」にシール投票！

シールは一人6票

もっともやってみたい！…シール3枚

まあまあやってみたい…シール2枚

やってみたい…シール1枚




4) 会議結果

- ・5つに分類した取組・活動のアイデアのタネをもとに、対面グループ3つ、オンライングループ2つに分かれて意見交換を行なった。
- ・参加者にシール投票してもらい、次年度に実験的に行う取組の重みづけを行なった。
- ・シール投票は、次年度やってみたいもの、地域交流拠点清田のまちの価値につながるものを把握するために行った。(投票数が高いものを次年度必ず行うものではない)
- ・シールは1人6枚で内訳は「もっともやってみたい:3点」「まあまあやってみたい:2点」「やってみたい:1点」とした。
- ・オンライン参加者からはファシリテーターが投票先と点数を聞き取ったうえで行なった。
- ・投票結果をみると、次年度は「愛称づくりも含めた歩くイベント」や「オープンカフェとミニマルシェ」などを取り入れた実験的取組を企画・実施することが考えられる。

アイデアのタネ (これまでのアイデアを分類)	投票数
①オープンカフェ	36票
②きよたミニ道の駅マルシェ	(オープンカフェ:12票、マルシェ:24票)
③道に愛称を付ける	37票
④歩いて楽しいイベント	(愛称づけ:14票、歩くイベント:23票)
⑤冬のにぎわいづくり	33票

※取組の内容が近いもの(①と②、③と④)は合算して集計

①オープンカフェ

- ・採算性や集客の面から難しいのではないかな。
- ・まずは区役所に人を集め、“健康・スポーツのエリア”を充実させた方が良い。
- ・区役所周辺のほかのイベント(マルシェなど)と連動させて実施させるのであれば、良い。
- ・ウォーキングイベントと同時期にできるのであれば歩道や区民センター駐車場に、ベンチ・テーブルを置く。歩いている人が休憩することができる。

②きよたミニ道の駅マルシェ

- ・区役所と連動し、市民交流広場で実施する。
- ・まずはきよたマルシェの振り返りを行い、利点と課題を出して企画を練ることが必要。
- ・毎週開催を目標とし、まずは月に1回とするなど、定着させることを前提とした実施が理想である。
- ・市民の得意なことやサークル活動を巻き込むコンテンツができると良い。

③道に愛称をつける

- ・エリア全体で「あしりべつ」という名称をつける。
- ・道の愛称はワークショップや公募でつける。
- ・愛称づくりは、既存の「旧道・桜ウォーキング&花見会」と連携して行と良いのではないかな。

④歩いて楽しいイベント

- あしりべつ川や緑地を生かしたものとする。
- 四季の特性を生かしたイベントができるので時期は問わない。
- すでにウォーキングの取組が行われているので、その団体や川の取組を行なっている団体と連携し、実行委員会のようにすると良い。
- 区民まつりなどのイベントと連携し、第2会場のようにしても良い。
- オープンカフェ、ミニ道の駅マルシェと近い時期にできると良い。

⑤冬のにぎわいづくり

- あしりべつ川周辺を会場とし、多世代が楽しめる雪遊びができるようにする。
- 冬休みに子どもと保護者で参加しやすいと良い。
- 国際大学などにボランティアで運営してもらえると良い。
- 実行委員会のようなものをつくり、イベント開催のノウハウを伝えていけると良い。
- 入浴券・スイーツ引き換え券をもらえたり、食を楽しめたりできると良い。

<グループごとの意見>

A-①グループ

<オープンスペースなどを活用した取組や活動のアイデアのタネをふくらませる>

○道に愛称をつける、歩いて楽しいイベント

<実施に向けた方向性>

- ・愛称づくりは、既存の「旧道・桜ウォーキング&花見会」と連携して行う。
- ・清田に住む親子世代が参加できるように、スタンプラリーで楽しめるようにする。
- ・オープンカフェ、ミニ道の駅マルシェと近い時期にできると良い。

<開催時期>

- ・「旧道・桜ウォーキング&花見会」を毎年4月、5月に行っている。
- ・4月～5月にかけて厚別川の河川上にこいのぼりも掲げている。既存の催しも見ることができる良い。
- ・春先から夏にかけての時期にウォーキングイベントを行うのが良いのではないかと。
- ・「旧道・桜ウォーキング&花見会」と絡めて、清田6号線の愛称づくりを行う。
- ・ウォーキング参加者から愛称を募集する。
- ・道の愛称づくりはまちの価値を高めることにつながる取組・活動になると思うが、緊急性はない。それよりも、区役所から区民センターまでの魅力づくり大切である。

<実施場所>

- ・旧道、清田6号川(区役所～区民センター)、厚別川、国道36号などをルートにする。
- ・コカ・コーラの付近に吉田用水跡がある。あしりべつ発祥の歴史を物語っているため歩くルートにする。

<実施体制>

- ・愛称づくりやウォーキングイベントはNPO 法人あしりべつ川の会と連携して取り組む。
- ・イオン北海道も情報発信などで協力できる可能性がある。

○オープンカフェ、きよたミニ道の駅マルシェ

<実施に向けた方向性>

- ・ウォーキングイベントと近い時期にできると良い。
- ・オープンカフェは区民に「いつも何かやっている」と思ってもらえるようにする。
- ・恒常的(月1回など)に行うことを目指す。

<開催時期>

- ・ウォーキングイベントと近い時期にできると良い。
- ・オープンカフェは一度きりのイベントではなく、日常的に行われていると良い。

<実施場所>

- ・区役所周辺の魅力づくりや人が集まる場を創るため、市民交流広場で行う。
- ・市民交流広場だと、使用許可や駐車場の確保などもしやすいのではないかと。
- ・ウォーキングイベントで区役所と区民センターの一体性を創るようにする。
- ・ウォーキングイベントと同時期にできるのであれば歩道や区民センター駐車場に、ベンチ・テーブルを置く。歩いている人が休憩することができる。
- ・オープンカフェのほか、有明方面の農産物を提供するマルシェ的要素も行う。
- ・居心地の良い空間とするためにオープンカフェの取組をきっかけに、市民交流広場を芝生にする。

<実施体制>

- ・宮田屋珈琲など近隣の飲食店、農家の方々と連携して行う。
- ・近隣の飲食店からイスやテーブルを借りることができるが良い。

■A-①グループ模造紙 (Zoom 画面共有にて打ち込み)

意見交換

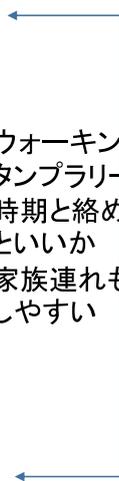
道に愛称づくり (区役所～区民センター)

- ・ 開催時期
 - ・ 桜ウォーキング(4、5月)を現在している
 - 参加者に愛称を募集する
 - ・ 春先～夏にかけての時期がいいか
- ・ 場所、ルート
 - ・ 吉田用水の付近、コココーラの裏に記念碑などある
 - ・ 旧道～R36(こいのぼりの時期)
- ・ 体制(どんな関わりが良いか)
 - ・ 桜ウォーキングと連携する～イオンさん情報発信協力
 - ・ NPOあしりべつ川の会との連携

オープンカフェ、マルシェ

- ・ 開催時期(月1回など定期にできることを目指して)
 - ・ いつもなにかやっている感じ
 - ・ マルシェ的な要素を織り交ぜるのはどうか
- ・ 場所
 - ・ 市民交流広場がやりやすい(カフェのため芝生にするといい)
- ・ 体制(どんな関わりが良いか)
 - ・ 宮田屋さん、テーブル・椅子設置(歩きながらたちよる)、近隣飲食店

ウォーキング(スタンプラリー)の時期と絡めて行うといいか
家族連れも参加しやすい



0

A-②グループ

<オープンスペースなどを活用した取組や活動のアイデアのタネをふくらませる>

○道に愛称をつける、歩いて楽しいイベント

<実施に向けた方向性>

- ・清田区では魅力的な場所は多くあるが周知が出来ていないため、情報発信を行うべきである。
- ・学生などの若い世代にも情報が伝わるように学生達と協力してイベントを行う。
- ・若者をターゲットにして清田の素敵な場所をSNSで発信する。
- ・北星学園大学のボランティア部で清田区の写真を加工してインスタグラムで情報発信する。

<開催時期>

- ・イベントについて単発的なものではなく通年で行えるものが良い。
- ・歩いて行うイベントでは寒くなる前の紅葉や春の季節が良い。

<実施体制>

- ・北星学園大学のボランティア部の情報発信は役員達に説明している最中であり、来年度から活動できる可能性が高い。

○冬のにぎわいづくりについて

<実施に向けた方向性>

- ・冬にはイベントが少ないので通年でイベントが行われているイメージを持ってもらう。
- ・清田区には焼き肉店が多いので外で各焼き肉店の対抗戦などを行ったらよいのではないか。
- ・イベントを続けることで清田区以外の人も呼び込めるようにしたい。

<実施場所>

- ・市民交流広場で行うのはどうか。
- ・寒い中で暖かいものを食べるのと人が集まりやすいことから野外で行う。

<実施体制>

- ・各焼き肉店と協力できるとよい。

■A-②グループ模造紙 (Zoom 画面共有にて打ち込み)

道の愛称、歩いて楽しいイベントについて

①時期について

- ・ 通年
- ・ 寒くなる前の紅葉の季節、春・秋など年2回?
- ・ SNS映えするような景観づくり

②協力する団体や人

- ・ SNS等を活用して公募を行う(キーワードを設定する)

③実施箇所

- ・ SNS映えする場所
- ・ 清田の今ある素敵な場所を写真に撮り、Instagramで発信する(若者をターゲットにする)

冬のにぎわいづくりについて

①時期について

- ・ 焼肉イベントを行うなら、冬が良い
- ・ 現在冬に行える場が少なく、動機付けになる

②実施箇所

- ・ 町の中央に限らず、清田にはいいところがたくさんある
 - ・ 清田には焼き肉店が多く、焼き場を屋外に設置する。
- にぎわい、交流の場となり、清田以外の人を呼び込める機会になる

Bグループ

<道に愛称をつける>

○エリア全体

- ・エリア全体で「あしりべつ」という名称をつける。
- ・エリアを考える部会などをつくる。

○道の愛称

- ・区民センターのところに人がたくさん歩くと良い。
- ・区民センターの拠点性を高めたい。

○エリアの名称と通りの名称を考える

- ・ワークショップや公募などで愛称を考える。

<歩いて楽しいイベント>

○いつ

- ・春は桜、初はあしりべつ川、秋は紅葉、冬は歩くスキーなど四季折々でバリエーションができるのではないかな。

○どこで

- ・あしりべつ川緑地を活用した歩くイベントを実施する。
- ・緑地をもっと活用させたい。

○だれが

- ・清田 Hi 遊会は清田区で既存の「旧道・桜ウォーキング&花見会」の取組を行なっているので、それを発展させて実行委員会に拡大しても良いのではないかな。
- ・川の会にも参画してもらおうと良い。
- ・野鳥の会など写真を撮りながら歩いている人もいる。

○どんな風にやるか

- ・理想は道路を通行止めにしてやりたい。
- ・歴史を学べるような取組にもつなげたい。
- ・ヤマベの放流などと合わせて実施することも考えられる。
- ・区役所でやっているお祭りの第2会場的に道を使えると良い。区民まつりと連携できると良い。
- ・子どもたちが来るようなイベントも必要である。

○イベントの拠点

- ・休憩場所など郷土館を絡めたイベントとなると良い。
- ・宮田屋の駐車場をスタートとしてはどうか。
- ・レンガ倉庫を活用してアンテナショップなどにすると良いのではないかな。

○こんな整備が必要

- ・あしりべつ川沿いを白旗山まで歩道を整備する。
- ・緑地の入り口を整備することも必要である。
- ・拠点には駐車場が必要である。
- ・緑地をもう少しきれいにして、歩きやすいようにしたい。

■Bグループ模造紙



Cグループ

<冬のにぎわいづくり>

○裏テーマ

- ・裏テーマとして地域の後継者探しにつなげたい。

○開催時期

- ・準備や天候があるので、まずは1回開催したい。

○参加者

- ・冬休みは子どもの参加が見込め、子どもが参加するなら親もついてきてくれるのではないかな。
- ・高齢者も参加してほしい。

○運営

- ・国際大学の学生にボランティアを頼めると良い。
- ・大学の授業の一環として取り組んでもらえると尚良い。
- ・町内会連合会や消防団、体育振興会などと協力できると良い。
- ・運営を継続するには、実行委員会をつくり、ノウハウを伝えて人を育てていく必要がある。

○開催場所

- ・あしりべつ川周辺

○多世代が楽しめる雪遊びをする

- ・誰でも参加できるので、雪だるまをつくと良い。
- ・宝探し付かんじきウォーク
- ・雪合戦大会は雪玉ではなく、柔らかいゴム玉のようなものを使うと良い。
- ・ドッジボール
- ・子どもから高齢者まで多世代が楽しめるものがあると良い。
- ・冬のオリンピックのようにつながるものがあると良い。

○楽しみとセットにする

- ・景品を見つける楽しみ
- ・ガチャのケースを活用して何がでるかお楽しみにする。
- ・入浴券やスイーツの引換券を渡す。
- ・バーベキューなど食の楽しみがあると良い。
- ・地域のお店と連携して出店してもらえると良い。

○その他の検討事項

- ・清田区も子どもが少なくなっているため、チームで参加してもらうことが難しいかもしれない。チームで参加ではなく、イベントに来た人でチームを組んで楽しめると良い。
- ・休憩する場所や駐車場を確保する必要があるが、幼稚園や区民センターの駐車場を使えないかな。
- ・区民センターの調理室で温かいものを提供できると良い。

■Cグループ模造紙



D グループ

<オープンカフェ>

○エリアをつなげる取組

- ・“人が集まるエリア”と“健康・スポーツのエリア”のハードやソフトが充実してからオープンカフェなどでつなげる取組を行なった方が効果的ではないか。
- ・“健康・スポーツのエリア”も運動器具などを充実させるなどが必要である。
- ・人を集めるということが第一関門であると思うので、まずは区役所に人を集めることに尽力した方が効果的ではないか。
- ・区役所に人を集める取組と並行して、歩きやすい道づくり、ベンチやテーブルを設置するなどの取組が進められると良い。
- ・緑地の自然はとてもきれいなので、マルシェなどの開催と連動して歩くと値引きサービスがあるなどのインセンティブがあれば、歩くのではないか。

○集客が弱い懸念

- ・きのとやにもオープンカフェがあるが、使われていないように感じる。交通量もあるので、落ち着かないのではないか。
- ・オープンカフェに事業者が出店してもらうには、利益が上がるものではなくてはいけないが、利用者が少ないのではないか。

<きよたミ二道の駅マルシェ>

○場所

- ・区役所の前が良い。
- ・天候が悪いときは区役所の中でもやれると良い。
- ・3階の渡り廊下の眺めが良いので、活用できると良い。
- ・区役所の裏の高台にオープンカフェがあると眺望が良い。

○きよたマルシェの知見を生かす

- ・きよたマルシェは単発でやっていたので、継続性が薄かったのではないか。
- ・きよたマルシェをやってみて出た課題を改善していけると良い。

○定期的を開催することを前提に定着を目指す

- ・まずは月に1回開催を目指してやってみて、段階的に回数を増やすと良いのではないか。
- ・定着させるための長期的なプロセスを考えられると良い。
- ・短時間で負担なくできるプログラムづくりが必要である。

4-5 ニュースレターの作成

第1回・第2回の意見交換会終了後、第3回・第4回の意見交換会終了後に意見交換の結果を周知するためのニュースレターを作成し、配布した。

■ニュースレター令和4年1月号
(表面)



地域交流拠点清田の機能向上を考える意見交換会 「きよた暮らしラボ (きよラボ)」が始まりました！

地域交流拠点清田（以下、『清田』と表記します。）である清田区役所周辺の将来イメージや必要な機能・活動などについて意見交換を行う「きよた暮らしラボ (きよラボ)」がスタートしました！

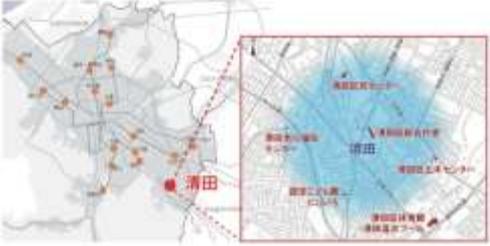
●これまでの『清田』での取り組み

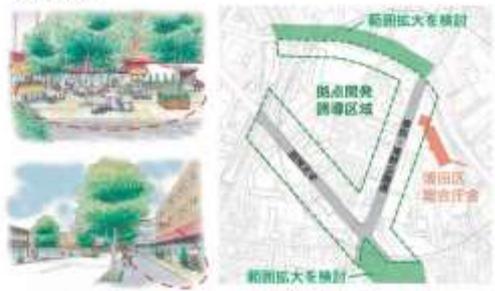
札幌市では、地域の豊かな生活を支える中心的な役割を担う拠点として『清田』を含む市内17カ所を地域交流拠点として位置付けています。

地域交流拠点開発誘導事業

にぎわい・交流が生まれる空間などの開発を誘導してきましたが、一般的に誘導には一定の時間がかかります。





空間整備イメージ

●『清田』の機能向上を考える流れ

意見交換会 (きよラボ)

地域住民や各関係者が『清田』の将来イメージや必要な機能などを考える意見交換会

<実施回数>
全4回の意見交換会を予定

アンケート調査

18～75歳の清田区民1,500名を無作為抽出し、アンケート調査を実施

<実施期間>
令和3年9月29日～10月20日

<回収数>
677件 (回収率：45.1%)

調査結果から清田区の属性ごとの将来の暮らしのイメージ (ペルソナ) を作成

『清田』を中心とした暮らし方をイメージ

『清田』に必要な機能を検討

『清田』の市民主体となった使いこなしを考える

第1回	・10年後の清田の暮らしをペルソナを元に具体的なシーンをイメージ ・暮らしのシーンから地域交流拠点の使い方を整理	開催結果は裏面をご覧ください
第2回	・求められる地域交流拠点の機能を検討 ・拠点の機能やオープンスペースを活用しながら市民主体でできる取組のアイデア	
第3回	・地域交流拠点の魅力を高めていくために始める取組や活動	
第4回	・オープンスペースなどを活用した取組や活動のアイデアの具体化 ・意見交換の総括	

第3回：1月29日(土)
第4回：2月19日(土)に実施予定！



『清田』の機能向上案の作成！

●第1回・第2回意見交換会（きよらボ）の結果

第1回（令和3年11月6日）・第2回（令和3年12月18日）の意見交換会では、2030年の清田のまち（全体）のイメージについて意見交換をしました！



地域が考える 2030年の清田のまち（全体）イメージ

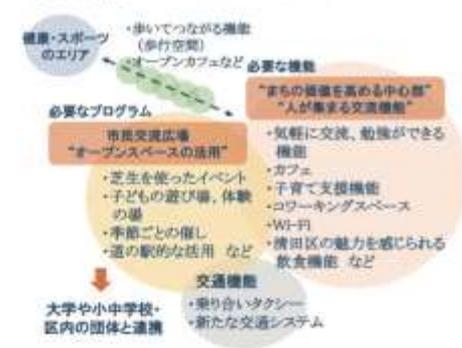
<区役所周辺の将来イメージ>



イメージにつながるキーワード（一部抜粋）

- 子育てがしやすいまち
 - ・地域全体で子どもを見守り、育てられる
 - ・空き家を使うなどで移住がしやすく、自然の中で子育てができる など
- 多世代が健康に暮らせるまち
 - ・住替えがしやすく、高齢になっても暮らしやすい など
- 豊かな自然を次世代につなぐゼロカーボン・環境にやさしいまち
 - ・豊かな自然を生かした魅力がある
 - ・ゼロカーボンなどの環境保全の取組をしている など
- 厚別発祥の地としての歴史・文化を育むまち
 - ・厚別神社や郷土館など歴史や文化を育み、子供たちに伝えていく など

<必要な機能とプログラムのイメージ>



必要な機能のアイデア（一部抜粋）

- コミュニティ機能
 - ・勉強や仕事ができるイスとテーブル
 - ・おしゃべりができる場所 など
- 飲食機能
 - ・清田の食の魅力を感じられると良い など
- 交通機能
 - ・健康・スポーツのエリアなど周辺エリアと歩いてつながる機能
 - ・タクシー乗り場 など

必要なプログラムのアイデア（一部抜粋）

- 子どもたちの体験の場
 - ・子どもたちが自然と触れ合ったり、大学生が勉強を教えたりするような取組があると良い
- 拠点を活用するマネジメントの必要性
 - ・拠点を活用していくため、区内の団体がつながっていくと良い

きよらボ開催のご案内

開催日時（予定）：
 ●第3回 令和4年1月29日（土）13:30～15:30
 ●第4回 令和4年2月19日（土）13:30～15:30
 開催場所（予定）：清田区役所3階 大会議室

申込先（受託事業者）
 株式会社 Glocal Design（松田）
 電話 011-272-0333 メール info@glocal-d.com

参加メンバー＆意見募集中！

きよらボに参加していただける方は随時募集中です。また、参加が難しい方からのご意見を募集します。いただいたご意見はきよらボでの意見交換の参考とさせていただきます。右記コードからお申し込みいただくか、申込先までご連絡ください。



次号のニュースレターでは第3回・第4回きよらボの結果をご案内します。（令和4年3月頃を予定）

問い合わせ先：札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 政策推進課
 電話 011-211-2139 FAX 011-218-5109
 ホームページ <https://www.city.sapporo.jp/kikaku/machidukuri/kyoten-kiyota/kiyota.html>



(表面)

令和4年
3月号

きよた暮らしラボ ニュースレター



地域交流拠点清田[®]の機能向上を考える意見交換会「きよた暮らしラボ (きよラボ)」を実施しました！※以下、『清田』と表記します。






地域交流拠点周辺図

●『清田』の機能向上を考える流れ

『清田』を中心とした暮らし方をイメージ	第1回 11月6日	・10年後の清田の具体的な暮らしのシーンをイメージ ・暮らしのシーンから地域交流拠点の使い方を整理	 開催結果はニュースレター 令和4年1月号をご覧ください。
『清田』に必要な機能を検討	第2回 12月18日	・求められる地域交流拠点の機能を検討 ・拠点の機能やオープンスペースを活用しながら市民主体でできる取組のアイデア	
『清田』の市民主体となった使いこなしを考える	第3回	・地域交流拠点の魅力を高めていくために始める取組や活動	
	第4回	・オープンスペースなどを活用した取組や活動のアイデアの具体化 ・意見交換の総括	

●第3回まとめ

開催日時：令和4年1月29日(土) 13:30～15:30
 開催場所：清田区役所大会議室 参加者：20名(会場：13名、オンライン7名)

地域交流拠点としてどのような取組・活動があるとよいか意見交換を行い、出されたアイデアを5つに分類しました。



分類
 オープンカフェ
 マルシェ+飲食関係
 道に愛着をつける
 歩いて楽しいイベント
 年のにぎわいづくり

●第4回まとめ

開催日時：令和4年2月19日（土）13：30～15：30
開催場所：清田区役所大会議室 参加者：20名（会場：12名、オンライン8名）



第4回目では、前回の意見交換会で5つに分類した取組・活動のアイデアのタネをもとに、対面グループ3つ、オンライングループ2つに分かれてオープンスペースなどを活用した取組や活動のアイデアを具現化していきました。

みんな
で投票
した！

投票結果

※参加者がやってみたいもの、「清田」のまちの価値につながるものを把握するために実施しました。

オープンカフェ 12票



市民交流広場や周辺の歩道や駐車場、空き地にオープンカフェを設置する。テーブルや椅子、Wi-Fiなどの環境を整備する。

【具体的なアイデア】

- ・区役所周辺のほかのイベント（マルシェなど）と連動させて実施すると良い。
- ・ウォーキングイベント時にベンチ・テーブルを歩道や区民センター駐車場に置き、歩いている人が休憩できる。

きよたミニ道の駅マルシェ 24票



清田の農産物やスイーツを販売するマルシェを定期的で開催し、その場で食事できる機能や子どもが楽しめる機能を整備する。

【具体的なアイデア】

- ・市民交流広場や区役所の中で実施する。
- ・市民の得意なことやサークル活動を巻き込むコンテンツができると良い。
- ・毎週開催を目標とし、まずは月に1回とするなど、定着させることが理想である。

冬のにぎわいづくり 33票



雪を楽しむ遊びやスポーツをテーマとしたイベントを開催する。こどもからお年寄りまで誰もが楽しめるイベントとする。

【具体的なアイデア】

- ・厚別川周辺を会場とし、多世代が楽しめる雪遊びができるようにする。
- ・実行委員会をつくり、イベント開催のノウハウを伝えていけると良い。
- ・入浴券・スイーツ引き換え券をもらえたり、食の楽しみがあると良い。

道に愛称をつける 14票



区役所から区民センターへ向かう道に親しみやすい愛称をつける。実際に歩いてみて愛称を考えるイベントを実施する。

【具体的なアイデア】

- ・道の愛称はワークショップや公募でつける。
- ・愛称づくりは、既存の「旧道・桜ウォーキング&花見会」と連携して行うと良いのではないか。



歩いて楽しいイベント 23票



厚別川遊歩道を歩くきっかけとなるイベントを開催する。（花見や写真の撮り歩き、歴史学習など）

【具体的なアイデア】

- ・厚別川や緑地を活かしたものとする。
- ・ほかのイベントと合わせてできると良い。
- ・すでにあるウォーキングの団体や川の取組を行なっている団体と連携し、実行委員会をつくと良い。

今後は、これまでの意見交換を踏まえて実験的な取組を行っていく予定です。
取組の具体的な内容は引き続き地域の方々と一緒に検討していきます。



雪を楽しむイベント



マルシェの開催



ウォーキングイベント



子どもの遊び場

問い合わせ先：札幌市 まちづくり政策局 政策企画部 政策推進課
電話：011-211-2139 FAX：011-218-5109
ホームページ：
<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/machidukuri/kyoten-kiyota/kiyota.html>

今後の取組については広報さっぽろ5月号清田区版（予定）やホームページで案内します。



5章 地域交流拠点清田における機能向上案の検討

5-1 機能向上案検討の考え方

地域交流拠点清田の機能向上案は、清田区・区役所周辺の特性や課題、今後のライフスタイル（国の政策等）などを踏まえて検討する。また、アンケート調査結果や意見交換の意見・アイデアなども踏まえて機能向上案を検討する。

清田区・区役所周辺の特性

- 区役所がまちの顔
2013～2014年度のきよたまちづくり区民会議の議論では、清田区役所がまちの顔と認識されている（交流、文化活動、時間消費、交通機能、情報発信機能）
- まちの発展を支えた厚別（あしりべつ）川周辺
あしりべつの地名の由来となった厚別川、開拓功労碑（旧道沿い清田小学校前）、厚別神社、
区民センター内に歴史を伝える郷土館
- 公共空間、公園・河川などのオープンスペース
区役所に隣接して、市民交流広場が立地
旧道～清田6号線（緑道）、あしりべつ発祥の地（清田小学校前）、カフェなど
現在の区民センターが位置する周辺には、厚別川、清田公園、コミセングラウンドなどの公園緑地や河川環境があり、ウォーキングコースなどになっている
- 子育て世代の居住
子育て世代が多く居住
- 大規模な商業施設の立地
イオンモール札幌平岡などの立地
- 地域の方々・企業・団体など多様な主体

清田区・区役所周辺の課題

- 公共空間の活用不足
良好な公共空間やオープンスペースがありますが、日常的な活用までは至っていない
- 区役所～区民センターまでの一体性不足
吉田用水跡地などがあるが、主要な公共機能を備える区役所とのつながりが不足している
- 区民の足となる公共交通の利便性不足
区役所とその他の地域を結ぶ公共交通の利便性が不足している

郊外部に求められる機能（国の政策等）

- ・働く・住むが融合した職住近接に対応
 - ・オープンスペース（街路、公園緑地、水辺、農地、民間・公共空間）の活用または整備
 - ・歩いて楽しい歩行空間
 - ・サテライトオフィス機能
 - ・郊外の多機能化で、地元生活圏の形成
- ※アフターコロナのまちづくり
（国土交通省）

アンケート調査結果

- ・区役所の交流スペースで休憩を兼ねた活動
- ・厚別川沿いをウォーキング
- ・生鮮品の買い物は区役所にある宅配BOXを利用
- ・健康づくりも合わせて徒歩とバス移動のライフスタイル

意見交換会の結果

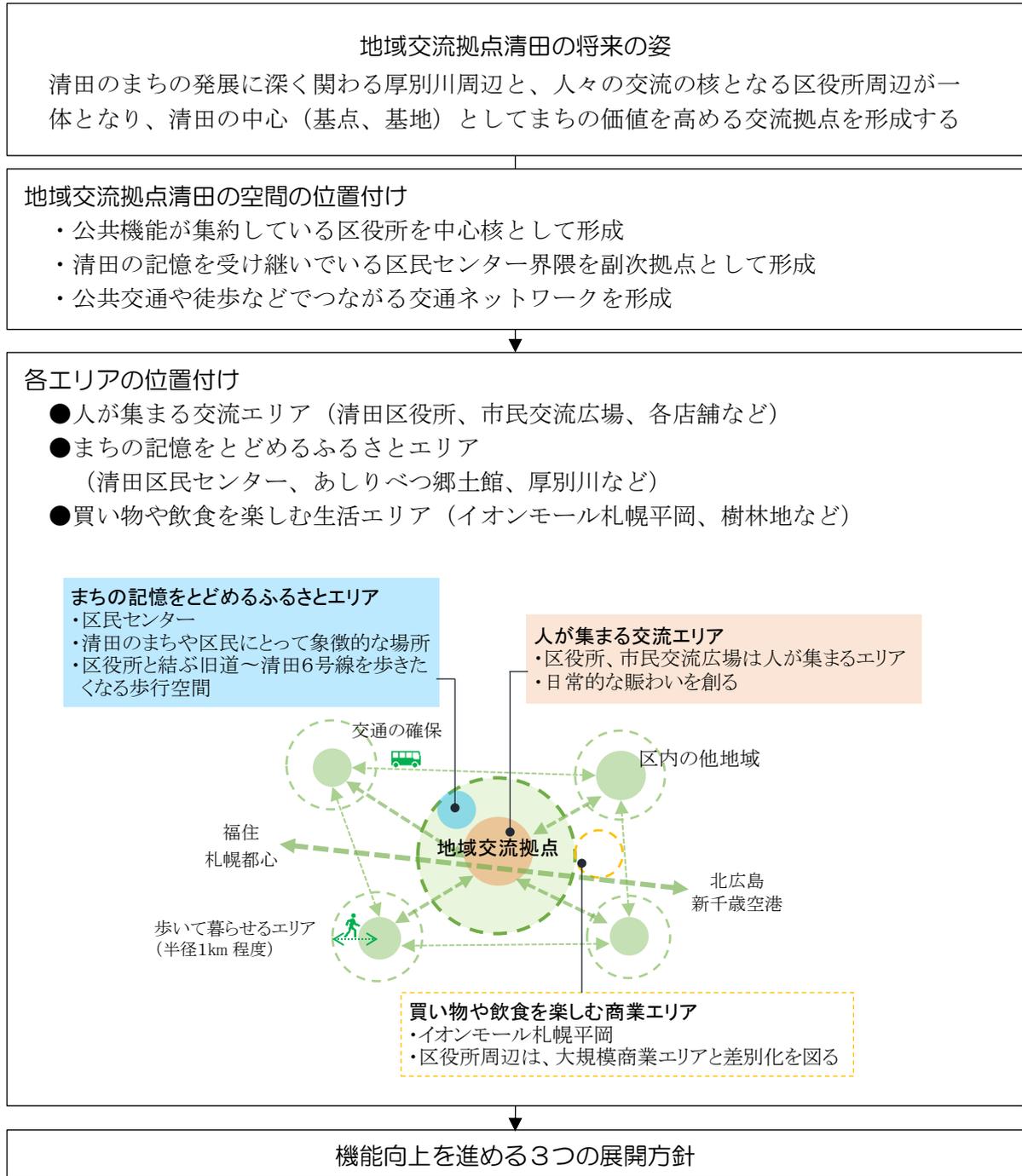
- ・区役所・市民交流広場：人が集まる拠点
- ・区民センター周囲：清田を物語る資源の集積拠点（健康維持等にも活用）
- ・イオンモール札幌平岡：商業機能の拠点
- ・これからの暮らしを考えたハード機能
- ・人を集めるきっかけとなるソフト機能（ソフトからハードも考える）
- ・活動・取組を動かす仕組み

地域交流拠点清田の将来の姿
機能向上案を検討

5-2 地域交流拠点清田の将来の姿

機能向上案検討の考え方を踏まえて、地域交流拠点清田の将来の姿を展望する。将来の姿は以下のように考えられる。

なお、将来の姿は機能向上案を検討するために設定する。



5-3 機能向上を進める3つの展開方針

地域交流拠点清田の将来の姿の実現に向けた展開方針を検討する。

清田区役所周辺の特長や今年度の調査結果等を踏まえると、「ハード面」と合わせて「ソフト面」の向上が必要である。さらにソフト面を具体的に実施及び運営していくための「マネジメント」が必要と考えられる。

こうしたことから、以下を地域交流拠点清田の『機能を向上』させるために必要な要素とし、展開方針として整理する。

地域交流拠点清田の機能を向上させるために必要な要素

- ハード面の向上（施設空間の改善・拡充に向けた整備等）
- ソフト面の向上（施設や公共空間等を活用した活動・取組）
- マネジメントの推進（活動・取組を実施運営するための仕組み）



機能向上を進める3つの展開方針

（1）まちの価値を高める施設空間の整備【ハード】

- ・清田区役所、市民交流広場など人が集まる公共空間や、厚別川河川空間など清田が誇る良質な環境を持つオープンスペースにおいて、施設空間の機能向上を図る。

歩いてつながる機能

歩行空間の緑化
緑道の整備
ベンチ等の休憩施設
案内誘導サイン

区民センター
郷土館、用水跡地
公園緑地、河川空間

厚別川

つながり

区役所

旧道

賑わい

人が集まる交流機能(区役所)

交流・滞留機能(屋内)

・カフェ、コワーキングスペース、学習スペース、図書スペース、キッチンスペース、Wi-Fi

情報発信機能

・清田の情報提供コーナー、デジタル技術活用

子育て支援機能

・キッズルーム、屋内の遊技施設

飲食機能

・清田の食材を使った地産地消レストラン

交通機能

・公共交通の待合スペース
・交通ネットワークの形成

イオンモール札幌平岡

・樹林地、アオサギ保全
・カフェ、レストラン

オープンスペース機能(市民交流広場)

交流・滞留機能(屋外)

・芝生広場、緑地、子どもが遊べるスペース、半屋外の屋根やひさし

休憩機能

・ベンチ、テーブル

子育て支援機能

子育て支援機能

・屋外の遊戯施設

（2）まちの価値を高める活動・取組【ソフト】

- ・清田区役所、市民交流広場などを活用した日常的な『賑わいづくり』、歩行空間や厚別川河川空間などを活用して区役所方面との一体性を創る『つながりづくり』に関する活動・取組を展開する。
- ・ソフトの活動・取組の展開にあたっては、「継続性」、「新たな使い方」、「連携体制」を考慮して試行する。

（3）まちの価値を高める活動・取組の運営・コーディネート【マネジメント】

- ・関係各所との連絡調整や企画検討のコーディネートなどによって、活動・取組の実践を支援する。

5-4 地域交流拠点清田の機能向上案

3つの展開方針に基づき、地域交流拠点清田の機能向上案を整理する。

なお、本項では官製の公共空間における機能向上案を整理することとし、買い物や飲食を楽しむ商業エリア（イオンモール札幌平岡が立地）については、今回は検討の対象外とする。

(1) まちの価値を高める施設空間の整備【ハード】

ハード面の機能向上は、人が集まる交流エリアに該当する清田区役所、市民交流広場、まちの記憶をとどめるふるさとエリアに該当する清田区民センターや清田公園、厚別川河川空間などで展開する。

1) 人が集まる交流機能

清田区役所は行政活動の主幹であり、区民の様々な活動を支える場として機能している。また、清田区役所に付帯する市民交流広場では、これまでもきよたマルシェやきよフェスなど、屋外における区民活動を支える場として機能しており、季節ごとの賑わいを生み出す場でもある。

さらにまちの価値を高めるために、以下の5つの機能について向上を図ることが考えられる。

①交流・滞留機能（屋内）

- ・ 区民の気軽な休憩や会話などの交流を促すカフェ
- ・ リモートワークなど職住近接の暮らしを支える
コワーキングスペース
- ・ 子ども達や学生などの若い世代の利用ニーズに
応える学習スペース
- ・ カフェと併せた交流や生涯学習の機会を支える
図書スペース
- ・ 食育及び地産地消の機会や区民活動の幅も広げる
キッチンスペース
- ・ コワーキング機能と併せたWi-Fiなど通信環境の整備
- ・ 居心地の良い環境の創出、多世代が安全に過ごせる場と
なる芝生広場
- ・ 芝生広場と合わせて心地の良い緑陰や防風・防火機能も
期待できる緑地帯の整備
- ・ 居心地の良い環境で親子の交流と子どもの発育を促す
子どもが遊べるスペース
- ・ 風雨や風雪を防ぎ、様々な活動・取組の幅を広げる
半屋外の屋根や庇



②情報発信機能

- ・区役所周辺を訪れることでまちの情報を入手できる
情報提供コーナーの設置
- ・デジタルサイネージやデジタル技術活用による
情報提供の補完



③子育て支援機能

- ・子育て世代の来庁を支援する授乳室や給湯設備等も
備えたキッズルーム
- ・待ち時間中の子どもの遊びの支援や来庁目的ともなる
屋内の遊戯施設



④飲食機能

- ・子どもの食育や今後のライフスタイルを創る清田の
食材を使った地産地消レストラン



⑤交通機能

- ・区民の足となるバス待ち合いなど公共交通の待ち合い機能
- ・自動運転（Maas）の導入等も視野に入れた交通ネットワー
クの形成



4) 歩いてつながる機能

清田区役所及び市民交流広場は、賑わいを創り出す場となることが考えられる。また、清田区民センターや厚別川周辺は、まちの記憶を伝える場だけでなく良質な自然環境を有しており、清田区役所及び市民交流広場とともに賑わいを創り出す特性も備えていると考えられる。

それぞれを連絡する旧道、清田6号線、厚別川などの機能を向上することで、歩きたくなくなる道を形成するとともに賑わいとつながりを生み出し、まちの価値を高めることになると考えられる。

- ・北野里塚旧道線・道道341号との交差点付近などの歩行空間の緑化
- ・清田6号線、厚別川管理道路等の散策路整備
- ・歩行中の休憩や外出を支える休憩施設の整備
(ベンチ等の設置)
- ・歩行者等に対して目的地や清田の資源位置を伝える案内誘導サインの整備



(2) まちの価値を高める活動・取組【ソフト】

ソフト面の機能向上は、清田区役所、市民交流広場などを中心に、清田区民センター駐車場など普段から人が集まりやすい場で、日常的な『賑わいづくり』を創出する活動・取組を展開する。

また、厚別川やあしりべつ郷土館が立地している地域は、清田のアイデンティティを残す大切な地域であることから、区役所方面との一体性を生み出す『つながりづくり』に関する活動・取組を展開する。

なお、活動・取組の内容によっては、賑わいづくり、つながりづくりに共通するものもある。

加えて、まちの価値を高める観点からは、「継続性」「新たな使い方」「連携体制」を考慮した『賑わいづくり』『つながりづくり』を試行することが考えられる。

1) 賑わいづくり

『賑わいづくり』は主に清田区役所、市民交流広場、清田区民センター駐車場など公共空間やオープンスペースを活用し、日常的に人が集まる活動・取組を展開する。

①オープンカフェ

・市民交流広場や、歩行空間等のオープンスペースを活用して実施

・月に1回など定期的に実施可能な規模で試行

※区役所庁舎の屋内余剰スペースも活用することで、屋内外の機能充足を検証

【想定される連携・協力団体】

宮田屋珈琲／きよたスイーツ加盟店
／コカ・コーラ など

【想定される実施場所】

市民交流広場／清田区民センター駐車場
／清田6号線／店舗駐車場 など



②きよたミニ道の駅マルシェ

- ・市民交流広場などを活用して清田の野菜等を販売して、日常的な利用を向上
- ・テントやタープの設置、焚き火などのアウトドア要素を取り入れる

※区役所庁舎の屋内余剰スペースも活用することで、屋内外の機能充足を検証

【想定される連携・協力団体】

区内の農家／きよたスイーツ店／コカ・コーラ など

【想定される実施場所】

市民交流広場／店舗駐車場／清田6号線 など



③冬の賑わいづくり

- ・市民交流広場等を活用して、多世代が冬を楽しめる雪遊びやスポーツなどを実施

【想定される連携・協力団体】

まちづくり区民会議、店舗、町内会、小中学生や親子など一般区民 など

【想定される実施場所】

市民交流広場／厚別川管理道路 など



2) つながりづくり

『つながりづくり』は、清田区役所、市民交流広場が位置する人が集まる交流エリアと、まちの記憶をとどめるふるさとエリアの両エリアを連絡する歩行空間や河川空間を活用する。

①道の愛称づくり

- ・旧道、清田6号線、厚別川などを活用し、歩くイベントと連携して実施

【想定される連携・協力団体】

まちづくり区民会議、あしりべつ郷土館、町内会、
NPO 法人あしりべつ川の会、
開発局河川事務所（河川管理者）など

【想定される実施場所】

北野里塚旧道線／清田6号線／厚別川管理道路 など



②歩いて楽しくまちの記憶を学ぶ

- ・歩くイベントを主催する既存の団体と連携しながら実施
- ・移動可能なベンチやテーブルなどの休憩施設を歩くイベントに合わせて設置し、歩行者等の休憩・滞留を促進

【想定される連携・協力団体】

まちづくり区民会議、あしりべつ郷土館、NPO 法人あしりべつ川の会、清田Hi遊会、
北海道コカ・コーラボトリングでつくる実行委員会（事務局：清田区地域振興課）、
開発局河川事務所（河川管理者）など

【想定される実施場所】

北野里塚旧道線／清田6号線／厚別川管理道路 など



(3) まちの価値を高める活動・取組の運営・コーディネート【マネジメント】

ソフト面の機能向上は、公共空間やオープンスペースを活用した活動・取組を行うものである。実施にあたっては、活動・取組の内容に即した個人・団体等の協力と連携が必要である。

また、具体的な実践では、関係各所との連絡調整や必要に応じて先導役となる役割も必要と想定される。こうしたマネジメントも機能向上案の一つと捉えて、活動・取組を推進する。

1) プロジェクトメンバーにて主にソフトの活動・取組を試行

ソフトの活動・取組の内容に応じた官民を横断したプロジェクトメンバーを組成し、企画検討や活動・取組の運営を進める。

活動・取組の初動期においては事務局にあたる役割を据えて、プロジェクトメンバーとの意見交換や企画検討を支援することも必要と考えられる。

プロジェクトメンバーの組成においては、活動・取組ごとに協議会や実行委員会形式とすることが想定される。

- ・協議会、実行委員会などで企画検討・運営
- ・事務局にあたる役割を据えて企画検討などを支援

2) 連携・協力体制の調整、運営コーディネート

活動・取組の企画検討から実践は、清田にゆかりのある個人・既存団体など、多様なメンバーとの連携・協力体制を築くことが必要と考えられる。

特に一時的なイベントではなく、一定期間に渡って試行する活動・取組の実践が考えられるもの（オープンカフェやマルシェなど）については、実施期間中もプロジェクトメンバー各者へ連絡調整を行う必要性が高い。

こうした点から、今後の継続的实施を踏まえる場合においても、事務局にあたる役割の運営コーディネートが必要と考えられる。

- ・事務局にあたる役割からプロジェクトメンバー等への管理調整

■展開する機能向上案

エリアの位置付け	ハード面の機能向上	ソフト面の機能向上	マネジメントの推進
人が集まる交流エリア	<p>人が集まる交流機能 交流・滞留機能(屋内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ ・コワーキングスペース ・学習スペース ・図書スペース ・キッチンスペース ・Wi-Fi <p>情報発信機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清田のまちの情報提供コーナー ・デジタル技術活用 <p>子育て支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズルーム、屋内の遊戯施設 <p>飲食機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清田の食材を使った地産地消レストラン <p>交通機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の待ち合い機能 ・交通ネットワークの形成 <p>オープンスペース機能 交流・滞留機能(屋外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場 ・緑地帯の整備 ・子どもが遊べるスペース ・半屋外の屋根や庇 <p>休憩機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ、テーブル <p>子育て支援機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋外の遊戯施設 	<p>賑わいづくり</p> <p>○オープンカフェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民交流広場等のオープンスペースを活用して実施 ・月に1回など定期的に実施可能な規模で試行 <p>○きよたミニ道の駅マルシェ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民交流広場等を活用して、清田の野菜などを販売し、日常的な利用を向上 <p>○冬の賑わいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民交流広場等を活用して、多世代が冬を楽しめる雪遊びやスポーツなどを実施 <p>つながりづくり</p> <p>○道の愛称づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧道、清田6号線、厚別川などを活用し、歩くイベントと連携して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・清田にゆかりのある個人・団体との連携・協力体制の調整、運営コーディネート ・分野を横断したプロジェクトメンバーで、主にソフトの活動・取組を試行(協議会や実行委員会)
まちと人をつなげるエリア	<p>歩いてつながる機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間の緑化 ・緑道・散策路の整備 ・休憩施設の整備(ベンチ等の設置) ・案内誘導サインの整備 	<p>○歩いて楽しくまちの記憶を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩くイベントを主催する既存の団体と連携しながら実施 ・移動可能なベンチやテーブルなどの休憩施設を設置 	
まちの記憶をとどめるふるさとエリア	<p>オープンスペース機能</p> <p>休憩機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベンチ、テーブル(仮設を想定) 		
買い物や飲食を楽しむ生活エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・各取組の情報発信等で連携 		

6章 地域交流拠点清田に求められる今後の取組

6-1 今年度の主な成果

(1) 区民の地域交流拠点清田に対するニーズを把握

今年度は、清田区民 1,500 名を対象としたアンケート調査ときよた暮らしラボ（意見交換会）を実施し、現在の清田区における区民の生活スタイルや地域交流拠点清田の機能向上に向けた区民のニーズなどを把握した。

アンケート調査より把握した事項

<区民の生活スタイル>

- ・通勤や買い物などにも車(マイカー)移動が中心
- ・日常の買い物(生鮮食品など)は自宅近くのスーパーを利用、衣類や書籍など多くの商品をゆっくり見たい場合はイオンモール札幌平岡を利用
- ・日常の歩行時間は比較的少なく、運動時間も 30 分未満 など

<地域交流拠点清田に対するニーズ>

- ・駐車場など車で来訪する人を想定した機能が必要
- ・清田区の豊かなみどりや水辺のうるおいなどを活用した憩いの場のニーズが高い
- ・人が集まり話し合うことや、インターネットを用いながら活動することができる交流機能のニーズが高い など

意見交換会より把握した事項

<区民の生活スタイル>

- ・高齢になって車移動が難しくなることを想定すると、バス交通の充実が必要
- ・豊かな自然を感じながら子育てができ、自然環境を子供たちの世代に引き継ぐ
- ・厚別川の遊歩道ではウォーキングなどで使っている人も多い など

<地域交流拠点清田に対するニーズ>

- ・清田区総合庁舎は清田区のにぎわいと情報の拠点として、清田区の魅力を伝える場
- ・子育て支援機能や子どもの遊び場
- ・自動運転バスなど新たな交通システムの導入
- ・厚別川や区民センター周辺はあしりべつの歴史を伝える大切なエリア
- ・リモートワークに対応したコワーキングスペース（イス・机、Wi-Fi など） など

(2) 地域交流拠点清田の活用に向けたプレイヤーの発掘

きよた暮らしラボ（意見交換会）は全4回実施し、29名の参加があった。参加者29名のうち、アンケート調査での案内や広報さっぽろでの告知などから、有志で参加した一般参加者は15名であった。15名の属性は大学生から70代まで世代や職業も幅広く、多様な属性の区民から関心が高いことがうかがえる。



きよた暮らしラボでの意見交換の様子

意見交換会では、きよたまちづくり区民会議の幹事のメンバーや区内の事業者・大学の教授などと一般参加者が同じテーブルで話し合いが行われ、今までのきよたまちづくり区民会議が

中心となって進めてきたさまざまな取組をさらに発展させるような多くのアイデアが出された。このように地域交流拠点清田の機能向上に対して、区民の関心は高く、積極的に取組む意向のある区民も多くいることがわかった。

来年度以降、清田区の中心部としてまちの価値を高めるための地域交流拠点における活動を行ううえで中心となって活動するメンバーになり得るプレイヤーが発掘され、連携すべき団体や企業とのネットワークができたことは大きな成果と言える。

(3) 機能向上案の検討

アンケート調査や意見交換会の意見などから、地域交流拠点清田の機能向上案を検討し、整理した。清田区民が清田区での暮らしにおいて大切にしていることや今後の清田区での暮らしに求めているものなどから、地域交流拠点清田の将来の姿を以下のように設定した。

- 人が集まる交流エリア（清田区役所、市民交流広場、各店舗など）
- まちの記憶をとどめるふるさとエリア（清田区民センター、あしりべつ郷土館、厚別川など）
- 買い物や飲食を楽しむ生活エリア（イオンモール札幌平岡、樹林地など）

また、機能向上を進める展開方針として以下の3つを設定した

- (1) まちの価値を高める施設空間の整備【ハード】
- (2) まちの価値を高める活動・取組【ソフト】
- (3) まちの価値を高める活動・取組の運営・コーディネート【マネジメント】

来年度以降は、今年度検討した機能向上案を元にさらに具体的に機能について検証を進めていくことが想定される。地域交流拠点清田において大切にすべきことを踏まえた将来の姿を見据えながら、3つ展開方針について実践を行いながら議論を深めていくことが求められる。

6-2 地域交流拠点清田における今後の進め方

(1) 意見交換会の継続

今年度全4回実施したきよた暮らしラボでは、きよたまちづくり区民会議の幹事メンバーや区内の事業者・大学に加え、一般参加者を公募して意見交換を行なった。清田区では、以前から区民主体のまちづくり活動が積極的に行われ、企業や大学との連携にも取り組んできた経緯がある。今年度の意見交換会では、一般参加者の参加も可能となったことにより、さらに区民主体のまちづくりのネットワークを広げることが可能となった。今後の地域交流拠点清田の機能向上に向けた人材・団体のネットワークづくりのきっかけの場として、さらに多様な企業や団体、一般参加者の参加を進めることが効果的である。

<来年度以降の参加者として考えられる団体・企業など>

- ・北海道中央バスなどの交通事業者
- ・きよたスイーツを提供するスイーツ店
- ・きのとや、宮田屋珈琲など清田区総合庁舎周辺にあるスイーツ店・喫茶店
- ・清田高校/平岡高校/新栄高校など区内の高校 など

(2) 実証実験の実施

今年度検討した機能向上案を踏まえ、実際に地域交流拠点清田の機能向上に向けた取組を実証実験として行う。取組は、第3回・第4回の意見交換会であげられたアイデアを基にして実施することが想定される。

実施場所は清田区総合庁舎や市民交流広場、厚別川などが考えられ、歩道などのオープンスペースを使った実施も想定される。

アイデア	内容	具体的なアイデア	
		ハード機能	ソフト機能
①オープンカフェ 	市民交流広場や周辺の歩道や駐車場、空き地にオープンカフェを設置する。テーブルや椅子、Wi-Fiなどの環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキングイベント時にベンチ・テーブルを歩道や区民センター駐車場に置き、歩いている人が休憩できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 区役所周辺のほかのイベント(マルシェなど)と連動させて実施すると良い。
②きよたミニ道の駅マルシェ 	清田の農産物やスイーツを販売するマルシェを定期的で開催し、その場で食事できる機能や子どもが楽しめる機能を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 区役所と連動し、市民交流広場で実施する。 居心地の良い環境の創出、多世代が安全に過ごせる場となる芝生広場 風雨や風雪を防ぎ、様々な活動・取組の幅を広げる半屋外の屋根や庇 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の得意なことやサークル活動を巻き込むコンテンツができると良い。 毎週開催を目標とし、まずは月に1回とするなど、定着させることが理想である。
③道に愛称を付ける 	雪を楽しむ遊びやスポーツをテーマとしたイベントを開催する。こどもからお年寄りまで誰もが楽しめるイベントとする。	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者等に対して目的地や清田の資源位置を伝える案内誘導サインの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 厚別川周辺を会場とし、多世代が楽しめる雪遊びができるようにする。 実行委員会をつくり、イベント開催のノウハウを伝えていけると良い。 入浴券・スイーツ引き換え券をもらえたり、食を楽しめたりできると良い。

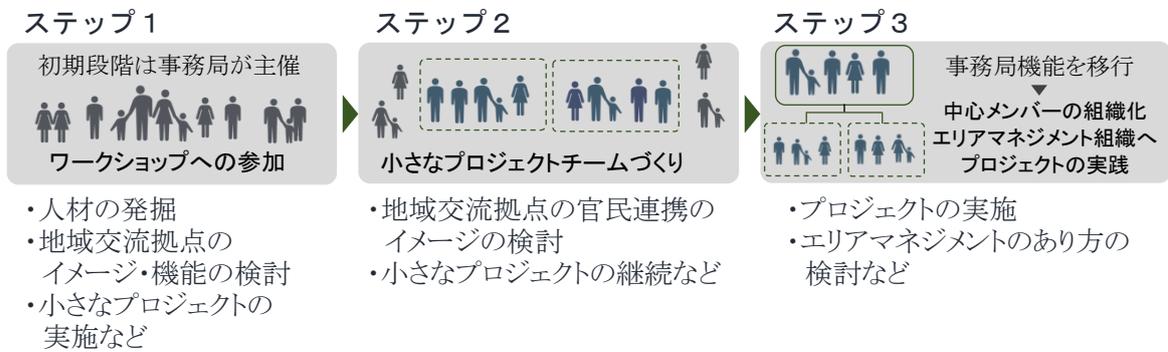
アイデア	内容	具体的なアイデア	
		ハード機能	ソフト機能
④歩いて楽しいイベント 	区役所から区民センターへ向かう道に親しみやすい愛称をつける。実際に歩いてみて愛称を考えるイベントを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・北野里塚旧道線・道道341号との交差点付近などの歩行空間の緑化 ・歩行中の休憩や外出を支える休憩施設の整備（ベンチ等の設置） ・歩行者等に対して目的地や清田の資源位置を伝える案内誘導サインの整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の愛称はワークショップや公募でつける。 ・愛称づくりは、既存の「旧道・桜ウォーキング&花見会」と連携して行うと良いのではないか。
⑤冬のにぎわいづくり 	厚別川遊歩道を歩くきっかけとなるイベントを開催する。（花見や写真の撮り歩き、歴史学習など）	<ul style="list-style-type: none"> ・厚別川や緑地を活かしたものとする。 ・居心地の良い環境で親子の交流と子どもの発育を促す子どもが遊べるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のイベントと合わせてできると良い。 ・既にあるウォーキングの団体や川の取組を行なっている団体と連携し、実行委員会をつくと良い。

(3) 地域交流拠点清田のマネジメント体制の構築

1) 今後の想定されるマネジメント体制の構築に向けた動き

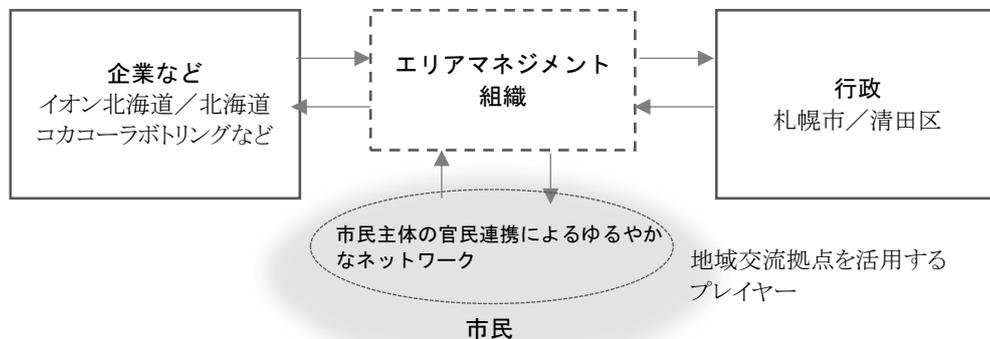
今後の地域交流拠点清田の機能向上においては、持続的になぎわいづくりの体制や仕組みの検討が求められる。区民主体のエリアマネジメントを行う体制づくりを進めていく必要がある。

今年度は、きよた暮らしラボでの意見交換を通して、地域交流拠点清田の将来イメージや機能向上の展開方針を整理し、地域交流拠点清田のまちづくりに関心の高い人材を発掘することができた。来年度以降は小規模な実証実験（プロジェクト）を実施しながら、連携のイメージを作っていくことが求められる。さらに今後の発展としては、プロジェクトの中心メンバーを組織化しエリアマネジメントを担うネットワークとして機能していくことが想定される。



2) 地域交流拠点清田における目指すべきエリアマネジメントの姿

地域交流拠点清田の活用においては、区民と行政、企業や団体など多様な主体との連携が求められる。そのため、地域交流拠点を活用するプレイヤーと関連する企業や団体、それを支援する行政とのつながりをコーディネートし、地域交流拠点清田における情報や人の動きをマネジメントする組織を構築することが望ましい。



令和3年度 地域交流拠点清田の機能向上に向けた調査検討業務 報告書概要版（機能向上案の検討）

清田区・区役所周辺の特徴

- 区役所がまちの顔
きよたまちづくり区民会議で、清田区役所がまちの顔と認識
- まちの発展を支えた
厚別（あしりべつ）川周辺
あしりべつの地名の由来となった厚別川、区民センター内に歴史を伝える郷土館など
- 公共空間、公園・河川などのオープンスペース
区役所に隣接する市民交流広場
旧道～清田6号線（緑道）、あしりべつ発祥の地（清田小学校前）、カフェなど
- 子育て世代の居住
- 大規模な商業施設の立地
イオンモール札幌平岡等の立地
- 地域の方々・企業・団体など多様な主体

清田区・区役所周辺の課題

- 公共空間の活用不足
良好な公共空間やオープンスペースの日常的な活用
- 区役所～区民センターまでの一体性不足
主要な公共機能を備える区役所とのつながりが不足
- 公共交通の利便性不足
区役所とその他の地域を結ぶ公共交通の利便性が不足している

郊外部に求められる機能（国の政策等）

働く・住むが融合した職住近接に対応
オープンスペースの活用または整備
歩いて楽しい歩行空間
郊外の多機能化で、地元生活圏の形成
※アフターコロナのまちづくり
（国土交通省）

アンケート調査結果

- ・区役所の交流スペースで休憩を兼ねた活動
- ・厚別川沿いをウォーキング
- ・生鮮品の買い物は区役所にある宅配BOXを利用
- ・健康づくりも合わせて徒歩とバス移動のライフスタイル

意見交換会の結果

- ・区役所・市民交流広場
…人が集まる拠点
- ・区民センター周囲
…清田を物語る資源の集積拠点
（健康維持等にも活用）
- ・イオンモール札幌平岡
…商業機能の拠点
- ・これからの暮らしを考えたハード機能
- ・人を集めるきっかけとなるソフト機能
（ソフトからハードも考える）
- ・活動・取組を動かす仕組み

地域交流拠点清田の将来の姿

清田の中心として
まちの価値を高める
交流拠点を形成

【空間の位置付け】

公共機能が集約されている
区役所を中心核として形成

清田の記憶を受け継いでいる
区民センター界隈を副次拠点として形成

公共交通や徒歩などでつながる
交通ネットワークを形成

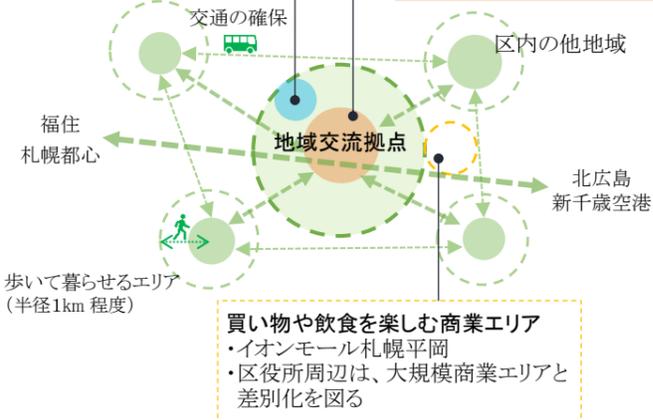
【各エリアの位置付け】

まちの記憶をとどめるふるさとエリア

- ・区民センター
- ・清田のまちや区民にとって象徴的な場所
- ・区役所と結ぶ旧道～清田6号線は歩きたくなる歩行空間

人が集まる交流エリア

- ・区役所、市民交流広場は人が集まるエリア
- ・日常的な賑わいを創る



買い物や飲食を楽しむ商業エリア

- ・イオンモール札幌平岡
- ・区役所周辺は、大規模商業エリアと差別化を図る

機能向上を進める3つの展開方針

(1) まちの価値を高める施設空間の整備【ハード】

歩いてつながる機能

歩行空間の緑化/緑道の整備/ベンチ等の休憩施設/案内誘導サイン

区民センター
郷土館、用水跡地
公園緑地、河川空間

つながり
厚別川

賑わい
区役所

旧道

人が集まる交流機能(区役所)

- 交流・滞留機能(屋内)
- ・カフェ、コワーキングスペース、学習スペース、図書スペース、キッチンスペース、Wi-Fi
- 情報発信機能
- ・清田の情報提供コーナー、デジタル技術活用
- 子育て支援機能
- ・キッズルーム、屋内の遊技施設
- 飲食機能
- ・清田の食材を使った地産地消レストラン
- 交通機能
- ・公共交通の待合スペース

イオンモール札幌平岡
・樹林地、アオサギ保全
・カフェ・レストラン

オープンスペース機能(市民交流広場)

- 交流・滞留機能(屋外)
- ・芝生広場、緑地、子どもが遊べるスペース、半屋外の屋根やひさし
- 休憩機能
- ・ベンチ、テーブル
- 子育て支援機能
- ・屋外の遊戯施設

(2) まちの価値を高める活動・取組【ソフト】

- ・清田区役所、市民交流広場などを活用した日常的な『賑わいづくり』、歩行空間や厚別川河川空間などを活用して区役所方面との一体性を創る『つながりづくり』に関する活動・取組を展開
- ・ソフトの活動・取組の展開にあたっては、「継続性」「新たな使い方」「連携体制」を考慮して試行

『賑わいづくり』の活動・取組

オープンカフェ

- ・市民交流広場等のオープンスペースを活用して実施
- ・月に1回など定期的に実施可能な規模で試行

きよたミニ道の駅マルシェ

- ・市民交流広場等を活用して、清田の野菜などを販売し、日常的な利用を向上

冬の賑わいづくり ・市民交流広場等を活用して、多世代が冬を楽しめる雪遊びやスポーツなどを実施

『つながりづくり』の活動・取組

道の愛称づくり

- ・旧道、清田6号線、厚別川などを活用し、歩くイベントと連携

歩いて楽しくまちの記憶を学ぶ

- ・歩くイベントを主催する既存団体と連携して実施
- ・移動可能なベンチなどの休憩施設を設置

(3) まちの価値を高める活動・取組の運営・コーディネート【マネジメント】

- ・分野を横断したプロジェクトメンバーで、主にソフトの活動・取組を試行(協議会や実行委員会)
- ・清田にゆかりのある個人・団体との連携・協力体制の調整、運営コーディネート